斷審判ノ件 自第一号 至第四号

一大阪府上申板垣退助着阪ノ事情并ニ政黨景況ノ件 自第一号 至第六号 五

一板垣退助遭害ニ付探偵書 六

自由黨綜理板垣退助當縣下来遊中罹害ノ始末等追々申進置候儀モ有之処仍ホ警察報告書類去九日以降之分別冊一括トナシ差出候間去八日付ヲ以テ差出置候書類ト御照合正ニ御了知可然御取計有之度此段申進候也

明治十五年四月十四日　岐阜縣令小崎利準

内閣書記官長井上毅殿

四月九日

一一昨日先ヲ急ぎ帰宅いたしタル処
後命ニ入ル概況左ノ如し

一相原尚馨ハ明治十四年十二月八日比より横須
賀村加藤チエ方ニ寄寓セリ チエ及ビ横須賀
学校助教雅彩幹村（学校ハ永男院ト仮設し教村
ハ同院ノ侍医なり）其他近隣ノ風評ヲ探聞スしい
尚馨ハ極メテ謙遜辞讓ノ性質ナレドモ少シク経氣
ニテ初性ナリ而シテ性酒ヲ嗜マス碁ヲ好ミ囲
碁アしハ近隣ノ花井久三郎トヨリハ八十八年前ト
囲碁ヲ為シテ清光セリト
又左横須賀中用友ノ来訪ハ自己より性訪セし

極みなし只名古屋に二度行き候村
民ト厚ク交際シタルモノモナシ他ノ書状ノ来リシ僅
ニ数度ノミナリト云
寄留所ヲ訪ヒ候スルニ書籍数本（仙友及ビ弟ヨリ
ノ来状又ハ他校ノ教員ヨリノ家事ノ
校務ニ関セシモノニシテ更ニ今回ノ事情ニ関スル
ナシ）
形国紙三枚古稿伴二枚是袋ハ是古稿一
其ノ内只文仙友宛及ビ学校務事猶親幹
村学校委員吉田江州宛ノ書二封ヲ之
ヲ重押ス
因ニ云ク駿ハ三月九日ヨリ病気ニテ学
校ヲ出ルモ大痙病ノ為メ去ル百名古屋ヘ行

云フ出発セリ
明治九ノ刀ハ四月一日尾張国愛知郡尾頭所十
九番地平民古屋巳其寄山田伊義方ニテ金壱
条ニ付五銭ニ売リ名ニ表面ヲシテ経刀ハ拵ノ様
頭銘ニシテ目丹ハ鬼ナル由
今日午後四時ヨリ尾張国愛知郡尾頭所六十八番地
清井カネ方ニ着シ午後十時ヨリ何ニカ
出費シ翌二日午後十時ヨリ病発ス
此夕午後一時ヨリ同所金吉橋ニ於テ同郡
師範学校卒業生由今原ノ学校教員
名ノモノニ十名ニテ酒宴ヲ開キ（右二十名内同所
協同学校教員名古屋市愛知郡文方ニ止
宿スル形長某振治郡ノ名ノ如ハ

姓名ハ出分」閉富ノ上方殿ハ方殿ハ「恒右衛門」
方殿到着ノ節所持ハ風呂敷色ヲ袋アリ
其内ニハ著作ノ書類ヲ板ニ貼ヲ表紙ニ彩圓紙十枚
計リ色ヒリタル也
出立ノ節ハ吸筆等ノ品ハ存ヒナシ民者
一生一色セシトキハ又一番殿方ヘ出立シタル
中

相原方殿貴手

我事人ヲ中國ノ為メニ賊ノ誅シ死ス我ヲ後ハ御
方殿様ヲ等ハ力シテ以テ孝養スヘシ方殿
一世ノ恥ヲ他ハ述ヲ「うんと」ナシ
十五ヶ年ヲ以テ夜泡　方殿
方　玉殿

方殿
秋との
様との
方殿
隆との
中

ヲ殿少ヲ方殿勤ヲ殿中　完治
スヘシ方ヲ國賊板垣退助ヲ天誅スヘシ民
上ハ國ノ大典ヲ犯シ下ハ母殿様ヲ孝養スヘ
ヲ触ハス実ニ不孝ノ罪謝スヘシ辞ナシ少ヲ
キ殿ニ中苦労ヲ方ヲ掛ハ考誅ニ有ハ也年年ニ
優ハ「シ沖注斬ス

十五年二月二十日夜泡　方殿様

隆方殿様御下

竹上書封

封　月　表

生　表

[illegible]

相原仙友様

封　三月三十日夜

赤東寺殿

○

過日東寺ト称シ言ヲ夜此大事ヲ思ヒ考セシナリ左程ヲ思ヒ定メセシ事

東寺校ノ盛大ナルヲ小生ノ敬ナリ

又西封ハ過ヲ又ヲ書ヲ至ナレハ書ヲ使ヘ玉ハンヲ

三月三十日夜

赤東寺殿

相原様　赤東寺殿

[illegible]

封　月　表

雅部幹樹

吉田江門西君ヨリ下ル

生　表

三月三十日夜

赤東寺殿

一板垣氏西地ニ到ルノ途中ノ駅ニ於テノ愁

親今ノ概況ハ向キニ記スル通リニシテ今夜九十二名

出席ノ筈ニシテ今日ノ状況ニテハ除ノ外ニ感完

ノ業多ク奇事ヲ好ムモノ到席シタルモ如シ

板垣氏ハ義ハ賛成スルニ似タリ

此今夢ト雖モ金七拾余ヲ要ス人席費八拾銭

ナリトヲフ

又日地ヨリ西地ニテ陸セシモノハ林吉右事ノ外

八谷アリト雖モ名跡絶ヘタルモ該地ニ於テ
自由ニ墓ヲ加ヘルヲ許セシモノナリト云フ

一板垣氏頁傷ノ見解トシテ当家ハ高槻藩ヨリ浮
酒魚菓菓子ヲ贈答ス士族代言人（明治四年寄留）猪田久
敬ヨリ金ヲ預リタルカ

一当地ノ自由党係等ハ岩田徳義木多政直
伊藤一郎ニシテ主ニ学識モナリ資産モナク
先ツハ猪カ事トスルカ故ニ一般ニ土地ノ者ニ信セ
ラレス概テ板垣氏ヲ同事者流ノ様ニ思ヒ込
和年ノ後山路流ト同視シ居ルモノモアリト聞ク

一本ハ板垣氏ヲ訪ヒノ者ハ之ニ著セレモノ
器山名信茂玉造郡宮城村平民 潘 姓

此ニ入板地ヨリ来リ年後直ニ帰板ヨリ
ニ言ヒ名ヲ信茂大川筋士族 谷 主 吉

此モ東京ヨリ来ル板垣ト交誼厚キ由
大阪府平民二丁目平民 福 田 譲

仝 今村町二丁目平民 多 津 雅 之 助

石川名金沢旧北陸ノ報社 稲 垣 示

兵庫名淡路国三原郡西脇村平民 安 部 敬 馬

仝玉淵郡志紙村平民　青木茂七郎

上五名恒地より来る

上野国東西の井松嶋村平民　大島宇吉

鶴飼祖蔵

一又吹の米穀セシモノ

上野国四日市　山崎昇

上野国三河国豊橋

村西栗山る

上野国築屋町　松本西守

上野国三河国吉田

上野国六四郎

西西国筋より来る

モノ人品ハ上等ナルモ尾三地方より来るモノ

ハ続テ下等人多シト見受タリ

一当地ニ滞在スル白田業者ハ温和ノ渡シ

置ケリト之レハ恒地岩出入恐縮ノ者ト

恒地ニ森松ト云リニ唱ヘ他ニ投宿スル者

ヲ旅業ニテ厳重取締ル者ナリト云フ

四月十日

一板垣一行本縣来遊中景況為視察差出置キタル探偵人ノ復命書アリ別紙ニ讓ル

一本日来着セシ者左ノ如シ

東京本町所横網町　山下義英

高知縣土佐郡片町　平尾亮寿

〃香美郡山田野地村平民　井上平吉

壹和縣名古屋小嶋町士族　髙橋道一

〃吾妻町　水谷時冨

〃三河國知立平民　井上雅吉郎

〃　〃　〃　鷲野剣吉郎

〃　〃　〃　安森友吉郎

〃　〃　〃　山脈貫之助

同　同

上京師小路上ル　士族　林　彦一

下京南堀町　士族　浅森文一郎

谷座町津名郡志筑村平民　青木茂七郎　岸田　正

静岡町士族　授産社員　曽田豊吉郎　伝竹静枝

同

豊郡三河国多村平民　杉本角吉郎　陸米　廉吉

大坂府西成郡茨木村平民　伊森勢信

豊郡多米郡黒田村平民　春日井　享

大坂府豊島郡岡村士族　岡崎　経元

備後国根田郡士族　本多　立慶

豊郡多賀郡西脇村　士族　官簾

同三河国多村士族　村松　豊彦

亨郡士族　退職長男　板垣鉄吉郎

宗戸　直馬

口野　方

大井　茂

君塚知行

足立亀次

栗伊庄吉

岡本方俊

能勢源助

弘瀬重正

川口佳宏

島本楠弥吉

同 和田稲積
同 島地正存
同 寺田完
同 伊藤物紀
同 竹内栄久
同 林為哉
同 堀江貞考
同 松原鎮之助
同 河村良太郎
同 川本正路
同 信越四郎
同 国崎一之
同 安原喬顕

同 佐望義一
同 国沢定
同 与田植範
同 国沢孚植
同 塩見章
同 塩見興助
石川縣越中屋小新川郡生池村士族 濱田俊平
高知郡土佐郡土佐郡大川渕士族 谷流水
同 日野輝光
同 高知町士族 深尾重寛
同 江之口村士族 小栗篤三郎
一 本月夜ニ入リ奥宮検事宅ヘ石川縣士族小倉
其之外一人相越シ面会シ度キ趣先書翰ヲ

ノ通ス

四月十日

一本日来着セシ右ノ如シ

尊家御士族　柏井繁国

〃　〃　秋元里義

〃　〃　西原清夫

同追牛節士族　村田孝光

四月十日

一去ル八日事知知ヲ以派遣セシ警部補山崎西原

縣庁第セシ概要左ノ如シ

以究人相系尚襲ノ文仙吉ハ元名古屋区係

所ニ居住シ所用所長城所（勤シ以前ノ比所

小納戸役ニテ後ヲ改テ茅ノ勤役ヲナシ禄高

百五十石ヲ賜リ廃藩置縣ノ際非役トナリ

明治六年ノ頃農ニ帰シ安養現住所ニ移

那田氏村ニ在リテ同治八年張業ヲ職トナセリ

仙吉ノ家族ハ八人アリ長男尚襲ハ先妻ノ子次

男尚宝以下ハ後妻ノ子ニテ尚宝ハ明治十二

年九月同村士族石橋智空方ノ養子トナリ

家督相続ノ上同年十一月出系シ同家士族

中村修ノ周旋ニテ有栖川宮ノ家従ヲ勤居
シリ去ル十年八月親者病ノ者ヲ帰郷シ稲
自宅ニアリ内京セリ三男尚友ハ明十四年三月
比三河国西加茂郡弘度村ノ学校教員勤
居リシニ今回解職ス族名古屋区辰巳町斎藤
弥五六ノ養子セシト松浦中ノ学生殺ノ事件
ニ付中止ノ由ナリ四男尚義ニ妹共何トモ定
ニアラト
為聚ハ徒田又ヒ吳服ノ妹ナルニ依リ自然不和ヲ
生シ故ニ放蕩ナシ多リ金銭ヲ費セリトム由ニ
別ニ要スル婦アルヿナシ
尚聚ハ去九年五月又心友ノ申付ニテ金禄公債
ノ利子ヲ受領ニテ居リ直ニ物ヲ買ハ

学校ハ徒学モ甚ダ盛ナリ名ハ知ラズ
ナリ同人等姓名不詳ト伝ニ自由主義ヲ以薩州平戸
学校ニ到リ徒学シ居タル者十年三月西南騒擾
ノ件ニ鹿児島地方ハ賊カントスルモ其比薩兵ノ為
ヲ受ケ孤ニ逃走ノ際広島外ハ自首同然ニテ
家刑ヲ受ケ駅村送ヲ以テ解村セシモ免角内輪
釈放ナラサルヨリ家出シ所ハ徘徊中家迫シタル
件ハ人力車ヲ挽キタルヿモ有之内
明治十二年三月学校ニ入リ学ハ師範学校ニ入リ学ハ
三月卒業同月新潟学校ノ教員
トナリ同年七月比マテ奉職シ三河国同学校
教員ニ移シ同年十二月知多郡横須賀学校ノ
教員トナリ目俸金八円ニテ他ノ人ノ交際ニ

文書往復ヲアルヲ以セス然シモ同郷人ノ交際ハ夥多アルモ友トシテ吉ノ実ヲ挙ケルハ甚稀ナリ

行文和歌ノ用法ハ同郷士族長崎所住ノ小古郎七曲所名勢義静朝ノ所産京小金吉等ニシテ其他師範学校卒業生ニシテ名古屋本所石版社吉田道雄等ト懇親ヲ結ヒ居タル因

同郷師範学校卒業生和歌山県ニ在リ同所恨同学校教員長谷川儀右衛門本年四月ニ魚所金直樽ニ於テ死亡スルノ義ヲ中小学校（宛高福アリシニ依リ為聚ハ四月一日出発同ノ西色所移住民戸カネ方ニ泊ス同故同区花園所席貸業竹島屋吉岡利助方ヘ

登楼（宿泊所ニハ同区京町三町目百十七番屋安庵業相原為助ト記載アリ）シ娼妓芳吉ヲ招キ酒宴ノ后寝床ニ就キ小本二冊名ハ忘ル出シ読マザレバ明日ノ若支ニナルトシテ読書シ而シテ未吉ニ向ヒ客年ノ夏同区若松町席貸業茶屋菊菖蒲菊金ヘ再度招キタルヿアル旨申タレモ未吉ハ一回モ招カレタルヿナシモ他話シ等ハ之レナリ翌二日午前八時比帰ヘシリ其節仕掛金壱円出ス筈ニ成タリト

四月二日第五版社ニ於テ広告事評論中立政憲政談抜粋新聞明治日報日本立憲政党新聞朝地新聞毎日電報等購求シ其際中スニハ板垣ニ面謁シタリモ

絶て西倉スル能ハサリシ故ヲ述ヘ是非岐阜ト
於テ會同シタシ迚其自錆ヲ尋ネタルニ依リ
同社ニハ同地ノ岩間德義又ハ春陽舍ニ至リ
熟親會ノ模様ヲ承ハレヨトホタレハ直ニ同社ヲ
立出タリト
同ハ金直樹ノ親睦會（人名ハ右ノ中心者 線部書中ニアリ）
發起人長谷川倖吉郎也ハ尾直方
師範学校長境地無藏等ノ席上演説ヲナシ
クルモ尚製ハ黙止シ居タリト又常ニ板垣ハ国家
ノ進歩冥明等（ノ字ハ本所ニ在リ）本所石版社迫為孝ニ郎
ハ寸及ヘリト
尚製ガ曾テ交リタル他府多人ノ氏名ヲ筆記
シタルモノニ同多麻原小金吾ガ序文ヲ書

タルモノヲ抱ク居シリ其冊子ヲ時ニ知ル如ニ同ヲ
同原学校ニ於ヲ同ナレハ同郡安同郡ヲ郡ハ談
冊ノ医付方ヲ依頼シ置タリ
同郡士族三枚光右市岡新義ニ勝等社長
ニテ壽ヲ学術ヲ研究且釈睦スルノ目的
ニテ少年輩七十余人結合シテ都睦社ト名
クル社ヲ設立セシアリ尚製モ此ノ社員ノ
一人ナリシカ安年十月比入費ノ係ヲ辞キ
ヨリ嘱諭數派ニ分シ遂ニ解社セリ
尚製ハ性質謙和ニシテ人ニ劇論セシ
曾テナシ併シ自由主義ヲ唱ヘ獨立居
リ談量等ハ加入モセサル由ナリ

探偵上申書

高知縣士族板垣退助一行遊歴中探偵ノ節ヲ奉シ明治十五年三月廿六日午後八時書畧出發致候

多谷古屋已ヘ出張探偵スル筆其一行八同月廿五日三河國西尾ヲ發シ翌廿六日七ノ面ヲ四五海道左回ハ八日名古屋迄ハ舟ニ乗ス中回ハ自由党ノ景況ヲ探ルニ回ハ七日ヨリ數十名ニ立張ニ出張翌廿八日板垣ノ一行ニ從ヒ午後四時頃名古屋迄西奥町六番地平民加藤半平方ニ宿ス止宿ニタリ其門柱ニ自由党総理板垣退助君旅館ト書シタル標札ヲ掲ケアリ其家宿ハ自由党員等ノ旅館ニ出入スルモノ百ヲ以テ數ヘカラサル如シ而シテ翌廿九日午后一時今日本町博物館ニ於テ有志者相集ツテ懇親會

ヲ聞リ依テ卑職モ懇親會ニ加入セシムテ実ヲ詳細ニ探偵セント欲シ如何ノ方法ニテ加入スルヿヲ得ヘキヤヲ聞リニ愛岐日報社及ヒ右版社ノ両所ニ於テ其切符ヲ賣与スル趣ニ付両所ニ就テ尋訪スルニ二百名ヲ限リ賣与セシモ既ニ賣尽シ残符ナシ由故ヲ以會スルノ道ヲ失シ為メニ詳細ヲ探ルノ便ヲ失フニ至ラハ不都合ヲ釀スニ付種々方策ヲ以テ漸リ名會係員則チ今宿セシ者ニ説キ卑職ハ偽テ本藉高知縣ニテ当時三重縣伊勢國度會郡山田ニ寓スル士族本香必ニ有之今回板垣氏ノ遊歴ニ付各地ノ景況ヲ実視シタキ志願ニテ当名古屋迄ニ参リシモ既ニ懇親會ノ切符ハ賣尽シタル趣ニ付買求ノヿヲ不能付テハ陪會スルヿヲ不能遠路ノ心厭合ニ面迄ニ来リ先ツ景況ヲ実視セサルハ実タ遺憾ナレハ吾輩ノ意ノ慣来アリテ陪会能フ可キ様ニ尽力アラ

ンヿヲ求メタリシ家僕傳全ハ会員ノ意意ナルモノ自由党接待掛ノ一人ニテアリシヲ以テ容易ク諾セラレ已ニ午后一時ニ至レハ全ク会員ト偽ニ博物館ニ至リ会員ヲ以テ陪場スルヲ得タニ依テ金壱円ヲ授シ切符買求ノ以テ陪場スルヲ得タリ其博物館ニ至ルニ門前ニ花木ヲ以テ門ヲ造リ自由党ノ三字ヲ書シタル提灯ヲ数十張門ノ内外両服ニ掲ケタリ先ツ堂ニナルヿヲ知ルニ至ル而テ堂ニ陪ハヤ百モナリ板垣退助竹内綱両名ハ馬車ニ会乗シテ来リ玄関前ニテ下車シ席外ノ室ニ着シ后者志者ノ輩マルヲ視テ堂席上ニ名列シタリ會場ニ陪ハ有志者二百三十余人ナリ席定リテ名古屋区自由党員七八名各板垣ノ左右ニ歴アリシヲ視シ同ヲ朗読スル士族光華起ツテ板垣ニ代ツテ招待ヲ辱

フレ此盛會ニ際シテ厚意ノ尚スヘキノ演説ノ述ヘ次テ政党団結セサル可カラザルノ趣意ヲ述フ曰ク今日ハ義長参孫政治ヲ左右スル我国三千五百万ノ同胞之レヲ自内ノ政ト謂ヒ決シテ然ラス其自由ヲ伸ント欲セハ立憲政体タラシメスンハアル可ラス之レ政党団結セサル可カラサルノ所以尚長々義長参孫ヲシテ政事ヲ乱ラシムルニ於テハ大害ヲ生シ如ク亦起モ古ヒテ弊ヲ生シ池水腐ツテ虫ヲ生スト曰ヘリ之ヲ浮説セント欲セハ亦新鮮ニシテ着換ヘ腐敗ヲ流散シテ清ク交換セサル可ラス之レ如ク政党団結シ党流ノ人望ニヨツテ時ニ交換シ以テ自由ヲ得ルノ好結果ヲ生ス所以ヲ説キ尚大政大臣ヲ政事注文所ニ関ヲ注文員受所ト称スルモ不可ナキ所以ヲ説キ第次ヲ板垣退助起ツテ壇場ニ上リ演スル所ハ我党ハ天皇陛下ヲ尊敬シ奉ルヿモ深シ如ク賢明ナル聖天子タルハ深ク信シ奉リテ疑ハサル處ナリ之所以ハ昨初年三月ニ天地神祇ニ誓ハシセラレタル五ケ条ノ御誓文アリ后ヲ徴兵令アリ地券発行令アリ八年四月ノ詔書アリ之レ深ク信シ奉ルノ所以ナリ吾レ亦自由ヲ尊フヿ最モ深シ既ニ諸君ニ知ラレテ以来十有余年ノ日星雲ヲ破ルモ深ク情ニ深ク慮リ以テ今日諸君ニ接スルヲ得タルナラン情ニナリ慮リナクシハ今日諸君ニ接スルヿハ無ノハ僥倖アルナラン然ルニ世ニ我党ヲ称シテ粗暴過激ノ党ナリト称スル者モアルヤニ聞リ之レ呂テ言ノ甚タシキ者ト云ヘシ吾輩ヲ以テ顧ルニハタ官権ヲ唱ヘ朝ニ民権ヲ唱フルモノアリ之レヲ称

レテ粗暴區區ノ党ト云モ迂言ニアラス而テ道徳ノ人君社會ニ尽リ可ラサル而文学智力ヲ研磨スルニ欠ク可ラサルヲ説キ尚吾素志ハ自由ヲ尊フノ人ヲ國政ニ而ル后諸君ニ報ユルニ才ヲ尽テセントス而政党國政ニ付大イニ利益アリ國會開設アラハ吾地ノ人民撰ハレテ之カ議会ニ出テ互ニ意見ヲ交換シ以テ識見ヲ廣ムルヲ得ルナリ亦東洋ノ聲風トシテ学者政談ナリ政談者学識ナリ学者ト政談ト兼ネ此二ノモノヲ合和スルノ利益アリ之レ政黨國政ニモ此二ノモノヲ合和スルノ利益アリ之レ政黨國政セサル可ラサルノ訳ナリト説キ年ヲテ三河地方ノ無士谷ヲ右回ル次印旛ニ起ツテ源セントスル中板垣ノ一切ヲ食ヒ尽ノ為ノ義士ト名ヲ聘シ着席シタルカ為メニ席場恰モ鼎ノ沸カ如クニ至ルヲ以テ松次印大声ヲ

発シ各士人士ハ金地ヲ除ノ外ハ諸ルモ皆鍬ニ似テ表ニ金ノ粉ト内ニ錆ノ生ス如シ婦女子ニ戯シ心ニ錆アリト源セシヨリ各士人起ツテ之レヲ討ケ交ル〳〵ニ起ツテ討論スルニ至ル強シト爭論場トナリタル中仏内綱壇上ニ起テ人互ニ合和セサル可ラス既ニ三河人士ト各士人士ト合和セサルカ故ニ怒鬼谷場ニ於テ討論会ヲ生ス之レ世少ノ一ナリト雖モ政府ト人民ト合和セサルニ至テハ必ス別之比ニアラス大ナル害ヲ釀スハ勿論怒鬼谷場ノ討論会場トナリシニ依テモ而スルニ足ルト演シ亦板垣起ツテ源セシモ前説ト主義ヲ同フシタリ魯一ハ源セスシテ止ム年ヲテ后板垣内義仏内土居ノ四名ハ馬東ニ相来シ旅宿加義半三印方ニ陶宿シタリ次テ卑俗モ退席帰宿ス翌三十日板垣ノ

一月ハ全所ニ滞在 尊攘ハ土岐郡青沢見村ノ愁訴ヲ
加入セシカ為メ全日午后二時各々互ニ出發当夜
土岐郡青沢見村ニ着真景況ヲ探ルニ全村西浦因
二之カ主謀者トナリ有志ト謀ツテ愁訴ヲ開ントス
ル趣ヲ聞知シタリ依テ前ノ如ク偽名ヲ称シ因二ニ就
キ加入アランヿヲ求メシニ全人否ナス諾セシニ付金壱
因ヲ投シ加入セリ然ルニ全人等ノ愁訴ヲ開リ所心
ヲ探ツスルニ決シテ自由主義ヲ尊ト間答スルニ
無之只前条ノ如クルト当今我日本ニ於テ人ニ知ラ
ルヽ高名ノ人士タルトニ依リシ者ニ有之元来全村ハ恵那
郡岩村士族多ク自由党ノ一人タル安田節蔵等ヲ
至リヲ招待スルニ及ンテ各々互ヨリ全村ニ至ルノ沿道
シテ殊ニ因二ト節蔵トハ師弟ノ間柄ニテ節蔵ノ

頼ニ在シ止ムヲ得ス止宿ヲ為サシメ就テハ幸ノ二ニ
テ前ニ顕試ニ居リ今亦言名ノ人士タレハ止宿セシム
ル事ニテハ研カ迷惑アリ為メニ謀ツテ愁訴為ス罪ク
ニ至リ各々全村ヨリ西浦仁三郎中ヲ以テ各々互ヘ面会
セシメ既ニ全所ヘ招待ノ為ス出張ス依ル安田節
蔵岩田憲義等ノ旅宿ヲ訪ハセタリ而テ毛塩
三十百全村ノ者共七名ト供ニ尊攘ノ志ヲ知ル為ス
國東郡井郡鳥居松村迄出張ノ為メ出張セシ家
正午過キ各々互ニ自由党ニ条人相互ニ自由ノ為ス
居書生宮路義雄安藤清吉安田節蔵岩
田憲義伊勢野重郎ニ事自利ニ河内路東
筆公ニ自松原邸等ト供ニ全所ニ宿互ニ融合ヲ為
ケ自由党ニ四人ト士民党華角利助ハ各々互ニ傾リ

他ハ孝治兄村ヘ着セシハ当ニ午后六時頃ニ至レリ板
垣西園伴西ハ騎馬他ハ人力ヲナリ最モ角利和第
ハ之ヲ見テ伊勢玉ヘ報伝セント欲シ名古屋ニ出張セシ
モ板垣一切応答ニヨリテモ未タ面セサリシト雖トモ而
テ卑職ハ仍ホ裏面ノ探ルニ必要ナルヲソンテ西浦同ニ説
キ安田莫茂ニ依托セシムルニ板垣氏ノ主義ヲ感
シタルヲ以テ数十里ノ遠キヲ不厭モ往歴中各所ノ
景況ヲ察視シタキノ志願ナレハ君等ト同行シタレ
之ヲ諾セラレナバ幸甚之ニ如シノ言ヲ以テセレ豪右コス
節蔵ハ之ヲ諾シ既ニ翌日即チ四月一日岩村ニ回行スルニ付為
ハ人力車等ニ乗ルヒモ全人ヨリ周旋セラレ以テ卑職ニ倚
ヨリ其西愚叔父ニ除ムノ時至レハ板垣ノ一切ハ旅
宿西浦同二方ヲ以テ供ニ全リシテ孝治兄村ヲ経

岐阜県

岩ケ愚叔父ニ協ヘ除シタルニ上ノ席ニ板垣伴西西園ノ
三席ヲ備ヘ次ニ西脇ニ第二四名ノ席ヲ二ケ所ニ備ヘ
他一般有志者ノ席ト為シタリ卑職ハ名ケテ第二ノ席
ニ岩西安田等ト供ニ着席シタル處岩西憲義之
ヒカ為ノカ邸カ正平ノ条面ニ顕レタルモ場ハ只安西
等ト呼語スルノミニテ止ム然ルニ席定ニハ有志者之
内坂田恭而小池勇水野友太郎等起ツテ説同ヲ
朗読ス后板垣ノ答同次テ演説アリ書生安地
安蔵上園莫枝ノ三人各演説ス然ルニ上園莫
枝等ハ出京ニ途板垣ノ名ヲ以テ帰在スルヲ以テ
全所ニ来ルモ既ニ孝治兄ハ出農后ナリシヲ以テ跡ヲ追
ヒ三十午后七時頃孝治兄村ニ着セシ者ニ至リ全人
ヨリ板垣ニ問ヒ答ヘシ後張ヲ以テ言ヒ出ニ於テハ

岐阜県

去権党増し皆力ヲ得亦遊邑ノ地ニ至リ自由党
演説スルモ聴衆ハ皆無ナリト且ツ二人ノ右等ノ演
説ニ於ケル主義ハ板垣ノ説ク處ト異ルヿナキモ之自
由ヲ尊フノ論ヲ挙ルニ至テハ政府ヲ毀ス過激之
言縷々有之亦岩田徳義ハ彰明ノ効用著シト云
ヲ演ベ之レヲ論スルニ西南暴動ニ比シ本軍ノ勝
ヲ得タルハ彰明試ノ砲ヲ西郷ハ兵ヲ挙ルノ名ナキヲ
喋々論シタルカ為メナリ亦開拓使有物払下一
件ノ如キ后チ西浦ノ会アリシハ彰明ノ効用ニアラス
シテ何ソヤト喋々ス亦板垣起ツテ不日自由黨
彰明ヲ焚ク之ニ対シ我党ノ素志ヲ演シ
ス諸君之ヲ賛ス然ラハ乞フト雖ヲ何ンセモ退
帰シタリ翌四月一日早朝阜磯ハ旅宿西浦因二方

ニ乗リ岩田安田等ニ面接セントスルモ混雑ニシテ不能
暫時ヲ経ル中出發ノ時日ニ迫レハ岩田徳義ニ面
接シ回答ヲ頼ムト申入ルニ会人ハ之レヲ拒ミタリ之レ
全ク愚説会場ニテ兼士ノ論ニ就キシヲ以テ小平ヲ
鳴ラシ愛ニ至ルト思考シ再ヒ愚説会加入ヲ願セシ
タシト言ニ亦之ヲ拒絶セルニ付立ニ一二言ヲ交ユル中既
ニ板垣ノ一切出發セントスルニ際シ一切ハ
岩村ヘ阜磯ハ一先宿署ニ其之レヲ其中ノ上再ヒ会ヲ
奉シ四月二日午前七時出發恵那郡岩村ニ着
セシ処已ニ愚説会ノ離散スルノ期ナリシヲ以テ板垣
一行ノ旅宿ハ五軒庭一方ニテ愚説会場ハ全村
勢勧ヲ誘ナリ陪会スルモノ会費金壱因ト称シ亦自
由党中ハ金三因四五十戔ヲ出金セシト迎送ノ費用

等アルカ為ヨナリ然ルニ全夜西義魯一書生三人
浜木盛公左田松涼印等全所劇場ニ於テ学
術演説會アリ生演スル事仮シモ名ニ有ル者ハ函館
演説ニシテ最モ過激ヲ説キタリ社衆凡三百余人
ニ及ブ尚全村ハ曩ニ撰喬社ヲ設立シテ安田節
藏之カ幹事ト為リ浅見与一右衛門旋方ニテ其
社員弥ト四五十名有之劇会毎ニ社員挙テ自由
党ニ加入セレト尚遠ク加入ヲ欲スルモノ陸続アリト最
モ主義ヲ感覚シテ加入スルモノ僅カニ両三名ヲ除ケハ
他ハ皆生人ニ党スル者ト云ヘシ僕シ自由党ト云ノ主義
ヲ不分ヒテ欲心スル丁東濃地方ニ於テハ全村美中津
川村ヲ以テ最モ盛ンナリト言ハサルヲ不得亦其翌三
日午后九時過キ全所ヲ発シ中津川村ヘ全日午

后五時頃着板垣内蘇仏内書生三人ハ若井吉
助方ヲ旅宿トシ安田節藏岩田徳義鈴木盛
公左田松涼印ハ旅籠屋業田九郎ニ止宿然ル
今ハ表孫右衛方ニテ会書料金壱円俵ニ自由党
ニ加入セシモノハ外ニ費用三円余ヲ出金セレト之レ亦近
送ノ費用ヲ弁スル為メナリ全村モ岩村ト全一ニシテ
小林煉作市冨政吉等ノ七八名ヲ除ケハ他ハ皆
人ニ党スル者ニシテ決シテ生主義ニ党スルモノナシ亦
全夜劇場ニ於テ学術演説会アリシ事何レモ
岩村ニ於テ演セシト異ナシ故ニ内蘇魯一ノ演説
ヲ除ク之ハ告ヨリ解散ヲ命シタルヲ以テ大イニ自由
党ノ勢力ヲ殺キタルモ再ヒ届ケテ演説ヲ開リ其后
書生ノ安藤ヲ始メ鈴木内蘇岩田寿文ハ各

三省セタル改革ヲ演ジタリ最モ一層迅激ニ渉リタルモ
除盤ニ至解散中止ノ處置ナキカ為メニ最初ニ減殺
サレタル勢力ノ復ス一層甚シキ為ニ至リシハ遺憾
ト云ヘシ仍本板垣伯内ハ愬狀會場ニ於テ各演説
アリ翌四日ハ全所農ス土岐郡宮山村ニ一泊ノ筈ニ候
知加茂郡左田村林山一郎中津川村ニ出張シテ一泊
ヲ求メラレタルヲ以テ高山村ヲ経テ左田村ニ着板
垣内藤伯内書生三人ハ林山一郎方ヲ旅宿トシ
他ノ隨行者ハ全村旅籠屋業磯貝屋ニ投宿
愬狀會ヲ祐泉寺ニ開キ會スルモノハ十余人席
定リ両三名ノ演説アリ后チ板垣伯ニ茶等壇
上ニ起ツテ演説アリ午ツテ退散ス全村ノ如キモ林
山一戸外一両名ヲ除ケハ他ハ皆土岐郡孝注見村

ニ吳ルナシ最モ會料ハ金八拾弐円有之却立午年
前立時ニ出發全日午后三時ニ達午今小町玉井
屋伊平方旅宿ニ着卓磯ハ各左ニ迎以某探偵
セシ知ノ概畧ヲ川保警部長閣下ニ具伸シ而テ翌
六日午后一時富茂和村神道中教院ニ於テ有志
者集ツテ愬狀會ヲ開ク其事務板垣ハ玉井
屋伊平方ニ有之然ルニ全家ハ畧表ニ奉職前投宿
セシトアルヲ以テ自ラ事務所ニ於キ愬狀者加入ヲ求
ムルノ如ク都合アリ依テ他人ヲシテ偽名ヲ以テ加入セシム
ヲ求メ諾ヲ得テ金壹円ヲ投シ切符ヲ求メ中
教院ヘ臨場セシハ午后二時前ニテ先着セシモノ
僅ニ十名計ニテ皆時ヲ経ル中既ニ三時ニ至ラント
スル時ニ有志者モ相集リタル頃板垣伯藤伯内

書生三人岩田鉉太郎日本立憲政党彩守社
京小室信介溝口茂長根小倉英之村山照吉
等ト倶ニ来リテ上席ニ列坐ス會スル者百名ニ不
足席定リテ后チ有志者之内西三名説回ヲ朗
讀シ次テ板垣起ツテ壇上ニ上リ政府ト人民トノ関
係ヲ演スルニ大陽ノ赤心カト遠心力等ニ比シテ説
キ及リ因薩魯一ハ政治針路ニ就キ雄弁ヨリ始
治六年ニ至ル迄ハ略治初年五ケ條ノ御誓文基
キテ政ヲ施サレシカ略治八年四月ノ詔書ニ回ニ泥ミ版
ニ慣ルヽ莫ク又或ハ進ムヲ輕リ為スヲ急ナル莫
クノ文字ヲ誤解シ其針路ヲ変シ五ケ条ノ御
振ヲ文ニ省クニ至リシハ人民ノ不僥倖ナリト演シ小室
信介ハ城狐社鼠ヲ濃兎自由党ヘ立憲物トシテ

携帯セシニ付諸君之レヲ領スルヤ否ヲ述ヲ漸々ニ城
狐社鼠ヲ滅セセシノントスルノ趣意ヲ演シ書生ハ
ハ我党ヲ反對党者カ攻撃スルアルモ決シテ之レ敗
スルナシ若シ不幸ニシテ目下敗ノ得ルアルモ必チ
一部ノ敗ニシテ正理自由ヲ以テスレハ不日全勝ヲ得ル
鏡ニ掛ケテ視ルカ如シ諸君ト供ニ誓ツテ勉メスレハア
ル可ラスト演シタリ亦岩田小倉太田等交ル〳〵演説
ヲ了テ酒宴ヲ開キ未タ央ニ不至中仲内綱壇上ニ起
ツテ吾輩今日此盛會ニ臨ミタルノ厚意ヲ諸君ト
謝シ一言演セントスルモ如何セン數日ノ旅行ニテ労レモ
アレハ宜敷辞シテ板垣君等ト供ニ旅宿セントス其レ
カ為メ會場ノ外新スルアリテハ逆憾ナレハ諸君ヲシテ之
レヲ演セヨト迫ヘコ年ツテ板垣先ニ立ツ内藤仲内書生

三人小室小金岩田淺木吉田村山外二名午前四
党一兩車從ヒ退出ノ中玄関ニ至リシ頃卓磯モ席ヲ
辭シ起ツテ二三歩ヲ進ム折シモ玄関前ニ於テ狼狽
セシ人声アリ亦地上ニ倒ルヽノ響キアリ何事ナラント玄関
ニ駐付視シハ板垣東面ニテ起チ其左面ヨリ出血スル吾
死スルモ自由ハ死セントノ言ヲ吐露スル中吾分抱ニテ
門外ニ出ツ尚玄関東脇ニ倒シタル三十四外ノ男子ノ
書生及ヒ内藤魯一等相集ツテ捕獲シタリ
之レ谷干板垣退助ヲ謀殺セント欲シ既ニ行ヒシモ隨
切ノ書生及ヒ内藤魯一ハ自由党員ノ為メニ支
エラレ意ヲ果タサスシテ捕獲ヲ受ケシ者ナルモ姓名氏
名ヲ知ルモノヲ人モナシ将タ党行者短刀ヲ携帯
セシヲ魯一ハ奪ヒ取リ他人ニ短刀ヲ為持ム午

警察署ヘ出ヅ所セシヲタリ其時玄関ヨリ本多某
党行者ヲ斬殺セント一刀ヲ携ヘ駈ケ出スヲ内藤魯
一之レヲ支ヘ我自由党ハ人ニ接スルニ力ヲ以テスルノ党ニ
無之粗暴ノ挙動アル可ラスノ言ヲ以テシ以テ止メタ
リ玄モ板垣ハ軽傷ニシテ命ニ係ル程ノ事ニハ無之
ト伝テ直チニ馳セテ川俣警部長閣下ノ館ニ至リ
其見聞セシ仔細カニ具伸シ早ツテ閣下ニ従ヒ岐
阜警察署ニ参署セシニ党行者ハ既ニ拘留
相成居タリ其氏名ハ愛知縣尾張國愛知郡田
代村士族相原尚毅ニテ当時知多郡横須賀
村学校教員ニアリシト而テ翌七日ハ全閣下ノ命ノ
奉シ其党員ノ視察ノ為シタル上其旨ノ具伸
シ翌八日帰署ニ節尚右田警察署ニ就テ探

知スルヿモアリ亦川保警部長閣下ヨリ全署ニ御
口達ノ次第モ有之ニ付全署ニ至リ諸事ヲ弗シテ后
チ帰署シタリ然ルニ板垣始ヲ分隊ノ者所
ニ於テ演説セシヲ一々掲載スルハ却テ煩雑ノ憂ヲ
リ加之モ演説スル毫同一主義ニシテ比スルニ多少ノ
差アル耳ニナレハ之レヲ略ス亦其各所ニ於テ自由
党ニ加入セシモノ及ビ愬状等ニ列セシ者共ニ板
垣一切ヲ逐遣セシ人名等ハ別ケ別紙ニ録シ添
テ此段上申仕候也

明治十五年四月十日

御巡警警察署宛

御用掛 正木都時吉

人名録

七郡多治見打製紙会ニ参席セシモノ

西浦国二

○仝 五郎兵衛

仝 仁三郎

仝 之助

仝 曹右衛門

仝 清七

○改田芳右衛門

○高木竜次郎

大窪鉄次郎

阿部喜三郎

加藤鉄治

西浦道大郎

加藤賢作

仝 喜三郎

島田文次郎

安藤佐兵衛

加藤正兵衛

西浦源三郎

加藤鐘蔵

山田好造

○水野友五郎

玉置雅太郎

高畑村 市川政副
深草八郎
久瀬村 山村益吉
公 嶋三郎
古野村 山本松次郎
内山桂
司児郡千塚村 丹羽專治
谷屋 三原吉茶
辺茶良敬
山村伊一
内津村 前川新八
野田高
鵜澤精

嶋鄕縣

深草梅二郎
松嵩松太郎
山村卯兵衛
寺川高春
○高木鉞松
佐賀正作
甲斐村 ○小池高
四方石 多田喜次郎
日比野儀三郎
屋敷 加藤金之助
鳥居正
三宅常定
鈴木勘吉郎

長瀬長平
右之内○印丁者ハ三月廿日午前多治見ヲ発シ屯
知縣東春日井郡鳥居松ニテ出迎スルモノ余ハ多
リ村ノ入口ニテ出迎シタリ其他村民老若ヲ論セス
同村川端ニ仁王板垣一行ノ未村ヲ待ワモノ殆ント
ヲ出張セシモノニ有之候
恵那郡岩村熱親會ヨリ全ムモノ及自由党加入者
撰喬社幹事 安田節藏
同旋人 飯野寅萬
杉本宮藏
樫山禁作
社員 伊藤唯一

粉戸清太郎
同旋人 浅見典一右工門
福島渤海
加藤九藏
社員 田中準次郎
三田作平

岐阜縣

田中寛治
藤浪猪吉
岩川力三
勝川安太郎
浅野岩吉
水野源次郎
松田勘吉
山内鶴太郎
福岡弥平
和田茅作
花村實義
杉浦熊吉
○福島文生

神崎忠良
市橋三治
花野一二三
中根駒吉
内田茅治
堀井鍾次郎
松田市次郎
加藤留右ヶ
中根熊吉
当時戸長 山村才治
黒岩猪三郎
安藤忠八
○柳瀬健助

吉村義代治 富田村 鶴見善兵
伊本村 鈴木太十郎 苗木村 山下猪之助
○伊藤幸助

右之内○印ハ自由黨外其他何モ自由党ニ加入ス
ルノ尚黨外ノ者ニテ親戚ノ者ニ加入セシモノアルモ
店方ノ手代並ニ職工等ノ者ハ一々掲載スル
ヲ要セスト雖トモ○印ハ名古屋ニ出張同村ニ
至リ中津川村ヲ強テ全ク村ニ送リ全所ヲ
歸村ス尚板垣ノ一行全村ニ着スル日則四月
一日ハ竹折村迄數挺ノ駕籠ヲ出迎ヒシ者
ハ人名不明ニ属スルヲ以テ之レモ亦黨ヲ惠那
郡中津川村懇親會ニ臨ムモノ及ヒ自由黨ニ
加入スルモノ

林　淳一
田　茨井之丞郎
肥田伊四郎
市岡武充
岩井儀之助
間半兵衛
中川萬兵衛
木林　守一
肥田孜一
木林　孫一
○宮木弥兵衛
勝野文藏
大屋為一
市岡政喬
○茨井吉之助
酒井傳四郎
岩井求助
渡邊梅吉
○小林煉作
茨井守之助
勝野吉兵衛
勝野七兵衛
○袁山藤林義
楯嗜次郎
市岡立衛
山川弘

間島秀一
土井田半七
後藤貞藏
田口長兵衛
酒井源四郎
○高木弁四郎
○高木傳兵衛
○成木來助
○成木新七
○水野弥兵衛
矢島正國
花岡農左右
○大屋定一
茨井文四郎
間為之助
○横井當二
間李左門
○管井淺平
○中村清兵衛
○吉田萬三
○市川元太郎
○大野安兵衛
○大野政德
○岐政德
矢島村
吉田村
駒場村
○吉田喜太郎
○岡本宗左衛門
駒場村
福照寺住成某
茨井村
茨井村

書生 水野忠文

右之内○印ハ堂外只親つ親會ニ列セシノミ他ハ皆自由堂ニ加入ノ者◎印ハ山石村ニテ出迎ヒ行キシ者◎印ハ実事ニテ送ラシモノ其他親つ親會ニ列加セシモノハ心モ多クハ妓楼ニ登ルノ思ヒヲ為シテ参會スルモノニ付実ニ実ニ

加茂郡古田村 愚親會ニ参席スルモノ九十八名

斗モ有之ト雖モ多クハ之ヲ妓楼ニ誘興スル者ノ思想ニテ実ニ會セシモノ加之其他等ノ者ニ付テハ氏名ノ詳細ナラサルアリ故ニ其重モ之タル人名左ニ

村小一郎　村照三郎
福田九郎　高井春三

高山村 村永助　村吉左衛門　丹羽專二
加茂郡 服部彌右衛門　長谷川宅塙右
山上村 廣瀬里助

右之通ニ有之候

高岐子ノ親つ親會員等ノ我ハ強ヲ卑成ル為ニ安ヲ
ヒスト心得候ニ付之ヲ田名ニス

右稟議上申書ニ添テ口上仕候也

御管轄高家警察署在勤
明治十五年四月廿日　警部用掛岡本都鉞吉

署長警部　杉山義勝

正四位板垣退助氏ノ変ニ付密告書

生國新潟縣長岡ノ産当時

岐阜新聞記者雇人　　池田豊志智

右之者板垣退助氏ノ行党者即チ相原尚聚ノ共謀者タルヿハ世既ニ其説紛々タリ而シテ共謀者タルノ伝跡中其最モ著明ナル者ヲ挙クレハ即チ左ノ如シ

本犯者相原尚聚ハ本月四日当地ニ来リ午后五時五十分頃今小町ナル玉井伊兵衛方ニ止泊セリ然ルニ午后六時四十分頃彼ノ池田豊志智ハ偶然相原ヲ訪来リ面会スルヤ直ニ酒肴ヲ命ス（此割合一人前金廿銭宛ナリ相原ノ必立ノ際之ヲ払フ池田ノミ未タ払ハストヲ云フ）同時現席ニ連ナリタル者相原泉池田ノ両人ヲ除クノ外渡辺源太郎伊藤一蔵本多政直大埜梁滋等ナリ全夜ハ両降リ池田ハ玉井屋ニテ刑今ヲ借用

岐阜縣

し午后九時過帰宅就キタリ其ノ池田生国長岡ノ産ニテ相原ハ愛知縣下ノ者タリ而シテ両人カ平常交際ノ親密ナルカ否ハ是レヲ知ルニ由ナシト雖モ柳池田カ偶然玉井屋ニ相原ヲ訪ヒ来リタル処ヲ以テ之カ推測ヲ下セハ必ス是迄交際アリタルヿヲ証スルニ足レリ若シ然ラサレハ何ソ殊更ニ訪来ル者ナラン是レ両人カ交誼常ニ親密ナルノ明証ナラスヤ又三月五日池田豊志智ハ本地伊奈波山鳥楼(割烹店ナリ)ニ会スルヿアリ今其同伴者ヲ探ルニ四人ニテ池田ノ外三人ハ其何人タルヤ又其姓名ハ何カナル者ナルヤ未タ捜索中ニ有之ト雖モ其池田カ談楼ニ密会(密會中池田カ右足ニカ創ヲ負ヒタルハ合ニ詳述ス)ナシタルヿハ已ニ既ニ明白タリ蓋シ四名ノ中本犯者相原モ必ス會合セシモノト信ス何トナレハ前日玉井屋ニテ互ニ杯ヲ傾ケ又互ニ語ヲ交フ平之ヲ目擊スレハナリ況ヤ池田カ本夜負傷ニ罹リタルヲ然リ而シテ当地有志者カ去ル六日中教院ニ開キタル懇親会場ニ来リ

相原池田ノ両人ハ各坐ヲ争フテ席ニ就キ板垣氏ノ着坐ニ近キ来テ彼ノ両人ハ會場ニ至ルヤ板垣氏ニ月ヲ注ケ最モ甚シ或ハ相原ト語シ或ハ振リヲ酷所作ニ仕做シ来リ坐ヲ正フセス乱レテハ又騒リ殊ニ本日ハ異常ノ容貌ヲ為シ其進退動作ヲ視ル悉モ商人ノ手代ニ於ルカ如ク前ヲ延ヒシ名髯ヲ刈リ或ハ羽織ヲ脱シ又前垂レヲシテ猥ニ手拭ヲ挟シ居リ今日之ヲ顧慮セハ公衆ニ由断ヲ為サレルノ計策タルヲ知リ又相原カ此体ヲ見ルヤ忽チ池田ヲ揺リ起シテ曰ク「之レ君居眠ッチヤイケナイ」ト相原カ池田ニ忠ヲ酬リ居ル処ハ恰モ親友ニ於ケルカ如シ蓋シ両人カ挙動ヲ目擊スル者豈一面識ナキノ人トナサンヤ又タ池田ハ勃然一壇上ニ登リ多衆ニ向ヒ公然演説ヲ為シ其概要ヲ摘撮スレハ我レ自由党ノ反對党ナリ其レ之ヲ譬フレハ板垣ハ彼ノ本願寺ノ開山親鸞ナリ夫レ親鸞ハ単ニ南無阿弥陀〻〻〻〻ト称ヘテ

我カ宗派ヲ弘ムヤウニ日蓮宗顕ハシ来リシヲ駁シテ口ノ念仏ヲ称スル者ハ必ス地獄ニ墜ツルトヤ何ヤラ板垣ノ党派ヲ擁張セントスルモ決シテ得ヘカラス抑ト詭氣憤然トシテ甚タ怒シタル面体ニテ後ロヲ見返リ板垣氏ノ白眼ヲ目ノ「ヨイカ〳〵シ」ト其言語ノ慢慢タル思ハ「キ形状ニテ或ハ嚴キ顔ヲ窺ヒ全氏ヲ救ハントスル者ノ如シ然ルニ板垣氏退席ノ際竹内綱（板垣同伴ノ人ナリ）ニテ今宵貴方ニ向ヒ板垣氏退散ノ際各ニテ見送ル中ハ本席乱ルヘキニ付其侭着坐アリタシト告ケラルヽ時既ニ板垣氏ハ内藤魯一ニ誘ハレ玄関ニ立出テラレタル際彼ノ池田ノシ周章トシテ走リ出テ内藤氏ノ袖ヲ引留メテ曰ク「アナタガ内藤サレデゴザリマスカ」ト最ト叮嚀ラシク接拶ヲ為シ居ル中板垣氏ハ玄関ニ六歩ヲ先ニ行カレタルヤ相原カ先害ニ推シ分リ今ヲ之ヲ回顧スルニ内藤氏ノ随行スルヤハ相原一人ニシテ手向フヲ能ハサルヲ憂慮シ彼ノ相原カ先行ヲ補ケン為ノ斯ル策略ヲ企図セシモノト思ハレタリ又タ甚シキニ至テハ相原縛ニ就クノ際池田ハ忽チ駈ケ来リ彼ノ賊ヲ拒防スルト思ヒノ外却テ縛シタル濃厚自由党ノ人タル後藤秀一本多政直早川敬一等ニ向ヒ高声ヲ発シテ曰ク本日ハ懇親會ニテ予ハ壱円ノ會費ヲ出セリ然ルニ汝等板垣ノ事ノミ打掛リ予ヲ饗応セス濃厚自由党ノ奴等ハ甚タ不敬ナリ汝等来テ早ク予ニ酒ヲ汲メト怒鳴リ廻シ彼ノ相原カ縛ニ就キタルヲ憤怒セシ如キノ挙動アリシモ当時確タル証蹟ヲ見サレハ共ニ之ヲ縛ス能ハス然レモ池田豊志智ハ疳癪人ニ非ラス社會ノ道理ヲ識別スルニ足ルノ新聞記者ニアラスヤ然ルニ此先行ヲ目撃ニナカラ更ニ驚ク景色モナク却テ犯人ヲ扶クルカ如キハ抑モ何ニ因テ然ル乎茲ニ先行者ハ縛ニ就キ板垣氏ハ療養ニ就カシ会員

モ亦皆退席セシニ尚池田ハ依然トシテ席ニ居直リ酌婦二三名ヲ集メ又酒ヲ酌ナトヲ為サシメタリ然ルニ酌婦（万カ町住性ヲ知ラス名ハ八重）等ハ本日板垣氏ノ変ニ罹ラレタルヲ嘆話セシカハ池田ハ是ホノ婦人ニ向ヒ「是レシキノイニ何ノ恐レアル夫レ之ヲ見ヨ」ト池田ハ裳裾ヲ捲リテ右足ノ刀傷ヲ見セタリト而シテ此癖前日即チ五日夜山鳥楼ニ於テ四人會合ノ節癖ヲ受ケタル者ノヨシ彼ノ酌婦ニ示シテ曰リ板垣ノ変ハ何ノ恐レアル之ヲ看ヨト又曰リ「我レ自ラ板垣ヲ殺ス積リナリト」懐中ヨリ短刀ヲ見セタリ是ヲ見テ酌婦ハ大ニ驚テ曰リ「アナタハ恐ロシイ人ダ」ト云フニ池田ハ忽チ言ヲ変シテ「イヤ此刀ニテ板垣ニ我カ首ヲ取ラレヨウト思フテ居ル」ト云ヒ直セシ趣確ニ承リ申候

右之通前日以来取調候処相違無御坐候間至急池田豊志智厳重ニ御捜索有之度此段密告仕候也

明治五年四月十日

岐阜縣美濃國安八郡大垣第七町
十二番地士族　平川啓一

之縣之國方縣郡河渡村ヲ二番地
平民　後藤秀一

滋賀縣近江國犬上郡彦根第四町
ヲ十六番地平民　小倉英之

岐阜軽罪裁判所
検事奥宮正治殿

岐阜縣

岐第壱号

板垣退助負傷之儀ニ付岐阜縣警察
報告書類供回覧候也

明治十五年四月十九日　内閣書記官

月大臣殿
右大臣殿
大本参議殿
山縣参議殿
井上参議殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

山田参議殿
松方参議殿
大山参議殿
川村参議殿
福岡参議殿
佐々木参議殿

正四位板垣退助南葵家ヨリ来書一冊宮内省ヨリ送付ス

来書ノ趣ハ中島信行ヲ以テ曾テ出費ノ事ヲ問ヒ合セタルニ付テハ今ヲ去ル十年地租改正ノ際ニ当リ旧藩ヨリ地方ヘ支給シタル旧藩士族ノ秩禄ハ池田慶政ノ出費ニ係リ其金額ハ一万五千円ニ付テハ其出費ノ事実ヲ調査シ其出費ノ条件ヲ具シ以テ中島ニ交付ス

明治十五年六月十日　内閣書記官長井上毅殿

宮崎県立図書館

四月十三日

一本日当縣下方縣郡河俣村平民佐藤秀一翁を
以て当郡岐阜町士族岩田德義翁長
い為り傳可し上岐阜市未廣町の劇場未廣味と
於て正午十二時より政談演説會の開き弁士拍手
一行の軍書三十人あ踵を接して喧しき事雷の如
聽衆の席に在る者無慮一千人許り為
耳り凡廣耳の雨に一般之を聽き感を起す
モノナリ為メに大に弁士の聲を失ヒタル故僅に
十人演説を了り石黒氏の定刻に先て後五時
半を以て終会を告ケ又其初め四日山縣郡
高富に於て再ひ此會を開カントリ石黒氏

岐阜縣

ヲモ俄ニ止メテ異會セサル為ニ今年ハ
演壇ニ登リタル弁士ノ氏名及ヒ論題ノ事
跡ヲ先ニ挙ク
但其他演壇ニ登ラサリシ、氏名論題ハ本
夕改正（武術ノ部）松木宗宵（活演劇場）
原口孫三郎（義ヲ重ンス）斬邪保
宇西堂ノ講演（内務省ノ）内藤魯一（鄙事ナル
或自由堂ノ行為）早川啓一（憲法
社會ノ盛衰ナリ）山脇健助（思想ノ
ナリ）村山照吉（丁髷人ノ指ス）岩田德
義（何ノカ真ノ盛衰ナルヤ）杉山五
郎（行ナヒテ）ヨリ真ノ盛衰ヲ）藤
吉留吉（何者カ社會ヲ改良スルヤ）

ナリ

愛知縣三河國碧海郡上重原村
二百九十一番地平民
雑士　内藤仁四郎
当ラ十九年三ヶ月

一論題　脳力論
一論旨　忽必烈ガ十萬ノ兵ヲ以テ日本ヲ侵
サレリシ時ハ日本ハ之ニ敵スヘキ實力即チ
脳力アリシヲ以テ侵サレサリシ能ハサリシ
條理ヲ唱ヘテ曰セスレハ脳力ヲ以テ之ヲ
申明セサルヘカラス古昔秦ノ始皇ノ
壓制未利堅ノ如キ英國ノ如キ維新
ノ革命ノ如キ人民ハ飽迄條理ヲ

唱フルモ世ニアルノ道ナリ終ニ縣力ヲ用ヒテ改革スルニ至ルヲ是レ其例ナリ

大分縣豊後國下毛郡中津

山ノ下ニ百四十二萬地名族

第十

上田長官

第二十四年五月

一論題　梦ニ一知ノ見ル

一論旨　事ニ難ク心ニ思レ之レヲ為ニ見ル

味シテ奇怪ナルニアラス予國事ニ熟心

ナル故ニ此日為ニ一知ノ見ル又其主義

ヲ伸ム其國タルニ立君獨義ニアラス

有司專政ニアラス又立憲政府ニアラ

ス帝王第下第民ノ共ニ希望スル

所ノ事アルニ此未タ其所志ノ達スル能ハ

サルモノ、如シ其所ニ望ム所ハ立憲政体ナレモ

中間ニ暫ク意リ但ム中アルカ如シ猶

ヲ早ク為ス道ヲ

岐阜縣美濃國山縣郡

岩村ニ番地平民

大野高市

第十八年七月

第十

一論題　反對論

一論旨　物ニ反對ヲ待テ初用ヲ知ル

長アリテ短アリ邪堂アリテ我正堂アリ

流國七十萬ノ人民ハ皆我自由堂ニ

入ラシメ自由ノ味ハシメ自由ノ

氣分の発し自由の正道を以て他日
對一邦堂の樓(櫓)をなんへやうス
書生 岐阜縣平民國源美郎
四拾四村三百八十三番地平民
辯士 鈴木 啓吉郎
当二十年三月

一論題 改進党の風潮
一 并士の議論を見て礦泉大に笑ひて
止まず數語の述へたるに過ぎ
ふ分に
大阪府西区江戸堀上通一丁目
十四番地寄留平民
辯士 成山 勝一
廿九年

一論題 日本魂の辯
一論旨 日本魂とは支那の唐時代迄
正気の如くにして英語「マルチヤルド」の
義なり(我邦歴史上に昭々乎たる神武の
征韓に下歴代三韓の服従せしめ
られたるより下て豊臣秀吉の文禄の
役又下て山田長正濠田弥兵衛等の海
外に於ける事跡を引証して日本
魂なるものは國威を振張せんとする気即
チ我国民たるものの有つへき所のものなり
往時の國勢已に衰へ人心の退時
の士民に昇屋と安として勢気なき如しと
雖も往時の怨を報り自家の落に人を奮ス

岐阜縣

新元の養ヒ國威の張テ外國ノ侮リ
カシムルの望ムこの為サレニ即チ自由
ノ極理の宣フセサルヘカラス自由ノ
極理ナルモノ、相異ル個ノ間ニアラス
國の書シ此ノ少ク書スル所ノ即チ所
謂日本臣民ナルモノ、固ヨリ名日本魂
ナルモノ故ニ我自由党ガ政談演説
ニ於テ情ヲ動ク輩ハ敢テ
國家の書傷スルノ忘ル此ノ道ク古代
海外ニ於テ事ニ此ノ情ヲ其精神
ハ毫ハサルナリ

後繁縣色川國次郎喜根
一番四十六番地平民

小名英之

年齢 百ヲ十四年ノ月

一 論題 隠保有ガ馬脚ノ露ハスノ笑ヒ

一 論旨 本論ハ相原氏助カ答ヘ品ヒタル
ノ倫ハルモノニシテ薩ヘ我自由党ハ真蒙
ニシテ保レ相原豎子ハ偽蒙ナリ方今政党
各所ニ蜂起スト雖モ未タ我自由党ニ優
ルモノナシ相原ナルモノ我レト主義ノ異ニ
シ我党勢ノ隆ナルヲ隠ニ保
ヲ企テ国ニ姑ク其身ノ真蒙ニ似セ
テ豎子ノ果サレトセシモ我レニ真蒙ナシ
ハコソ忽チ其路茶毒路ニテ事成ラス
傳ニ然キタルハ我党ノ幸ナリ否ヤ

我党ノ幸ナラス我日本ノ幸ナラサル也レ
板垣ノ國家ニ忠ナル所以ノ所知ル所ナリ
是ヲ以テ忝ナリモ　聖天子ノ聖問
ノミ百回ノ場ハリ有領ノ臣助ニ
ヲ以テ已ニ此業ヲ我自由党ノ主義
ノ為ニ成サンコト知ルヘシ

高知縣士族國士住郡
小高坂村ノ四番地ノ族
安岡清吉

年士　　年ラナ五年

一論題　卑劣ナル者
一論旨　世ニ卑劣ナル過激粗暴
以テ卑劣ヲ云ヘカ（原ノ誤カ）ス兄ソ人タル者ノ口ニ言論ノ
自由ヲ賊カ以テ身ヲ保護スル是レ
無恥ノ性ナレ何ソ以テカ卑劣トイハレ
此レハ卑劣ナルモノハ何ソ彼ノ常劍
モセス騎兵ノ護衛モナキ人ヲ担撃
セント企ツル是レ即チ卑劣ナリ
妄ニ我党ヲ狐狸ト潜ニ奥者ヲ以テ拳
動ヲ探査セシムルモノアリハ国ノ是レ又
卑劣ナリ苟ウ酷ノ法律ノ後ケテ人ノ
言論ヲ束縛スルモノ是レ亦卑劣
ナルモノナリ

岐阜縣國方縣郡
何屋村ニ番地平民
年士　　信濃秀一

岐阜縣

一論題　自由ノ真理

一論旨　自由ノ信器ニ立ツモノハ政府ノ束縛ヲ受ケスシテ各自ノ言論動作ヲ自由ニセサルヘカラスヒトリ細備セント欲スレハ自分ノ小胆ニシテ警官ヲ畏レ或ハ集會条例ニ躊躇シテ遂ニ沮ンスルヤウニ暫ク言ヲ僅ニ我党カ今日ノ如ク勢力ヲ張ルニ自由ノ区区タル自由ノ宣言ヲ聞ツヒニ我党ノ為ニ自由ノ域ニ入ラスヲ知ラス偶人ノ如ク無気力ニシテ未タ自由ノ域ニ

明治十七年四月

高知県出張員　上田美枝

一論題　政府ノ自刃

一論旨　世ニ政治ノ種類様々アリ中ニ政府自ラ刃スルモノハ専制ノ政府是レナリ而シテ此専制政体ハ君主独リ権ヲ握ラスシテ人民ニ代議セス政府独リ自信ニ邪置スルヤウニ碍言ヘハ何百万円金ヲ費シテ政府ノ目

明治十七年三月

高知県出張員　上田美枝

ヤリ云ヘハ說ノ成ル所ニ拘ハラス如ク偏ニ帰スルヤウニ思フ

明治十七年三月

高知県出張員　上田美枝

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

任ニ之レヲ使用シテ何ナル人ノ自由
異ロヲ擅ニ蔑ノ法律ヲ布後
スル如キ是レ則専制ナリ而シテ此専制
ノ下ニ早ク屈サル人民アル如キハ決テ政
府ノ権盛ニハアラス故ニ専制政府ハ
累卵ノ如クニシテ弱ナルモノナリ一休
和尚ノ歌ニ曰ク「ヨノガ身ノ暑サ拂
ヘヌ不動メガ」云ヘ此一歌ノ心ノ如クナ
レハ政府ハ人民ノ再目異ロニ丹ノ当ル
ハ即チ我所ニ当ル丹ナリ如何ントセハ
政府ハ人民ヲ保護スル後ニハ人民安
穏ヲ以テハ是レ即チ政府我所ニ益
スルナリ然ルニ之ヲ反テ人民ヲ害スハ

自分ニ害スルナリ暑西亜政府ノ如キ人民
ヲ害スルハ則我所ヲ害スルモノナリ故ニ政
府ハ国家人民ノ為ニスル人アレハ則之レ
ヲ保護スルハ其成分ナリ然ルニ之ヲ為サス
反テ人民ヲ害セリスルハ則我所ヲ害ス
ルナリ而シテ政ヤ自由党ノ人ヲ倒スニ於テ
何ソ政府ニ益アラン反テ無外任ノ人
民マテモ之レヲ為ス蒼蠅興起スル譬
ヲ見ツヘシ民ナルモノハ医療ノ如サハ
俗ハ政府ノ権即チ矢鏃瘡痍ノ如キ
ハ千古其跡ノ微弱スルヲナカレヘシ
但勅ノ如キハ我日本ニハ味テ之レナキヲ
予ハ敢テ言スルナリ

高知縣士族
鄰仁村上野百合子留地茂表
宮地茂表

第十五

一論題　邑激粗暴ノ何レノ者ノ言ゾ

一論旨　之レ世ノ中ニ兵橋中ノ指シテ粗暴至激ノ極ト言フ云フ所ノ言ハ此レ

ヨリ邑激ト云フ物ニ比較シテ如何ナル言ヲ言フ云フ事ノ事ノ時ニ

ヲ言フ云フ言ヘハ人ノ頭ヲ斬レハ邑激ナリト云フ言ハ人ノ首ヲ斬ルハ又人ヲ殺中

終ニ人ヲ殺ス人ヲ撲ツハ至レ粗暴ナリト云フ言ニテ甲乙ハ殺ツハ敬テ粗暴

ト云ハサルヲ之レ即チ其時ニ依テ然ラシムル所ノ歳民選議院設立ノ建議アリシヲ以テ此議ノ賛成シテヲ示ス所ノ言ハ我党孤立粗暴至激ノ人ノ首ヲ斬リシ

ナシテ而テ見レハ我党ハ決シテ邑激粗暴ニハ非ラサリシ或ハ世ノ大臣等ノ議無ノ如ク自ラ結リ路ヲ開キ来ル是レ故何レノ者ニ在テカ影ノ如クスルハ人ヲ斬ルヤ馬鹿故ナキニ斬ノ如カ戒心スルヤカ暴徒人ナラシメシ乱世ニアラサル世ノ中ニ曾リニ自分ノ仇ヲ復シ奉スルコリ邑激粗暴ト云ハサルヲ以テ又一個

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ人民ニシテ國ノ勾ニ屋スルノ丹ハル
國像報累ヲアラスシテ何ソヤ
京都府丹後國與謝郡
岩滝村平民

一論説　板垣君ノ帰国ノ趨向　一

人ノ持ツ所セルトスル其言フヤ若シ志ナ
ロ或言ヤハテ板垣君ノ為ニ憂慮セ
ラレシトキ比言ノアリシ怪ヲ怪ム西
来利加國英國ニ若シソノ如ク西
人ノ國會ノ異カシテ希望ハ
敢テ許サス是ニ於テ西人ハ
リレナルヘノ日ノ我レノ自由ノ無ハ我レノ
障害ノ下ニ繋スカ如キ一言ノ同キ西國
人民ハ奮發踴躍シテ七年間ノ戦争
ヲ為シ今日世界第一ノ富化ノ勾ニ
之レ他ニアラスハリツクヘシ
言ヲ成リシナリ之千載古ヲ種ナル
ナニテ出タル鮮血ノ流セル跡ハ
一大門ノ如スモ今國板垣君ノ先徒ノ
為ニ負ヒタラレシ其物部ノ
此テ、林信タリシ鮮血ハ古来未タ
曾テ聞カサル所ノ自由ノ熱血ナリ
又大建高市氏カ板垣君ニ反対キ

嗚呼残念ナル一ノ強セシド惜ク
トシテ落トシタル自由ノ
勢ヒ多ク出タル後ニテ来タリタル
ニ時板垣ハ我今死ストモ自由ハ
ホロビスト言ヒシ之レ即チ「パトリック
ヘンリー」ノ一言ニ基タル敢テ少ナラス
而ケハ自由ハ何ツヤラシ自由ノ
大理ハ天賦固有ノモノナレハ之リ主
張スル板垣君一人ノ死セシ迚忽チ
滅ヒスルモノニアラス如何トナレハ今
伯爵板垣君ノ失ヘハ我党ハ益々
遺志ヲ奉シテ之リ主張スルノ
前日ニ吳ルサルニ吉ニ吳ナラ

サルノミナラス或ハ是ヲ倍ス盛ナラ
ンカ
一本日内務省ヨリ重病知病院電報ヲ以テ板垣
アスタリ痢追ニヨロシト申セシタルヨシ
一是板垣ノ病気沈痛ニヨリ起シ発後人
倫相奉走セシ由

四月十四日

一本日午前二時雲右衛門石附金谷久
理幸左衛門先導シテ高谷勇士藤島地西右
外九名ノ名士屋ヘ赴キタリ

一同ノ福角岩代國福角町工業社負岡
野知花本國ヨリ板垣見舞トシテ出發遂
中東京ヘ一日滞在セシ由同日浜
崎伊秀郡東柳瀬村義公德ナルモノハ
同角下自由党ノ幹事ノ由是亦板垣見
舞トシテ来着セリ

一同ノ高谷勇ノ同党ヘ電報ヲ発シテ板垣アス
当地タヲ来ルモノアラハ大垣之楼ヘ来
タレト中者ヲタリ

一 四日小倉英之ハ本國長根ヘ向ケテ出發セリ又吾輩ハ東京自由黨本部ヘ電報ヲ以テ板垣アスタッ途中ヘ一泊明後日長根着電ス長ハ四五日間ヲ殘ル筈ノ用方ヲ終ハリシテ不滿ナタレト申セタル由

一 同日午前九時谷干城病院長陸軍醫正急車ヲ以テ出發直ニ板垣ヲ一診シテ歸去レリト又中島伯爵行ノ一行ハ同十時大阪ヘ向ケテ出發セリ

四月十五日

一 本日午前十時半民權板垣一行ハ陸路中山道筋大阪ニ向ヒ出人ハ外ニ送別人及ヒ護兵自由黨員凡二十人許アリ左ヲ載セタリ（陸軍省人ハ陸軍一本多次郎伊藤一郎ノ二人ハ三十人許リ河原田ニテ別レ去ル）午後二時美江寺ニテ昼飯ヲ喫シ赤坂ニテ小休シ七時比垂井ニ着宿一泊セリ

但シ中ニ木棍棒ヲ携フモノ四五人袋入ノ刀剣ヲ携フモノ五人猟銃ヲ携フモノ一人其他護兵ハ途中ニ二度銃一度ヲ猟シタリ

垂井ニ於テ長州一番隊ハ分ル

板垣出立ノ日ハ十四日ノ夜垂井ニ宿ス

自由黨書記帰京ノ者

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

村山四左衛門ヲ殺シテ一同向村セリ

四月十六日

一午前八時過金井沢ヨリ変シ提灯人名他ノ
方々ノ処リ方ヲ戒厳シ十時氏宅ヲ沢ニ休
シ夫休ナリ夫内ヲ通過シ同ク午後一時氏宅ヲ
解ス柏原沢ニテ変飯ヲ喫シ夫根表ヲ一泊スヘシ
変把ノ目内変夫一名金井定吉出迎ヲ来リ
一夜他ノ方内面ノ中略ク移ク尚ノ他ニ出発セシ
メタル所ク新一名心変三名ハ柏原沢迄見送
ナキヲ恐メテ内変内ニテハ他夫ノ御別ニ見送
リノ為ニ迄他ニ出ルモノナリ（内内沢ニテ士族七八名
ハアリタリ）居宅所持ニ至ルモ亦同シ母屋一義モ

義塾沢ニテ去リ本多政直モ金井沢ニテ去ル相
模兼重ハ為ハ他ノ一人ニ為シ我カ一ノ兄変ノ兵ヲ
他ノ一人ニ変ヲ為シ我カ一ノ兄変ノ兵ヲ
ル平ト尊子ヲ放ル変ノ変ノ変ノ保護
スヘシト変ヘケレハ他変ハ解ケセリ
他ノ一人モ亦同様ノ所ノ変ヲナセリ
一夜他ノ他ノ変ノ変ノ如シ
退所セリ
毛利藩ニ未ダ藩医　板垣鉾右衛
ヲ為ス藩ニ村士族　松井憲章
　　　　　　　　　安地　茂吉
　　　　　　　　　宗戸　忠馬
　　　　　　　　　北条　雄敏
　　　　　　　　　田沢　千雄

〃 波越四郎
〃 塩見瀧之助
〃 安芸之代吉
〃 上岡数枝
〃 土佐郡秦山人町士族 安岡道太郎
〃 松原源之助
〃 小栗義三郎
〃 土佐郡江ノ口村士族 和田稲積
〃 塩見章
〃 岩崎新作
〃 能勢源之助
〃 柏井繁一郎
〃 依岡義一

〃 小野龍光
〃 鎌田重郎
〃 沢村龍太郎
〃 岡本芳徳
〃 岡本西平
〃 川口清志
〃 玉沢定
赤原宗冊
依尾茂

一板垣参遠ノ中張宿五井至ヘ出張代トシテ金十五円ヲ贈キ其他備立年ノ雑費九千余円ノ内先ツ板垣ヨリ立替テ五十円掛ヒ残金ハ右之村山并光ヨリ立ツ仕掛タル由

一本月正午ヨリ内藤豊一郎殿和ノ字和歌山藩ノ人ハ名古屋向ケテ出発セリ又名古屋発帯広セリト

一板垣一行出発後ハ時々近傍ノ人ハ大ニ騒擾シタル色アリテ殆ント暴徒アルヲ予カス既ニ如何ノ三宅住民居ナルモノ初メ自由党ニ与シセントテ同町ノ方ヲ後援等セシモ庶スルモノナリ去ル際彼ノ中数名ハ変ヲ予キテ大ニ恐怖シ其ハ急ヲ庶ルセリ以テ人心ノ一斑ヲ窺フニ足ル

一病院長ノ行所要書

板垣退助氏更修ハ種々施療治シ居ル

法制官一期療会ヲ開ク筆氏只々署

百ノ一剣ノミ来リ全ク流セス能シ氏ニ於テハ甚保証ス能ハス撫慰スルニ殆ル苦ハ之

来証ノミヲ預ル者良ノ者ト及行所ヤ

内務卒病院副院長

西川黙義

明治五年四月十八日

四月十七日

一去十四日名古屋(越)キリル言ハ知人ノ筆動有

本日書ハ知ル者ヨリ電報ヲ以テ

同方知ヨリ南地(来タリシ書生時地正

存ハ十一名ハ時行第ニ向ケ出セリ尚

留中ハ五十名ハ出発セリ尚

越シ又

重文
正存

意見書

岐阜知事越塚正吉志願長官野田

二十四番地平民

池田豊吉知

於テ明治十五年一四月六日岐阜神道中教院自由
党憲政党ニ於テ板垣退助ト共偽セシメタルハ其
事実明ニ於テハ被告人池田豊吉知ナルモノト所為ナ
ラント云フノ九件アリタシ既ニ公訴ハ
被告人ノ為聚ニシテ既ニ捕ニ於テ逮捕ニ就キタルヲ以テ
被告人ノ男ニテ其時教子件ト雖連セシヤ否ノ
事実ヲ探偵スルニ別ニ偵探スヘキ証徴モ
只是一時ノ浮説ナルニ過キスト思料セラル
因自十日ノ拘引ニ至リ不日釋放一件ノ義

秀一ハ其英之ノ三名ヨリ於武甲ヲ
ノ通リ被先人ハ赤面為醜ノ徒
犯タル者上目ヲ恐先セルニ依リ当惑
胸ノ捜索ヲ為ス中四月十日午後二時比
被先人ハ何レヘカ逃走セントスル形況アリ既ニ
今車ヲ乗ニ以加藤ノ方ニ赴セリキタリト名
義スル者アリ且犯人共人共ハ犯人ナリトシテ之ヲ
追跡スルノ在様ニテ実ニ瞞過シ後セニス可カラ
サルノ状勢ニ付半蔵ハ犯ト信徳ニ除審
係刑事補中谷善道氏ニ其旨ヲ通知シ直ニ心査
ヲ加ヘシニ被先人ヲ引改セシノ寡孔ヲ逐ケタル事
ニ号ノ如ク中倍ニ実ニ板垣退助刺殺ノ件ニ
関係ナキ旨ヲ主張セリ然ニ氏福人等ハ於テハ

去六日警視局ニ於テ被先人ノ来訪ニ関シ常
ナリシヲ保述シ且因幡ハ之ニ於テハ既ニ被先
人カ板垣退助ヲ刺殺スノ
意思アリト云ヒタルヲ耳キ又短刀ナルヘシト
思惟スヘキ物ヲ懐中セシヲ目撃セリト福元ニ
為内藤魯一ナルモノカ板垣退助ヲ殺ラニ之ヲ引留メ
退カントスルキ板ラニ之ヲ
謀殺ノ為ヲ容易ニシタカメキ形況アリト福述シ
其他ノ事実ヨリ推測スレハ被先人ハ本月廿日
謀殺ヲ企テ其目的ニ達セ
候ニ付キノ意見書ヲ福ニ福憲書記長ニ送致
ヲ依テ本月廿日被先人ヲ
ヲ件トシテ被先人ヲ審問セシ引渡キ

除審ノ必要ナキモノヤ

但被先人ハ本ノ句留狀発付ノ必要ヤ

明治十五年四月十四日

岐阜裁判所

代理人 横山成敬

岐阜裁判所

除審係ル補横山成敬殿

訊問調書

明治十五年四月十日午后三時三十分被告人池田豊吉為和ニ對シ

左ノ訊問ヲ遂ケタリ

問 其方ハ池田豊吉和ト申スヤ

答 然リ自分ハ池田豊吉和ナリ

問 其方ハ何ツリノ生レナルヤ

答 越後国古志郡長岡新町二十四番地住池田勇太郎ノ伯父ナリ

問 其方ハ年齢ハ如何

答 三十七年ナリ

問 其方ハ愛知縣士族相原尚褧ナルモノハ従来存知セシヤ

答 相原尚褧ト申スモノハ更ニ存知致サス

向　其方ハ本月四日玉井屋伊兵衛方ヘ何用アリテ参リタ
ルヤ
答　六日ノ自由党懇親會ニ臨ムノ手続ヲ為スニ付用事モアリ
且稀吉留吉ナル者ヨリ濃飛自由新聞ノ編緝擔
當致シ呉レヨト相談有ラル事ニ付右稀吉留吉ヲ尋
ネ旁玉井屋ニ参リタル処打揃ヒ人不在ニテ其場ニ村
山船一吉伊藤某本多政直外數名居合セタルニ付彼
是談話ヲ致シタル末村山船吉伊藤ハ少ク文字ア
リ共ニ談スルニ足ルモノナレ共余ノ自由党ト唱其場所ニ居
タルモノ素ヨリ無識ニメ共ニ話スベキ人物モ無之又相手
ニモ成ラサレニ付其席ニ列シタル人ハ更ニ其姓名ハ知ラ
サルモノニシテ有之候次第ナリ
向　其ノ時酒宴ヲ催シタル趣ナルカ其ノ相違ヤ

答　只今ノ連中ト玉井屋ノ坐敷ニ於テ酒ヲ飲ミタリ
向　其席ニ相原尚聚ナルモノ列タル趣ナルカ其方存知
スルナラン
答　自分カ存知セル人ハ只今ノ申立ル如キ村山外二三名
ノミニメ相原ナルモノカ居タルヤ誰カ居タルヤ大勢居タル
事故更ニ存セス
向　其節ノ酒肴ハ誰カ命ジタリヤ
答　自分カ命ジタリ
向　其方カ酒宴ヲ催シタルハ如何ナル次第ナルヤ
答　素ヨリ自分ハ兼テ自由党ノ人トハ懇意ノ事ニモ有リ
且ツ祭礼ノ当日ナルヲ以諸人ヲ振舞ヲ積リニテ自分カ
徳文ニ酒肴ヲ命ジ内家ノヒロト申ス女其場ニ酌ニ参リ
諸人充分ニ愉快ヲ尽シタル次第ニ付成ル程其ノ坐ニ

面識ナキノ人モ三四人ハ見ヘタレトモ素ヨリ名刺ヲモ受
取ラサリシ事ニ付誰ナルヤ知ラス帰リハ日暮頃ナル乎ト
覚ヘ自分ハ玉井屋ニテ今ヲ借リテ帰宅致シタリ此
咲ノ状況ハ徳文ノヒロ能ク兼知ノ事ナリト存セラル
向　其玉井屋ヨリ帰リシ晩ハ何ヘ参リタルヤ
答　其夜ハ直ニ帰宅ヲ臥シタリ
向　五日ノ日ハ如何シテ暮シタルヤ
答　五日ハ祭ノ当日ニテ前ノ娘二人参リ且社中ノ者六人計
参リ酒宴ヲナリ其接待ニテ終日内ヲ出テタルコトナク仕舞ハ大
酩酊シテ宅ニテ休居タル次第ナリ
向　然ラハ五日ノ夜ハ何ヒニ参リタルヤ
答　夜分モ何ヘモ出テス宅ニテ仕舞タリ
向　五日ノ日其方稲葉ノ山鳥樓ニ参リタルコトアルカ

答　成程考ヘ候ヘハ山鳥樓ニ参リタルコトアリ左時間ハ覚ヘハ社ノ
前大坂啓次郎ト共ニ同人ノ内客人ト三人連ニテ花又ハ山ホ見
物旁山鳥樓ニ登リ一寸酒ヲ飲ミ自分カ余程酩酊タル付二人
ノ者共浮雲イトヲ肩ニ自分ヲ掛連レ帰リ貰ヒタルコトハ有之候
向　其節汝ハ他ニモ致シタルコトハナカリシヤ
答　決テ左様ニ熟ハ不調法ナル事ハ断然無之自分ハ今日迄
ニ酔ヒ居シモ且モモ事実相違スル様ノ申立ハ不仕候ヒヤ
此ノ如キ大事件ニ際シ精密ナル吟味ノ時ニナラハ尚ホ偽リホ
ハ不申上度ナ迄ニ諸察アラセラレタル大体自分平生酒ヲ
謹ミ居ルヒモ祭礼休日カ続ヒタルコトナレハ毎日必常ニ酒ニ酔ヒ
居タル事其此ノ如キ精リ誰レカ来タルカ何時ニ何ノ処ニ行キタリト
云フコトハ尋相成ルトハ夢想ダモ知ラサルコトニ付判然申上兼
時間ホ精シキ義ハ分ラス故得共一体自分カ連レ立チタル人沢

啓次郎ニメ一人歩キハ勿論見又知ラヌ人ト歩キタルトハ決シテ無之歟
向其方ハ六日ノ日ハ何如致セシヤ
答六日ハ朝飯ヲ喫シ暫ラクスルト寓居ノ親父カ昨日酒ヲ上ケナシタ
依リ酒ヲ振舞フトカト申シ酒ヲ出シタルニ付一杯飲ミ居タル処
新宮社ヨリ懇親会ニリクエハ警察ノ保護ヲ依頼スルトカ申
来リタルニ付自分左様ナ馬鹿ナルトハアルニシトラヱヲ拒絶シタリ
向今其方カ云フ警察ノ保護云々ノ事ハ如何ナル訳ヨリ斯ノ如キ
場合トハ成リタルヤ
答六日朝ヨリ共進社中ノ者七八人程自分宅ニ来リ居タル処社長
鍵谷龍男来リ曰リ今度板垣ハニ面会ヲ為シタル処坐ニ内森
魯一ナルモノアリ痛ク漸進主義ヲ攻撃シ急進主義ヲ唱ヘ
少シリ議論ヲ為シタル処彼ノ魯一カ左様ノ主義ノモノハ捕ニ出
セトカ此坐ニ居テハ汚シル付サカレト云ヒタル趣ニテ余程厚人ヲ蒙リ

タルニ付吾カ兎モ角モ社ノ面目ニ関スルヲ以テ本日ノ懇親会ニハ出席
セサル旨申スニ付自分ハ之ニ同意セス仮令彼レ暴ヲ以暴ニ加フトモ我
ハ演説ト筆鋒トヲ以テスヘシ若シ会場ニ於テ強暴ヲ仕掛クレハ
逃テ可ナリ豈非ト雖モ此懇親会ハ臨会サル可カラサル旨ヲ申聞ケ遂ニ
社中ノ者ト一緒ニ臨会致シタル次第ナリ尤モ彼ノ党ハ此ノ如ク暴
慢ノ振舞アルモノニ付亦会場ニテモ如何暴アラントモ難計ト存シ
臨場ノ件社員田中上善ヲ以テ警察署ニ届ケ上来リタリ
向其方ハ懇親会場ニ於テ何レノ場所ニ居タルヤ
答懇親会場ニテハ二三間程板垣ヨリ隔リ社員ノ田中ノ次キニ居
リ其次ハ姓名不知人其次ハ近江人小倉某ト云フ者居リタリ
向其方ハ其場ニテ演説ヲ為シタルヤ
答自分カ其場ニテノ演説ノ趣旨ハ西ヘヘト行リ時ハ亦タ必ス東ヘ
行ントスルハ是人情ノ常ナリ板垣氏モ只ニ先ヘヘト進ミテ遂ニ

臭ヲ突キ倒ルヽ至ル可シ故ニ自由ハ必シモ板垣氏ニ依テ銘々ニテ得タキモノナリト云ヒ終リニハ自由党ノ者ハ此ノ沈静セル岐阜縣ヲ交セカヘシテ来リタリ岐阜縣ヲ蹂躙シテ来レリト論シタリ故ニ内藤魯一ハ頗ル激怒シタル様子ナリ然レトモ自分ハ此ノ如ク反對ノ演説ヲ為シタルハ実ニ我カ共進社ヲ維持セシカ為メノ精神ニ出テ若シ人ヲ殴自由党ノ為メニ壓倒セラル時ハ共進社ハ忽チ閉社ト為ラサルヲ得ス故ニ予カ演説ノ語気頗ル慷慨悲憤ノ在様ナリシヲ以慢リニ彼ノ徒我ヲ疑ヒ遂ニ中数ヲ掛ルニハ至リタリ呼嗚予精神アルモノナリ何リ此ノ如キ鄙劣挙動ヲ為シ暗殺ホヲ謀ラシヤ且ツ此ノ辺深ク諒察セラレヨ

向其方ハ板垣氏ノ変事アリタル後モ依然トシテ其會場ニテ酒ヲ飲ミ居タルヤ

答依然トシテ飲ミ居タリ

向此ノ如キ変事アリタルニ依然トシテ酒ヲ飲ミ居タルヤ如何ノ了簡ナルヤ

答成ル程自分モ一旦ハ立チタレトモ傷害キヲ聞キタルニ付此ノ事件ハ非常ノ変事タリト為シ事已ニ修リ且ツ三百余名ノ者共カ一同立騒ヒニモ及ハス敷此處ハ平穏シテ酒ヲ飲メマイトハ云ヒタルニ相違セリ何トナレハ此ノ如キ変事ハ共ニ憂フヘキハ勿論ナレトモ斯リ金ヲ投シ態ハ懲親會ニ臨ミタルモノナラハ事治ラハ一通接待委員ヨリ一言挨拶アリ退矣スヘキ宜シキニ只ハ一同驚立実ニ杯盤狼藉踏倒シ切ト云フハ誠ニ坐ヲ引キシホモ矣シ次第ニテ自分ハ変事ハ憂ヒタルモ會場騒ノ体共裁ニ付テハ頗ル不満ナル能ハサリシニ付此ノ如キ共カヤシ言上モ云ヒタルニ無相違

向其時汝カ傍ニ万力所ノハ重ト云フ女カ酌ヲ致シ居タルヤ

答 成程女ハ三人程来リ居タル氏名ハ八軍ト申スカ不存其内二人ノ女ハ自分宅ノ前濱村屋ノ娘ニテ有之タリト覺フ其他ニ子供袴ニ着キタルモノト老人ト又方縣郡ノ人ニテ懇親會ニ来リタル人ト都合七人斗居タリト覺フ其節自分ハ事カ治リタレハ別段斯ヘ切リニテ来ラサルヘキニ付酌ヲ為シテ宜シカルヘシトハ云ヒタリ

向 其方ハ其節懷中ヨリ短刀ヲ出シテ女ニテモ示シタル様ノヿハ之レナキカ

答 是ハケシカラヌ事ニ付ネヽリ自分不肖ナリシ為ニ懇親會ニ演說ヲシニ行キ何リ短刀ヲ持ツヿヲ為サンヤ元来六日ノ懇親會ニハ田中上善ホ誘ヒニ来リ羽織モキス前掛ヲメタナリ其候出掛ケタル様ノ始末ヌメトコニモ短刀抔ヲ持テ掛ケ與之ヒ且ツ我共進社員内ニテ剃刀一本ヲモ持チテ来リタルヿ無之若シ此ノ如キ鄙劣未熟ノ事ハ自分ホ立テ為サル處ナリ

向 其方ハ近日脚ニ怪我ヲ為シタルヿアリヤ

答 有之候 此時脚ヲ露ハシ麻処ヲホス極メテ微ニメスリ疵ナリ

向 夫レハ何レニテ何日怪我ヲ為シタルヤ

答 五日ノ日宅ノ外ニテ顛ヒテ膝ヲスリムキタリ

向 其方ハ去ル六日ノ変事ニ付(罪)係アリト云フ評判アルヿヲハ存ヒタルヤ

答 成程自分ヲ疑フ世評アルヿハ存居ルナレトモ是ホハ実ニ虚説モホ甚シキ事ニメ誠ニ洪歎大息ノ至リナリ自分至愚ナリト雖モ然ルニ此ノ如キ無根ノ說ノ為メニ遂ニ此手數ヲ煩ハサントハ是レ誠ニ是非モナキ次第ナリト存ス且ツ我ハ濃州白田党ノ連立ナル者共ハ却テ信セラレ居タトコロハ覺ヘタルニ此說ハルニ至レハ意外ホ

々甚ミキ「ナリ若シ仮リニ自分カ彼ノ暴客ノ党中ニアルモノナラハ何如テカ此ノ変事ノ後ヲ恭然トシテ居ラルヘキノ道理トリ直テニ悄々トシテ逃ケテ来ルヘキ筈ナリ又此世評アル事ハ既ニ我社ノ新聞ニ掲ケテ天下ニ公告シタルカ如キノ次第ニテ全ク自分カ平素大ニ酒ヲ使ヒ且ツ其夜ノ演説カナト激シカリシヨリ此様ナ説起リタルモノト信ス

向 其方近日鬢ノ剃リタル趣ナルカ如何ナル訳カ

答 昨ニ只徐ロニ暖カナルニ付邪ナリ故ニ三日三晩宅前ノ髪結床ニテ剃シタリ

向 其方ハ他人ヨリ斯ノ如ク世評アリテ悪シキ故何ニカニ此気燄ヲ避ケヨト心添シタルモノハアリタルヤ

答 別段左様ノ事ハナシ只宿ノ親父カラ村田来蔵ホキ御前カ板垣事件ニ関係アリト云フ疑ヒアル趣噂シ居タルヽ

付又何ニナ事アリテモ宜シクナイカラ注意スヘシトハ申ス云ヘリ

然ルニ自分ハ素ヨリ公明正大ノ心事故決シテ他ニ其気燄ヲ避クルカ如キ事ヲ為スヲ欲セス既ニ嘗テ安岐日報ヨリ頻リニ自分ヲ聘シ今月始メニハ行ク積リニテアリタルニ当今斯カル風説アル時ナレハ自分ハ此地ヲ動キ立テヲスルヲ為スヲ欲セス故ニ先ツ此疑説ノ氷解スル迄此ノ地ヲ動カス又積リナリ又共進社モ是ノ事ヲ左ト申シ暫ク従来ノ如ク務メヨトノ事ニ付今日マテ日々社ニ出勤致居レリ

向 其方ノ履歴如何

答 自分ハ明治六年ヨリ同九年頃マテ岡山県ニノ学務ヲ奉職セリ一昨年ヨリ名古屋ノ安岐日報ニ入昨年七月十四日当地共進社ニ来リ其已来何レモ出ス尤履歴ノ詳細ハ入用ナレハ書シテ差出スヘシ

向本日ハ何ニテ酒ヲ呑ミ居タルヤ

答今朝旧岡山縣ニテ知合ノ人ニテ中村実逸ト云フモノカ自宅ノ筋向ヒ宿富ヒルヲ知リ尋ネテ来リ共酒ヲ酌ミ替ハシ其内ニ矣ノ合セタル姓名不知什言人ノ由此者共ニ梅荘ニ散歩ニ来リ或ル酒楼ニテ一酌致ス其様主ノ頼ミニテ對立ニ居ヲ認メ扱致シタリ

右ノ通陳述ヲ録取シ読聞セタル處異相違旨申立ルニ付其ニ署名捺印スルモノナリ

池田豊志知

明治十五年四月十日午后六時訊問ヲ終ル

岐阜軽罪裁判所

検事 奥宮正治

附記

此訊問ヲ為スに被告人ハ酒ヲ被リ余程ノ酩酊セシ在様ニテ語気少シリ疎暴ヲ帯ヒ事実順序ハ前後錯雑スルヿ少カラス然レトモ精神全ク錯乱セシモノニアラスト認メタリ

乙号ノ二

明治十五年四月十三日午後岩田中之助
書シ来ル面ノ訊問ヲ為スベキ
問　本月四日生方カ為替金百円ヲ携帯シ
西ヲ流浪シ自由形字猫踊ノ時ヨリ方角ヲ失中
ニテ死ルカ生ケルカ知ラズ
答　日時ハ忘レタレトモ去ル月二十日頃後ヨリ来ル人ニ為替
百円ヲ盗ミ取ラレタルヲ以テ自分ヲ殺シ自由
形字ノ書見ヲスルヲ来リトヲヨト形字ノ下ニ付
見物おアリ又惟カ同ヨウニ為替ヲ自分カ家ニ
ヒキ入ル自由形字ノ猫踊ニ岩田徳義カ殺サレ民何
分ヲ付ケキ下ニ付自分ヘ百円ヲ出ケ呉レヨトノ下ナ
民自分ヲ殺ス如ク邦神セラレ人ノ約アリタルニ付
故ニ自分ヲ西ヲ流浪ヲ決シ西ヲ流浪ヲ決シ
故郷ヲ西ヲ流浪ヲ決シ

彼を伴う後に行かせ民事ヨリ国益且ハ公益ノ儲
ケトナシ助力ノ取スヘシトテ何分新ムト
テ分シ兵部省ヨリ其等ノ所ヘテナシ其日ハ休日ニテ
事務取扱今ノ切府ヨリ求メサンテ事ヲシノ以テ留
ヲ郡ハ積ニテ西井原ヘ自由党ノ事務所ヘ来
リ夫ヨリ帰宅ナリ

問 生方ハ去ル廿七日ノ後七軒町ノ魚松ニ到リ生方ハ
田島義ヘ助健ヲ誘ヒ男カ来リ何カ言ヒタルヤ
ヲ知ラサルカ

答 先日ノ事ハ記ス所ニ依テ休日後ヨリ朝カラ
田ヲ飲シ夕方ニ帰宅シ朝夕ノ様ハス飲ム方ナリ只ヒ帰宅ノ後ヒ
歩キ様ヒ酩酊ノ上ニ付宅ヲ出テ弘ヒト就ヘ行キタル
ヤ故心ノ無キノ有様ニテ寄ラシ為待ち立ノ朝ハ大澤

原二郎方ヘ来リ原二郎ト分ノ一人トシテ共ニ歩行
キタルニ付ハ大理某方ヘ立寄リタルニ
モ居ラス只ヒ為ニテ郡ヒ徒ニ帰ノ為シ夫ヨリ者カシ
バリテ呉ヒシタルニ付ハ共ニ支ヘ原二郎カ自分ノ肩
ヘ掛ケ帽カ山島橋ヒ到リタルニ共ニ酒屋ヘ立寄リ
トシト雇ハ取サス左ヒ酒屋取シタル梯ヒ共ニ魚松ヘ到
リ健谷和ヒ者ヒ人ト喧嘩シタリト云ヒタルオノレ共ヒ
共ニ寄シ居

問 汝ハ生方健谷ト田島ヒ何カ言ヒ喧
嘩シタリト言ヒタリタルヤ

答 聞中ナシ夫ヒ共ニ支ヘ帰宅ハ自分家ヒ
シテリ居ル彼ヒ来リカ信セラレ居ルト共ニ支ヘ立ルヤ義ヒ
付彼レト喧嘩スルヤ答ヒ又生方ハ帰宅ハ一度ヒ

遠ヘタルヤ 既ニ昨晩上京ス 俺ハ未タ無之カ自分
命ニ在前ニ当何ト云ハ 喧嘩ヲ致シタルヤト 見タシ
ハ 俺ハ不知ト云テナシ 其ヲ久野ヲ存知カ
ヲ言ヲ不積ハ 其ヲ了ナリト 信ヲ
問 其方ハ 当然 親会ヲ掛ハ 逢ヒト 同意セシヤ
答 当ノ彰ハ 彰ヲ 秋 職ニ 出ル ヲ 又 分ノ 高キ ヲ
入ル ヲ 之ヲ 来ル アリ 酒ノ 飲シ 親会 今ハ 彰
掛ハ 四郎 上ル 義ヲ 誘ヒ ヲ 呼シ 秋 ノ 彰
ヲ 存 来ル レト 方ヲ 屋敷ノ 上リ 庭ニテ 彰ノ
酒ノ 飲シ 居タル 俺ハ 二階ニ 上ラス 寝ル 何ニ 持タス
居 俺ニテ 四郎ト 一緒ニ ヲ 居 田徒 成 ヲ 寄ヲ
通リ 元 存 四人ノ 誘ヒ 自分ハ 少シ 分ノ 酒
隠シ ヲ

問 其貴様ハ 位酒ノ 辞ヲ 致タルヤ
答 人ノ 親カ 分カラサル 程ニ 酔サレ 先ヲ 飲程 酔
可 敢シ 居シリ
問 其方ハ 気持ニテハ 乱分ハ 慣カデ アリシヤ
答 今ハ 一スヌリ 飲程 酔 伝ヘ ヲ サル ヲ 雑 当 一次
ノ 方ニテ 彰ヲ 秋ヲ 抜シ ノ 方 ウ ウ ト 騒リ 居リ
タル 中ニ 誰カ 俺 仕 モノ ナル カ 彰ヘ 騒リテ ハ イカヽ ト ヤ ス ヽ
付 掴 ノ ハ 義 ヲ 見タル 中ニ 石ヲ 投ヒ 深ヲ 再ヒ 座
ニ 居タル 中ニ ナリ
問 其時ニ 居キタル 後ニ 居 騒リテ 藤 帯ノ モノ 倒シ
リタル ヲ ハ 見 ヲ ハ タル カ
答 前ヘ 倒シ 掛リ タル ハ 見 ヲ サレ 何分 酔 ヲ 暗 カリシ ヲ
見 居シリ

問　左兼ト席ニ就キタル後左方ヲ眺リフシタルトキ
次席ノモノカ起シタルト云フ何
答　自分ハ兼ト席ニ就キタル後ハ必ス左眺リハ取
サル様ニ心ヲ配シタルトキ四角ニ上差ナカ自分肩
ヲ抑ヘ君眺ムワケヤアイカト云タ様ニ約ニ答ヘタル
問　相手ハ眺ヲ方ノ次ニ着席シタルハ泄カ無ト
答　上ノ方ニハ慣ル眺男四角ニ上差ヲ次ニ自分
左下ハ小金果ナリ兼ト着席ノ後自分ハ小
金ノ方ヲ眺カ為ニアリテ少シ下キ之ヲ取タルモノ
問　金原ラシキ人ヲ程ニ生リ見シ去ルヲ見タル井
左ニテ面倒アリシ人ナリヤ

問　左男着席ノトキ互ニ生ヲ儀リ合ヒタルヤ
答　然程丁寧ニ生リ儀リ合ヒタル様ニ答フ
問　左方ハ様ヲ眺カ上キ儀リ四角ニ上ヲ様ハ
ヒタルトキ内角ヲ上ヲ様ハ
答　左ハ内角サレ親父ノ望リシヤ
答　左ハ判ノ判紙ハ答ヘ方ハ自分ハ若ハ徳義
ノ為ニ取リ様ノ為ニ取リ答ヘ内
容カ様ハ方ニ立ハキタルトキ内容サレ親父ノ望
ハ若ハ茶ヲ入レテ呈シテイヅト言ヒ掛ケタルト
慣ニ立ヲ見ヘタリ左ハ内容ハ後ロヲ振返リ何ヒ
面ヲ出シテズートアチヘ行キタト答ヘ左ハ時立
ハ此ヲ云フタカ生シテ云フタカ判紙ハ答ヘ又様
ニ答ヘ遅掛テ行キタト言タル様ニハ決シテ答ヘズ

何分破船ノ上ニテ使タ内ニ船ノ上ニテ人ハ彼し
カ為ニ働ラキシテ即チ六ツノ船ノ様ニ
ト内ニ船ノ福ノ件リ カ自分ノ心魂
ヽ徹シ左内ニ船ノ方ヘ行キタル氏 板ノヤリトリヲ成
次第ニテ方ヘ方ヘ穴ノ方ヘ彼レヲ厚カシム(シトモ内
ハサシ氏ワイ影ハ一ニ云ヲ云ヒタル四郎ナリ

曰 左衛門ハ即チ板垣ノ退散ノトキニテアリシヤヲ左
方カ演説ヲ御ラタル後ノ一ナリシカ

答 惟ヒ自分カ演説ヲ聞キタル後ニテ判然ト大完
(サル氏自分カ内ニ船ヘ)ヲ掛ケタル時カ即チ板
垣氏ハ後キ内ニ船ノ時ハ一シト思フ

曰 左方ハ彼ノ内ニ船ノアリタルトキハ生ヲ立テ言フ矣
即チ現場ヘ乗リタルヤ

答 其言一向ハワト云テ或ハ傷ヲ受ケテ死
ヒ出スヘキノヤリタル氏自分ハ三ケタルノミニテ内ニ
チリタル現場ヘ乗ラス

曰 影ノ如キ内ニ船ヘアルハ先人情トシテ負傷者ノ傷ヲ
ハカカ或ハ先鋒ノ如何ト思ヒ出テ見ル(キニ左方
依然トシテ生ヲ復シタルハ如何ナル負ハヤ

答 左衛門自分ニ立チタル氏中ヲ大混雑ニテ側ヘ
ハカル(ヤ)程状ニアラス故ヘ乗ラサルヲ自分ノ傷
ヒ二人ノ生生ガ左リ一人ノ方ニ郡ノ人ナリト云ヘタリ先ヲ去ヲ
板垣氏ノ傷ヲ洗シトキ影シタルヲ存先ヲ去シナ
ハ先程ヲ踏カスト云ヒタル片腹
ナカ乗ラ乗ラタルハ四郎ノ後ヲ乗キタルヲト云フ先ヲ酒ヲ飲メトヤ云
シヒ場ニハ彼ヤウ如ク程ヲ乗ラ

曰 左方ハ席ヘ後シ酒ヲ飲シタルハ内ニ船ノアリタル

ヨリドシ狂陽ニテアリシヤ

答 一旦ヨリ立チ接待ラシキ人寄リ先ヤリ立シチ
ヤトヤシ酒ヲ飲ミタン人ハ夫狂時ハ陽ニサリシテ
ト思フ九番ニ生ニ後ニ後ニ先ヲ火ヲ点シタリト完
一何カ時ヨリ申ヨリ新妻ニ上ル

問 ヒヒカ居ヒ居ニ於テ別ニ女ニ者シ仮令人ハ二人
ヤニ人殺サレタトテトノアルカ主駿ケ出シ既ニ已シキ
板垣ヲ殺ス殺リデアリタトフト云ヒヒ云フアリヤ

答 ヒヒ云ヒ怪シカラヌフリ仮令自分ハ何狂ト
沈着シタリト雖モ狂人ニテアル何ノ此
場ニ於テヲシガ板垣ヲ殺ス殺リニテアリシ拵ト答
云ヒヲ殺ヲ申聞シナシ為シ仮リニモ別ル狂言ヲ
殺ケタヒヒ云フヲ少キ別ニ女モ馬荒ラウカシ居ニ居ヲ別シタ

ん別ニ女ニ就シテハ何モノヒ 左ニ自由ニ者ヲ又ハ射ハトリ居ヲ人ナラサンハナク何ノヒノ者ヲ自由
覚ノ人アラサンキリ時ナシ迄ヒ出ヒ云ヒ海シヒ少ハ自
分ハ居ヒ居ニ捕ニ就リハ必ズ出リ況ヤ分ニ
後代人モアリ自分ト別ニ女ト只二人差向ヒニ居ヲ
場所ハアラサンヲヤ別ル言ハ何ノ別ニ女ヲ
仮リタン力ヲラサレ虚誕ニ実ニ者シキ下ニシテ
居人ヲ彼ノ者人我ヲ社ヲ絞シ自分ハ逃
社セシムン者ニ直ヨリ此ヒ者ノ秘ノ仇ヲ為ス
モノト思ハ偽ニ云ヒニ七大息ノ如ハ場ニ出ヒ
ハ答ヒ者ヒ者ヒ下ノ係ニアラシテ下ヲ作ル
問 殺ラハ口ハ婦人オドシ分ニ板垣ヲ殺ス者
ノ云ヒヲ云ハサンニ者ヒ者ヒヤ

〃 寺ヨリ拾丁ホド切ハナレ言ヒ云ヘテナシ

〃 兵方ハ兵庫ニテ強力ニシテ物懐中セシ由ナ

ルカ無テ花ハナヤ

〃 只今お体迷ノ中金ノ訳方キキヲ[illegible]ニシテ決

シテ力ヲ以テ無理ニ出ル気上ニ脇ヲ押レナシ兵ハ先

別ニ上ヘ無ク宮モヨリ方ヲ出掛ヘンヲ以テ南リ

ヨシ言ハ城ニテモ居ラ切ノキニ只者タ仮ニテ

多リヘテ出ハ膳中ニカヘン強力ナトツ入ヘキ様

アラス只ツ脇場ノ者ハ表ノ保護ノ仰キヘ

相ノ空ナシ若シ第一自分カ居ノ働ク様ナ

シハ何ツ自分ヨリ保護ノ望ムノ決アヘキ

ヨリ考ヘテモ強力ノ持ナ所ヲサルハ好様ノ

ト存ス

〃 兵方ハ去十百稲毒揃ニテ名古屋ヘ切ト

車ヲ飛ヘヘハ何ハ稲毒揃ニテ酒ノ飲シ所ハ梅花

〃 何程稲毒揃ニテ酒ノ飲シ所ハ梅花

モ多リヘヘ存ヨリ名古屋ノ大海ノ花ヘ

切カラ更ニ汽車ニテ名古屋ノ酒臭ノ上

市読ニモ[illegible]ヲ飛ヘロト金ノ酒臭ノ上

ヒ飛ヘヘハ知ラサル所ニ[illegible]アリシ[illegible]ヲ出

アラス兵庫ノモノモ金ノ切ノ様ニ

ト思ヒ居リ

〃 十百ニ兵方ニ書シ訳ハ言ハ泄ル様ノ

所ヘ居ヘヘ相ヨリ兵庫ニハ少ク考ヘ通ナキ

カ

〃 兵庫ハ強盗所ヘ敗シヘヘ存ル所ノ事実

ハ世ウノハ情報ヲ後ニ報ト称スレモ大概ハ
決シテ百姓ニ先ヲスル積リナリ
於テ之ヲ陳述ヲ報ス読ミ セタンヲ多ク有ル
ヨリ一ヶ月ハ何ト於テ嘗名指ヲ示スモノナリ
明治十五年四月十三日
午後七時三十分仰ニ付伺ス
池田出張 名指

岐阜報裁判所
指令 要ニ応ジ取計ヒ

明治十五年四月十一日 酒井八重ニ宛シ先ノ訴ヲ為シタリ

問 当月明治十五年四月六日岐阜中教院ニ於テ
自由党員ノ名ヲ徳久ヨリ聞ケシタルヿアルヤ
答 然ル所ノ名ヲ徳久ヨリ聞ケシ覚ヘ無シ
問 其方一人ナルカ
答 然ラス自分ト妹タリ七軒所ノ八重トナ
加ヘ四人ニ為ルヿ
問 其方ハ板垣氏ニ面会ノ変アリタル事ハ
ナセシヤ
答 自分ニモ大隈説ノ事ハ自分等モ其然リ
此ケ様ト存ス 尋ネ人ニ止ナラシ再シ

元ノ主家ニ立戻リ其後一人ノ若キ人ニテ他
ノ船所ノ板子ニテ板垣カ殺サレヨーガ何
ニモ夫シキ事ニ踏ノ事ハナイ是一番ノ
弱ヲセヨト怒リ居ル板子ニ付自分ノ花ニ妹タツ
ト其時ニテ色ト所持ノ国ノ私金ト出来テ
問 其女其夫キ人ガ其方事ト何トカ申セシカ
答 板垣ノ悪口ヲ申サレ板垣ノ流儀ノ丁ニ付
テモ色ト悪ク悪ル口ヲ申ス飲セレ其旦自
分ニモ悪口ヲ申サレ其板垣ノ丁ヲ申サレ其板垣
女ノ事ナレハ何ニモ出来ヌ故能ク アシラヒ
居タ
問 分二名ノ二住ハシ女ヒ軒所ノ八重分一名
ハ其ノ板ニ居合セタルカ
セシヤ其ノ板ニ居合セタルカ

答 然ラス其二名ハ強盗ノ際先キ逃ケ帰リタ
問 其方等ト別シテ其男ハ何レト申タルヤ
答 此方カ板垣ヲ殺ス積リテアツタト申サレ依故
自分ニモ悪口ヲ言キ人カナ○ト存シタシ能能
ク板垣申シテ居ル
問 其人ハ何ニカ怪中ヲシテハ居ラヌカ又ハ見セ
セヌカ
答 彼是大キナ騒ニテ唯ニク板垣様ノ出シナサ
レタ内懐中ヨリ何ニカ変ナ物ヲ少シ見セ
ラレタ
問 其変ナ物トハ何品ニテアリシヤ
答 聖トハ見ケ子共様ノ物カト存シタ但其自
分モ悪口シリナリタルヲハ確カトハ見ケ分リ

問 昨日拾ノ体ニテ懐ヨリ見セタルヤ

答 猶ノ事ヲ少シ聞キ度ノ事ニテ先キノ方ヲ拾リ少シ見セナサレタ

問 其時其方ハ猶拾ナルヲ知テ思ヒシヤ

答 拾リタル位見セラレタ者少シ見タル様ニ覚ノ拾ト見ケタ

問 其他ニ其方ノ怪シト心付タル事ハナキカ

答 何カ懐中ニテ居ラレルト存ジタル間ヲ拾ノ様ニモ片方ノ手ハ脇ヲ拾リ片方ノ手ハ脇懐ニ入レ居ラレタ又其人カ腰ヲスル折ニモ懐中ニテ何カモチ〳〵ナサレタ事ハ自分等ニ拾ヲ少シ見セナサレタ故ニテ腰ノ拾ヲモ思ヒ出シタ

問 其若キ人ト云フハ何歳ノ人ナルヤ其時ヨリ系

答 おせとや

問 其時ハ何歳ノ人ヤラ系ガセス百ノ悪ヒ人ト存シ居ラレタ拾ヲ世間ノ物拾ヲ系ケモ居リタ様ニ覚ヘ申シ居ラレタ人ニテ矢張何中時百ノ裏ニ居ラレタ人ニテ他ノ人ト云フ人ナル由系ガイリ申シタ

問 其者ニ渡シタ居ラレタ人ニ居合セタルヤ

答 大抵ノ人トカニテ人居合セラレタ様ニ覚ヘ其家ニ渡シモ居合サレタ

問 其ヨリ其方ハ怒リナラシ百ヲ飲シ何人カ其人ハ怒マシリ怒リナラシ居テ何カ居ラレタ様ニ覚ヘ

公ノ事ニテモ公ニ成ルト掛リ合ト存シ内密
沙汰
ノ方ヲ深ク探索シ疑ヲカセタル姿ニ成ナキ旨
ヲ述フ但シ密ニ探索スルカ如キ

第五号　四月十一日　酒井八三郎印

探索掛事補野田謙造

岐阜警察署詰警官ヲ以テ訊問スルヲ以官印ヲ用ヒス

第五号　被告人　池田豊志智ノ伜人トシテ
酒井八重ヲ祝ロスル件ニ付左
ノ如ク其方ハ本月六日中教唆惑乱ノ時的ニ乗リ
居タル趣ナルカ扱ハ氏ノ変事アリタル旨ト其扱
者ノ事ヲ申立ヨ
答　自分其時ニ居タル家ニ乗扱ハセカ日ノ入頃
迄立ニナリタルニ付郷ノ方ニ把居タルニ彼ノ変事アル
ヲ聞キ妹等警ヲキドチヘ逃ケヨウ扱狼狽致シアチコ
チ跡居タル家松本ノ料理人カ呼ノ方カ呼リテハ困マル
ニ付是非帰リ呉ヨトノ事ニ付再ヒ生家ノ方ニ参リタ
ルニ其ノ家ニ一人ノ男ノ家ニ参秘酒ニ酔ヒタル体ニテ抱カ
来テ的ヲセヨト云仮令ニ三人切ラレタト云テ仕方モナキ
事ナリ夫レニ此ノ扱ニ驚ク事ハナイト云ヒ大ニ叱リ廻シ

居ラレタルニ付自分モコハ〻ク傷ニ依リ酌ヲ致シタルニ種々ナル悪口ヲ申シヲレカ板垣ヲ殺サズ（サズハ方言殺スヘシトノ意ナリ）ト思タトカト一寸言ヒ又何ニヲレカ板垣ニ殺サレル積リデアリシト梓ヲ言ヒ替ヘタ様ニ御覚エ又只今ヲ懐ロニ入レ何カ持居タルニ御覚ヘ是ハ刃物ニテモ持テ居リテハ恐ロシキ人ナリ且又何ニナ掛リ合トナルカモ知レスト思ヒ直ク帰ル

問其汝カ見タリト云フハトーー云フ物ニテアリシカ

答何分騒ノ為旦今次ヲ付ケタルキナレハ慥カニ短刀トハ見受ケサレ居ル様ニ御覚タル様ニ付ヨリ実ニソット踏シ緒ヲ糸リ何分暮合ノ事ナリ別ニ短刀ナリトハ申上ケ兼ル

問緒ヲヨリ出テ居ノ長屋ノ処ヲ糸リタル処松野八重

松居合セタルニ出合ヒタルヤ

答八重共ニ逢ヒ大勢人コヒノ事ヲ教ヘラレ〻ニテ

踏宅踏シタリ

問其松野八重松ノ家ヒタル中其ノ池田ノ事ヲ噂シタルヤ

答八重カトーシヤアツタト問合ヒタル居ロ〻ト恐ロシカツタ

ト答ヘ其ノ後ハ池田ノ事ハ何途ニ松テ

沒ニモ噂ヲ申候

問其方カ池田ノ傍ニ酌シテ居タル中ハ誰カ居合ノ人カ居

リタルヤ

答孰レモ立テ出テ呑ニ夫ニ余リ人ハ居合セス候得共自

分カ池田ノ酌ヲ為シ居タル中ニハ大坂ノ人ニテ早川

トカ申人其ノ処ニ居合セタレハ池田ノ大声ニテ リキニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タルホノ事ハ其ノ人カヨリ氣配ノ一ニ有ル後
又其家ニ待ヲ着キタル子供ハ居サリシカ
ニ子供ハ居タレトモ皆シ勝手ノ方ニ集居タリト云フ
又其方ハ六日ヨリ昨来彼ノ池田ト云フ人ニ就シカニテ
出逢ヒハ致サヽリシカ
ニ去ル十日ノ夜ト覚ヘ自分一人ニテ稲荷ノ芝居ヲ見物
ニ参リ十時比芝居ヲ出テ暫リ参リタルニ後カ大
勝手ニテ芝モヨロ〳〵陽ニタル人カ自分ノ袖ヲ押ヘ山鳥
樓ニ行ヒカト申タルニ付後カト思ヒ能ク スカシ見ルニ先
日憲兵分ニテ思ヒタル池田ニ付是レハ大変ト
思ヒ袂ヲフリモキ昇平樓ニ逃ケ入リタリ其時迄
中ノ人カ自分ノ走リタルヲ見テワシモ酔人ニ突掛カ
ラレタアノ人モ突掛カラレタヘシト噂シ居タル事モ有

リタリ
問 其方ハ昨日松理ハ八重方ヘ使ヲ差ハシタルヤ
答 ハヽ用事之アリ手紙ヲヤリタルコアリ
問 然ラハ昨日ノ晩方ハ八重方ニ参リタル事ハ之レアリタ
ルカ
答 昨晩ハ八重方ヘ参リタルコトハ無之
理察ニテ母様等アリタルニ斯クト申シテタリト
云ヒタル事ハ無之
答 陸軍ヲ深夜ニ至リタル処ハ参上仕
申シタル付共ニ署名捺印スルカヤ
酒井八重捺印
明治十五年四月十日 岐阜軽罪裁判所ニ於
午后二時了 検事奥宮正治印

番外

池田豊志知ノ事件ニ付参考記事

一 明治十五年四月十二日兼吉留吉ヲ呼出シ兼テ濃飛自由新聞ノ事ニ付共進社員池田豊志知ニ何カ諮合ノ事アリタルヤ否ヲ聞クニ留吉ハ兼テ共進社トハ主義ノ合ハサル事リ同社員トハ別ニ親クセス豊志名ハ三四度面会ノ事モアリ一應ハ存シ居リタレトモ元来濃飛自由新聞ハ岩田徳義カ編輯ヲ掌ル事ニ付外ニ編輯ヲ傳等ヲ要セス故ニ池田ニ新聞編輯ノ事ヲ依頼セシ事ハ之レ只留ル池田ニ面会ノ時自分ハ豊岐日報ニ聘セラル事ニナリタリトラ其書面ヲ見セタル事ハ有ル七月ヲ中立タリ

一四月四日ハ藤吉留吉ハ板垣ヲ新加茂迄迎
ヘ行キ玉井屋ノ自由黨事務所ニハ居ラサ
リシ由ヲモ申立タリ
一今日岩田徳義ノ申述ヲ聞クニ四月四日玉井屋
ノ自由黨事務所ニ池田豊志知カレク醉
ヒタル体ニテ来リタル事アリ然シモ別ニ相原
尚聚ナルモノヲ尋ネテ来タリシ様ノ状況トハ
見受ケサル趣キナリ
一又本月六日自由黨懇親會ニ趣カント仕度
中徳義ノ宅ノ前ヲ池田豊志知金程酩酊
ノ体裁ニテ一緒ニ懇親會ニ行フトテ
徳義ノ袂ヲ引張ハリタシモ徳義ハ直ノ跡
トヨリ行クトテ池田ハ一歩先ニ行キタリ其ノ時

池田ハ慌ヲ二人ノ者（此名不知モノ若シクハ田中上善ナルヘシ）ニ扶ケラレ醉
歩蹣跚ノ在様ナリシト云フ
一仝十二日四藤魯一ノ陳述ヲ聞クニ曰ク去ル六日
ノ懇親會場ニ於テ板垣退助退散ス第
魯一モ引キ続キテ立チ縁側ニ至ルノ時池田
豊志知ナルモノ態々縁側ノ処ヘ来リ後ロヨリ
四藤サシト用アリケニ詞ヲ掛ケタルニ付應ト
云ツテ振リ返リタル處池田ハ暴ヲシテヤイカ
ントカ云フタル様ニ見ヘタシモ必ス魯一ニ云ヒ
タルヤ外ノ人ニ云ヒタルヤ心ニ留メスシテ其儘
縁側ヲ行キタリ右ノ如ク池田カ声ヲ掛ケタル
ヨリ板垣ト數歩後シタリ若シ此ノ門ナク板垣
ノ直ノ後カラ行キタラハ行先者ニ板垣ハ此ノ

如キ負傷ハセサリシナルヘシト思惟セリ一体
池田カ其ノ坐ニ於テ拳動ノ異常ナルヿ
ト又用モアラサルニ態々椅側ニ来リ酒ヲ勧ケ
暫時退散遅緩ナラシメタルハ必ス行光者ト
同謀シテ好機会ヲ與ヘタルモノナラント想像
セリト云ヘリ又内藤魯一ハ六月ノ朝田島
庶之助ノ紹介ヲ以鍵谷龍男カ板垣氏ニ面会
ノ時共進社発兌ノ新聞ノ件ニ付内藤
ハ痛ク鍵谷ヲ駁詰シ鍵谷カ弁解スル日リ
魯一ハカンナ言ヲ左右ニ寄スル様ナ主義ノ
モノト坐ヲ同スル能ハス此坐ヲ汚スニ付速ニ
速ヤ帰リ呉ヨト田島ニ言ヒ既ニ引揚リ出サント
立掛リタル時漸ク田島之ヲ支ヘ其板垣

之ヲ留メタルヨリ先ツ事偏トナリ田島鍵谷
ハ早々坐ヲ退キタル事アリタト云ヘリ
一又仝十一日午后三時過御国町福寿楼ニテ
巡査池田孝忠氏ヲ引立ル時内藤魯一同
楼ノ廊下ニテ池田ニ逢ヒ又イツカ君ト怨恨親
會ヲ先ツ一杯ヲ傾クヘシト云ヒタル時池田ハ
先日ノ怨親會場ニテコヲカ君ヲ留メル故アリ
驚嘆ニ堪ヘタリトテコヲハ斯ル嫌疑ヲ受ケタリト
云ヘリタリト魯一ヨリ陳述セリ（池田カ氏詞ヲ吐キタルハ其ノ家ニアリシル高知縣島地
正夜モ現ニ之ヲ聞カリタリト云フ）
一福寿楼ノ主人ニ就キ十一月池田カ右楼上ニテ
酒ヲ飲ミ居リテ名古屋行キノ人カヲ訛ヘタル事
アルヤ否ヲ捜査スルニ池田カ現ニ名古屋ニ行ク

トテ人力車ヲ言付車屋ヲ呼ヒ来ルトアシハ
ヤメニシタトテ車屋ヲ呼リ其帝車夫ニ六銭
ヲ立テ遣ヘ置キタリト云ヘリ又池田ト同行セシ
武藤貞吉モ同様ノ事ヲ陳述セル趣キナリ
以上ノ廉ニ付捜査上トシテ呼出シ其ノ陳述ヲ
聞キ或ハ巡査ヲ派遣探偵セシメタルモノニ付
参考ニ備フルモノ也

岐阜軽罪裁判所

明治十五年四月十四日　検事奥宮正治

岐

第二号

別紙岐阜縣令上申板垣退助負傷一
件ニ付警察報告書類供覧候也

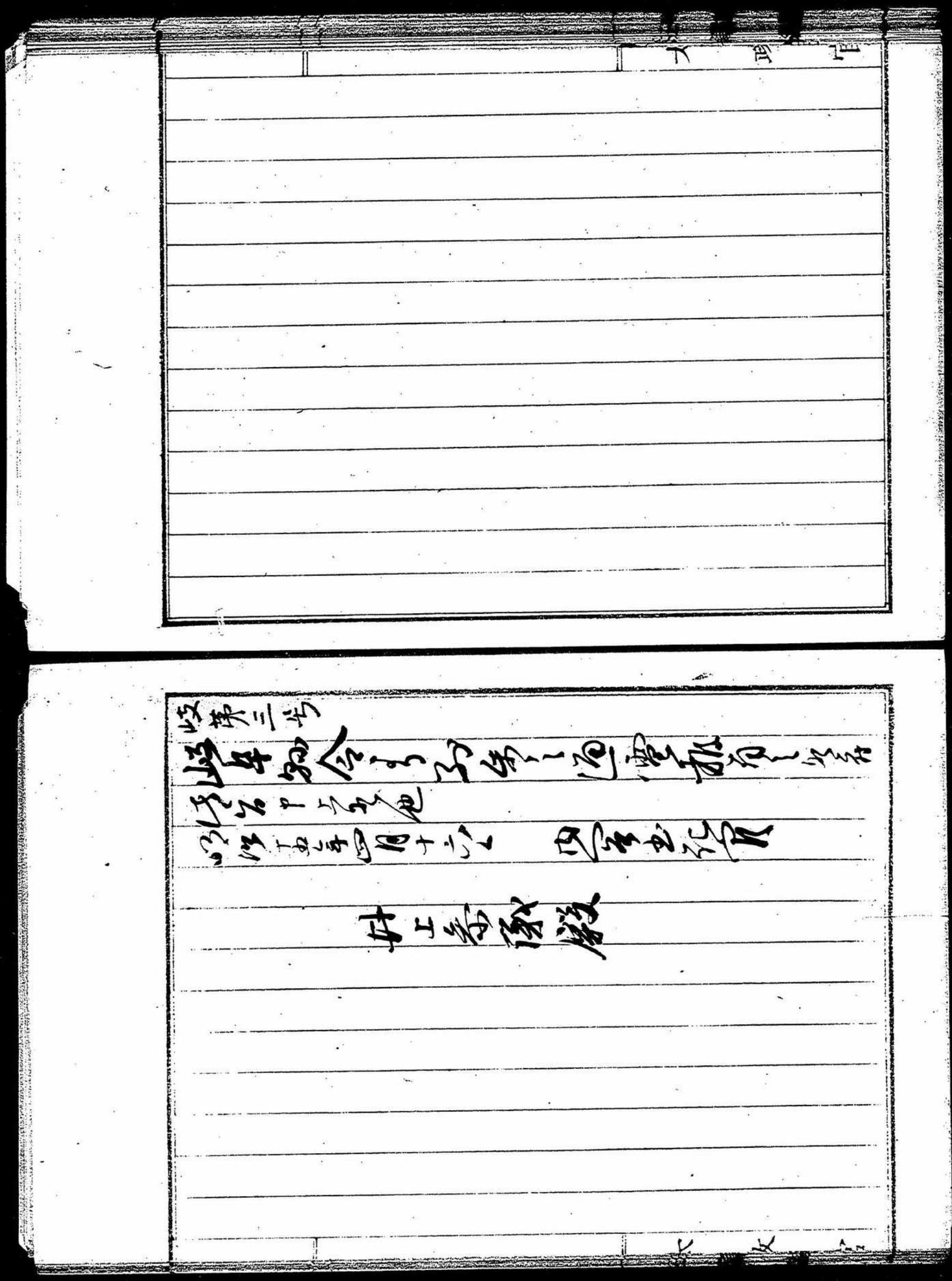
明治十五年四月廿三日　内閣書記官

左大臣殿
右大臣殿
大木参議殿
山縣参議殿

井上参議殿
山田参議殿
松方参議殿
大山参議殿
川村参議殿
福岡参議殿
佐々木参議殿

四十四番午后出発十分着
内閣出張員長官　岐阜縣令より
招魂祭ニ付今年前十時当地電ニテ出
発之筈閣議ニ而ハ汽船ニ乗組其
所ニ泊り翌十七日大坂着之由発ニ
付ニ付ハ高知より来ル者等四
拾名程附添ハ当地ニ残ル者等ハ
以下面之名先ハ新橋ニ残ル者等ハ
法通ニ付ニ付ブ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



自由黨綜理板垣退助當縣下未掟ニ付
各地ノ景況及同人負傷始末等警察
報告書類并行兇人受知縣士族相原
尚聚ヨリ當地軽罪裁判所検事ヘ申立
候暗殺主意書寫差出候間前日差出
候書類ト御照合夫々御了知可然御取
計有之度此段申進候也

明治十五年四月九日

岐阜縣令小崎利準代理
岐阜縣大書記官斯波有造

内務書記官長井上毅殿

調書

明治十五年四月八日午後二時被告人相原尚褧ニ對シ第二回ノ訊問ヲ了リタル時被告人ハ暗殺ノ趣旨ヲ密ニ申述度ニ付人拂ノ儀ヲ望ムニ依リ其事ヲ許容シ本職一人ニテ秘密ニ関スト云フ処ノ申立ヲ聞ク左ノ如シ

問　其方カ申立度ト云フ秘密ニ関スル暗殺ノ趣旨トハ如何ナルヤ

答　然ラハ申上ケキニ付何卒此事ヲ閣下ヨリ秘密ニシテ大臣参議ニ直達セラレンヿヲ希望ス抑モ去ル明治六年ノ暮頃征韓論ノ事件ヨリ西郷江藤板垣副島ノ諸士廟堂ヲ退キ尓来江藤西郷ハ叛旗ヲ擧テ遂ニ亡ヒ勢力ノアルノ人ニシテノ今世ニ存シ居ルハ實ニ板垣氏一人ト云フテ可ナルヘシ爰ヲ以テ若シ板垣氏ニシテ國家ヲ懐ヒ王室ニ忠ヲ盡シ即勤王ノ志

厚キ時ハ其功益誠ニ大ナルヘシト雖モ若シ又國家ニ尽スノ義務ハ務ムレ氏王室ニ對シ忠實ノ心ナク勤王ノ志厚カラサル時ハ是亦其害頗ル大ナリト云ハサルヲ得ス然リ而シテ板垣氏ハ明治六年ノ冬職ヲ辞セシ未タ數日ナラスシテ明治七年ノ春ニ至リ彼ノ有名ナル民撰議院ノ建白ヲ出サレメタリ若シ氏ニシテ真ニ忠君愛國ノ士ナレハ自身カ在職ノ時ニ於テ飽マテモ言ヲ盡シ忠ヲ納レ國家ノ功益ヲ謀ルヘキニ氏ハ朝ニ在ル時ハ少シモ建白参畫アルヲ聞カス俄ニ職ヲ辞スルヤ此ノ如キ建言ヲ為スヲ以テ之ヲ見レハ氏ノ志ハ真ニ愛國忠君ニ在ルニ非スシテ啻タニ不平ヲ漏サンカ為メニ為シタル事ト認メサルヲ得ス又氏ハ明治十年西南ノ騒乱熊本城ノ存亡未タ明カナラサルノ時ニ於テ片岡謙吉等ヲシテ再ヒ又國會開設ノ事ヲ建白セシメタリ若シ果シテ氏カ真ノ愛國勤王ノ人ナラハ邦家危急ノ時ニ当テハ奮然起テ賊ヲ討シ禍乱戡定ノ後徐ニ上書建白ヲ為シテ決シテ遅シトセサルヘキニ此挙ニ出テス徒ニ王師不振危急ノ秋ニ乗シ即チ王家ノ弱キニ付込ミ上書シタルハ實ニ自分共ヨリ之ヲ傍観スレハ氏ハ誠ノ愛國士ニアラサル乎ト思料セラル夫レ此ノ如キ志操ナル板垣氏ニシテ自由主義ヲ唱ヘ黨派ヲ組立其領袖トナリテ自由党ヲ總理スルヲ以テ概子此党派ニ入ルモノハ軽騒浮薄ノ徒多ク自由權義ト云ヘハ板垣氏ノ私有物ノ如ク思ハイ做シ一法ノ出ツルニ逢ヘハ之ヲ難シ一律ノ立ツアレハ之ヲ譏リ徒ラニ官吏ニ抗抵スルノミ是務メ少シクモ國家ニ對スルノ義務ヲ盡スヿヲ思ハス甚シキニ至テハ日本ニ板垣アルヲ知テ天子アルヲ知ラサルカ如キノ状況アルヲ見ル夫レ此ノ如ク輕躁過激ニ趨カシムルハ實ニ板垣氏之カ首唱タルヲ以テ人心ヲシテ

此傾向アラシメタルノ責ハ氏其罪ヲ遁ルヽ事ヲ得サル可キ也

先刻御示シノ短刀ヲ見レハ其撲様何分深ク刺シ得サルカ如ク覚ヘ且ツ風評ヲ微カニ聞クニ板垣氏ハ未タ傷ノ為メ殪シサルヤニ覺フ若シ彼ノ時自身ノ差領ヲ用ヒタランニハ斯ル事ハナカリシモノト思ヒ実ニ遺憾千万ナリ且ツ充分ニ事ヲ遂ケテ后チ此事ヲ陳述セハ實ニ張合アルヿナレトモ未タ遂ケスシテ陳述スルハ如何ニモ本意ナキ次第ナリ

故ニ事理錯雜スヘケレハ充分御訊問下サレタシ

只今陳述致ス通リノ板垣氏ナレハ若シ之ヲシテ久シク世ニ立タシムル時ハ如何ナル大害ヲ惹起サンモ計リ難ク深ク考ヘタルヲ以テ遂ニ此人ヲ殪シテ社會ノ禍乱ヲ未萌ニ禦カントハ思ヒ立チ遂ニ此目的ヲ以テ岐阜地ノ懇親會ニ臨ミタル次第ナリ然ル処尚実地ニ付キ彼ヒノ言論ヲ聞キ且内藤魯一ノ演説ヲ承ル処愈自分カ兼テ思考セシ処ニ異ナラサルニ付彼ノ事件ニハ及ヒタルモノナリ

板垣氏ノ演説ニ於テ遠心力ト求心力ノ比例ヲ引キ政府ト人民ノ関係ヲ大陽係ニ譬ヘ人ノ政府ハ干渉甚シキ若シ関渉ノ甚シキ時ハ壓抑トナリ壓抑トナレハ自由ヲ減セラルヽト云フ意ヲ述ヘ少年書生ノ如ク直接ニ政府ヲ攻撃セサレヒ暗ニ裏面ヨリ現政府ヲ誹謗シ少シノ知識アルモノヲシテ聞カシムレハ充分了解セラルヽ様ニ説キ巧ミニモ暗ニ政府ヲ厭悪セシムルノ意想ヲ発セシメタリ自分一タヒ斯ル演説ヲ聞キ愈〻羨テ板垣氏ハ久シク社會ニ立タシムヘキ人ニアラス身ヲ抛チテモ此人ヲ除カントスル存念ヲ堅固ニシタル次第ナリ

續イテ内藤魯一演説ニ曰ク（政畧論ト云フ演題）明治六年板垣氏等未タ廟堂ニ立ツ中マテノ政府ハ公議輿論ヲ執リテ政畧トセラレタレ氏板垣氏退カレテヨリ以来ハ大ニ公議輿論ニ反スルノ政畧多シ又明治八年ノ聖詔ヲ草シタルハ實ニ板垣氏ニシテ詔ノ内漸次立憲政体トアル漸次ノ字ニ付キテハ板垣氏ト故木戸顧問ト大ニ議論アリタレ氏遂ニ漸次ノ字ヲ入ルヽニ決シタリ云々若シ夫レ此事実果シテ虚ナレメハ板垣氏モ傍ニ居ルニ付述フルニ由ナカルヽ若之ヲ実ナルヽトスレハ実ニ板垣氏ノ為メニ取ラサルノヽナリ何トナレハ氏ハ既ニ顕要ノ位ニ在リ詔迄ヲモ草シタル位ノ人ナルニ且朝ヲ辞シタル后ニ於テ此ノ如ク聖詔ノ初メノ意ハカクアリシ抔ト魯一ニ話シ又魯一カ憚カラス公衆ノ前ニ於テ吾嘗テ板垣総理ニ聞クニ云々ト云ヒ箇様ナル演説ヲ傍観スヽキニアラス畢竟スルニ板垣氏ハ真ニ愛君國ヲ思フノ人ニアラス暗ニ政府ノ信認ヲシテ人民ノ上ニ減セシムル事ノミ是計ルノ人物ニシテ誠ニ憎ムニ堪ヘタルノ所業ト云ハサルヲ得ス

又内藤魯一ハ昨十四年十月ノ聖詔ニ刑ニ処ス云々ノ事アルハ誠ニ餘計ノ詞ナリト云ヘリ実ニ此ノ如キノ言詞ハ聖詔ニ對シ不敬極マル処ノ演説ニシテ彼ノ自由党ノ幹事ト云ヒ人ニ尊ハレル処ノ魯一ニシテ如此言論ヲ憚カラス吐露スルヲ見レハ又板垣氏ニ於テ之ヲ許スヲ見レハ自由党ノ暴慢危激世ニ大害アル誠ニ昭々乎タリ以上ノ如キ言論ヲ聞キ兼テ思考スル処ニ毫モ異ナラサルニ付板垣氏ヲ除カサレハ此害源ヲ塞クニ足ラサル事ト思料シタリ故ニ彼人ヲ刺殺シ然ル后官ニ自首シ甘ンシテ法律ヲ犯スノ刑辟ヲ受ケント存シ居タレハ遂ニ現場ニ於テ取押ヘラレタルノ次第ナリ

問　其方ヵ起意セシ板垣氏暗殺ノ趣旨トハ先刻ヨリノ陳述ニテ盡キタルヤ

答　先ツ自分ヵ暗殺ノ趣旨ハ以上ノ陳述ニテ其主眼ヲ盡シタリ然ルニ人テ此陳述ヲ畢ルニ当リ一應申上度ト思フ故何卒検事閣下ヨリ政府ノ大臣参議ニ尚裴ヵ微意ヲ串徹スルノ取計下サレタシ

問　其大臣参議ニ其方ノ微意ヲ示シ吳レヨトハ何等ノ事ソ申立ツヘシ

答　餘ノ儀ニモ候ハス尚裴ヵ大臣参議ニ言上セントスル事ハ若シモ大臣参議ニシテ一旦朝ヲ退クニ方リ不平心ヨリ激リニ自由主義ヲ唱ヘ報國ノ義ヲ忘レ君ヲ愛スルノ情ナク人民ノ思想ヲ惑セントスル人アラハ亦世ニハ尚裴ト暗ニ志ヲ同フスルモノアリテ直ニ自分ヵ板垣ヲ刺殺シタルト同様ノ事ヲ仕出スヿ可シ願クハ廟堂ノ諸公ニシテ板垣氏ノ覆轍ヲ履ムヿナカラモ政事主義ヲ擴張スルナラハ真正ノ自由真正ノ愛國忠君ノ政党ヲ為セ若シ政事ニ関セサレハ花鳥風月ヲ樂シ悠々世事ヲ咏メ亦決シテ邦家ノ大害ヲ生スルノ源ト為ルヿナカラシト人テ刑餘ノ尚裴ヵ死ヲ以テ忠告シ奉ル所以ナリ此事サヘ廟堂ノ諸公ニ貫徹スレハ尚裴万死以テ憾ミナシ是レ尚裴ヵ微忠ノ存スル処ナリ然ルニ只恨ムラクハ板垣退助ヲ充分ニ殪サル事ニシテ是ノミ死スモ瞑シ能ハサル処ナリ

右之通陳述ヲ録取シ讀聞セタル処無相違旨ヲ申立ツルニ付共ニ捺印署名スル者也

明治十五年四月八日

相原尚裴　拇印

午后第五時ノ

岐阜軽罪裁判所

検事奥宮正治印

三月二十八日

一愛知縣下自由黨及ヒ愛国交親社員ハ板垣氏ヲ熱田駅ニ出迎ヒ両社ヨリ来賓ノ前後ヲ爭ヒ大ニ問著セシヲ自由黨幹事内藤魯一ノ仲裁ニテ漸ク熱議シ交親社ヘ先ニ臨マレタリ先ヅ同地自由黨ヨリ交親社ト合同シテ板垣ヲ招待セントセシニ交親社ハ甚シク断リ自由党ニテ板垣来遊日限俄ニ迫リ手順ノ整ハサルヨリ前ニ反シ更ニ交親社ヨリ自由黨ニ合同ヲセトメシ氏同黨ヲ復タ許サス遂ニ両社格別ニ熱親舎ヲ宿クニ至リシト云フ

一板垣氏及ヒ自由黨議員東京府士族竹内綱同党幹事三河国碧海郡重原村士族内藤

魯一同党同国幡豆郡一色村豪農太田松次郎
外高知人書生二名往者一名午后四時名古
屋著魚所魚半ニ投宿セリ

三月二十九日

一午前愛国支親社本部ノ大光院ニ於テ懇親
會アリ午後三時頃ヨリ博物館ニ於テ自由党
ノ懇親會アリ来會スル者二百十余人板垣此
會席ニ臨ムニ方テ名古屋区南伏見町ノ住忠
治外五名引続キ祝詞ヲ述ヘ次ニ土居光華改
進党ノ利益ト云フ演題ヲ説キ後テ板垣ハ其
題ノ裏ヲ説キ民權説ヲ奉テ衆ヲ勸誘ス其
大畧ニ云ク夫レ民權ヲ擴張シ国會ヲ開設スル
ニハ早ク万民保全ノ道ヲ覺リ其道具ヲ用意

ニ其器械ヲ研磨セサルヘカラス道具ハ即チ書籍
ニシテ器械ハ即チ智識ナリ之ヲ繁セスシテ猥リニ
民權自由ノ道ヲ求ムル者ハ惑エリ君ホニシテ真ニ
國家ノ病患ヲ憂フルノ熱心ナラハ早ク余輩ト
倶ニ自由ノ樂ミヲ取ルヿヲ成セヨ君ホニシテ余
輩ト仕スルヲ欲セサル余ハ即チ汝衆庶ト共ニ
其慶ニ預ラントスルノ精神ヲシテ敢テ怠ラス
死ニ至テモ其志ヲ道ケ果サントス云々

一右祝詞ヲ讀ミタル文中ニ自由堂ノ盟ナルハ
區区ヨリモ高ク板垣氏ノ光栄ハ金城ノ鄰
ト共ニ輝クノ語アリタレハ板垣ノ随行人静
岡撮眠社長（淡州人）土居光華ハ自由堂
及ヒ板垣氏ヲ無精神ナル富嶽及ヒ金ノ鄰ニ

譬ヘテフレハハ太タ不滿ナリ余氏ニ代テ答辭ス
トシテ壇ニ上リ大ニ駁擊セシ由而シテ酒酣ナ
時三河人某ナル者名古屋人ニ質ハ士居氏ノ
說ノ如ク無精神ニシテ輕薄ナリ實ニ金ノ
鰥ニ等シ上ベハ金ノ如ク内心ハ銅木ナリト
言フヨリ大ニ議論ヲ生シ會場亂雜ノ仆退
散セシ由其後午后十一時過愛岐日報社
員田中文次郎ナル者内務省一ノ旅館ニ
來リ本日ノ會場甚タシ亂雜ヲ極メ恐縮セリ
明日再會アランヿヲ求メタレハ更ニ肯セサリ
シ由
午後第五時演說ヲリ藝妓ヲ聘シテ酒宴
ヲ設ケ醉ニ乘シテ演說セント欲スル者陸續
現ハレシニ板垣ハ之ヲ止メテ醉顏ヲ兩語ハシ
ヲ演說スル者ハ論スルニ足ラサルヲスヲ堅ク
拒ミスハ言ヒテ直ニ帰宿セシハ同第六時頃
ニテ其他ノ者及ヒ傍聽人ヲ引續キテ散
去セリ

一愛知縣士族當縣岐阜町寄留濃州自
由党岩田德義ハ恵那郡岩村ヨリ同地
士族學校教員安田節造及ヒ山下猪之吉
外二人恵那郡中津川村ヨリ苗井三九郎
濃州共立義會紙代安八郡大藪村澁邊
權治郎各居屋迄板垣ヲ迎ニ來リ其中
岩村ノ經山栄作ハ跡ヨリ來タリタル士岐
郡多治見村ノ西浦仁三郎ハ愿親會

ニ来臨セリ此権治郎ハ板垣ニ面会ヲシテヒタシ
ヒ過般内務書一ガ大垣ニ赴キタル時接待
セズ又竹内氏ニテ演説セシ時愛国交親社ヲ
駁撃セシ丁アリタル由ニテ書一中間ニ拒ニ
テ面謁ヲ得セシメスト廿九日ニハ縣会副議
長安八郡大野村脇坂文助ヲ岐阜ニ先ヒシ
板垣ヲ大垣ニ招クヘシト詰セシ由ナレヒ権治郎
ノ面謁セサルニ因リ是モ又失望セシ由

三月三十一日

一板垣ハ本日午後五時頃内藤魯一、竹内綱ト乗
馬ニテ麦治見村西浦図次方ヘ着午後六時
ヨリ麦治見学校ニテ懇親会ヲ開キ板垣
其他一両輩ノ席上演説アリタリ

四月一日

一板垣ノ一行土岐郡多治見駅ヲ発シタルト聞キ
恵那郡岩村自由黨其他凡ソ百二三十名
許駕籠四五挺ヲ以テ同郡竹折村ニ出テ、
之ヲ迎フ板垣及竹内綱内藤魯一岩田徳
義安田節蔵等之ニ打乗リ同夜午後九
時半頃ヲ以テ右岩村水野精一郎方ニ着
同十時頃ヨリ右竹内内藤及ヒ外書生数名
同所劇場ニテ学術演説会ヲ開ク其
題辞ハ(麝香猫ノ腑ヲ嗜ム)(人ノ行ヒ禽獣ニ及ハ
サル歟)等ノ数題ニテ何レモ懸河ノ辯ヲ奮ヒタレ
ヒ国安ニ妨害アリト見認ムヘキナク午後十二時
頃ニ至リテ閉会シ何レモ去テ右水野方ニ宿セリ

四月二日

一聞ク昨日正午ヨリ岩村、盛巖寺ニ於テ親睦會ヲ開キ臨時スルモノ貳百余人席上板垣竹内内藤岩田及同村ノ柳泉、飯野、等ノ演説アリ初メ板垣ノ會ニ臨ムヤ馬鞍ニ跨リ壯年輩之ニ從テ其前後ニ在リ威氣揚々頗ル得色アリ次テ其寺ニ入ルヤ玄関ヨリ席上ニ至ルノ間樂ヲ奏シヌ中津川村ノ菅井三九郎遠山林三、小林廣作、高木勘兵衛等ノ自由黨皆此會ニ臨席シ午後五時頃ニ至テ散會シ同夜亦前夕ノ弁士等再ヒ劇場ニ於テ学術演説會ヲ開キヌ又

一板垣氏壯年ノ頃江戸ニ於テ恵那郡岩村ノ人其名未タ知ラス若山壯吉カヨリ漢学ノ教授ヲ受ケシコトアリ其旧縁アルヲ以テ這回大坂府下ニ於テ開ク自由黨大會合ニ出張ノ途態々立寄リ同地ノ同志ト共ニ学術演説ヲ開會シ且同地盛巖寺ニ於テ懇親會ヲ開キタル其周旋人ハ安田節蔵同地平民商浅見与一古土門外五人ナリト

因ニ云今回一切ノ費用ハ東濃ノ黨中惣割リト申事ナリ

一今般新タニ自由黨ヘ加入セシモノ凡四十人許リ外ニ四五十人モアリテ終ニ百人位ニハナル由其誘導スル趣旨ハ今日本國ハ外国ニ借金多分アリテ今日ノ勢ニテ將来ニ至テハ我田地我家宅ト自ラ信シ居ルモ皆借金ノ方ヘ引取ラレ仮令ハ他人

ノ借金ヲ已レ身代限ヲ為シ返済スル方ナリ今之ヲ防カサレハ他日何ヲ以テセン之ヲ防クニハ我カ自由黨ヲ盛ニシ日本ノ政事ハコノ自由黨之レヲシテ聞シメ官員ノ月給取リヲ減シナハ其金高亦大ナラン左リ迚自由黨ヘ加入セシ迚出金ヲ促ス訳モ無之只々勢ヲ盛ニシ頭立タルモノ尽カシ国債ヲ減シ各其居ヲ安カラシムルノ意ナリト云々依テ大ニ農商ホノ意ニ適シ加入スルモノアル由ナリ

一惠那郡岩村ニ於テ人ヲ般新入ノ自由黨ハ実ニ奇妙ナルモノヲシ其一二ヲ挙レハ豆腐商ノ老爺、提灯商ノ丁稚、牛肉店ノ亭主、土方輩モアリ誠ニ笑ニ堪ヘタリト又近郷在々ヲ誘導トシテ奔走スル輩ノ説ヲ聞クニ左ノ如シ

「今般板垣大君子ガ国家ノ危急救ハシ為ニカヽル山谷ヲ厭ハス当地ヘ来ヲルヽハ実ニ神様ヨリモ有リ難ク存ジ候ヽ当時我国ニ外国債ヲヽアリテ迚還セサレハ忽チ分国ヘ奪ハレテ仕舞フ左スレハ活互ニ安居スルヿモ出来ヌ早ク之レヲ救ハンニハ上等官吏ノ月給ヲ減シ之ヲ以テ償ヘハ御互ノ頭ヘモ掛ラス国モ富ムト案事モナク一挙両得ノ法ヲ設ケラルヽハ見込ナレハ実ニ難有ク抔止春蚯甬タル愚民ヲ誘導スル故只管同意ヲ表シ取モ直サス西濃人ノ本願寺宗ニ心酔セシト一般ニ思ハルト

四月三日

一本日恵那郡中津川村ヘ板垣氏及其隨行員内藤魚曽一岩田徳義太田松次郎名古屋鈴木盛公高知上田美枝安藤清香宮地茂春等来着ノ由ニテ暁ヨリ土地ノ自由黨同村中川萬兵工外四五人同郡岩村ヘ出発シ板垣等ヲ迎ヘ菅井守ノ助方ヘ着セリ宿料ハ都テ守ノ助自弁セリト其他中津川滞在中ノ諸費ハ同地自由党ニテ負擔シ豫算金百円ナリト

一中津川ニテ自由党ニ加入セシモノ中津川村医師花岡麗左右外三十一人苗木村一人十り又中津川村森孫右エ門方ニテ親睦会ヲ開ク出席セシ者ハ中津川村二十人苗木、手賀野、駒場、坂下、落合、瀬

戸ノ各村十八人信及読書村馬籠村三人外ニ
新旧自由党三十余人ナリ其席上演説ノ概況ハ
竹内綱(国家ヲ保持スルハ人民ノ知識ヲ開クニアリ)
ノ論題ニテ人民ヲシテ天下ノ大改ヲ知ラシメ益自由
権ヲ擴張スルヲ謀ル云ヽヲ述フ板垣ハ(本日ノ道路
ハ困難ナレモ敢テ困難ト不想)ト云フ説ニテ其困難
ナルハ所天ノ故ナリ然レモ所風ハ以テ土地樹木ヲ益
スルモノナリ則其益スル為メナリト思ヘハ何リ道
路ノ難ヲ憂シヤ況テ人民ニ有益ヲ与ヘント欲
スル者ニ於テヲヤ云ヽト述タリト
一此日中津川村劇場旭座ニ於テ板垣一行ノ内ハ人
届済民会セシ学術演説会ハ改談範囲内ニ論及
セシ迚注意ノ為ノ臨場セシ巡査中沢春吉外

壹人ハ法律ニ抵觸スル廉ヲ以テ全會ノ散解ヲ命
シタリ其概略左ノ如シ
自由党幹事内藤魯一ハ起テ(因果論)ヲ演説
スル要領ヲ公衆(聴衆殆ント千有余人ナリ)ニ陳述シ尋テ説ク所社
會百般ノ事皆因果アラサルハナシ花アリテ
実ヲ結フモ是自然ノ道理ニシテ何ソ怪シム
ニ足ランヤ故ニ事々物々因アリテ果ナカル可カ
ラス獨政府ノ組織ニ至リテハ何物ゾ人民ハ国
家ノ義務ヲ竭シ且愛国ノ至情ヲ以テ租税
ヲ納ムルト雖モ果ヲ見サルナリ果シテ然レハ
人民ノ結果ハ此ノ如キ(専制政府ノ組織ト)蓋
言セリ茲ニ於テ臨場巡査ハ柳条術演説ノ
範圍ハ自カラ在ルアリ何ソ茲ニ政府ノ

組織ニ向テ其可否ヲ陳ヘ暗ニ人民ノ安危ニ関スル政談ノ區域内ニ論及セシモノト云ハサルヲ得サルヲ以テ矢士ニ向テ政治ニ関スル事項ヲ講談スルハ法律ニ抵觸スル旨ヲ示シ停止ヲ命シ次ニ會主ニ全會ノ解散ヲ命シタリ

一聽衆ハ解散ノ後再ビ字術演説會ヲ同座ニ開キ竹内以下演説アリ暗ニ前會ノ停止ヲ譏ルノ語氣アリシ

一同地自由党ノ勢ヒ今日ノ景況ニテハ稍増進セシモノヽ如シト雖モ板垣ノ説ク所ト外辯士ノ言トハ大ニ相違アル哉ニ聞及ヘリ（辯士等我党ヘ強テ加入サセンヿヲ謀リ其實同党ノ集金ヲ募ル

ノ景狀ナルカ故ニ其奸策ニ陷ラン哉ト疑ヒ居ルモノモアリ又心アルモノノ思慮ハ何レニアルヤ未タ確知セサルモ）餘程板垣ヲ信スルノ色アリ故ニ下等社會ノモノハ真ノ板垣ヲ來遊ナリトテ只難有事也ト申居シリ

同地親睦會費ハ壹人金四拾錢ナリト又有志者ヨリ集メテ雜費ニ充ツヘキモノ凡金千六拾圓計ノ樣子ニシテ餘金アレハ積立置後日辯士ヲ招待スル費ニ充ツト云フ

一同地ニ於テ專ラ周旋セシモノハ同村ノ市岡政香林淳一菅井三九郎ニシテ他ニ勸誘セラレ同党ヘ加入セシモノナク又固同者無キノ樣子ニシテ只旧矣多議ナルヲ以テ尊敬セシ姿ニシテ

談党ノ主義ヲ辨知スルモノナシト思ハル
民間ニテ云フ所ニアリ素ヨリ取ニ足ラスト雖
モ善良ナラサル説ナレハ左ニ記ス曰私黨ヲ結
ヒ謀ル處アラン乎曰來遊ハ別議ニアラス多數
ノ金圓ヲ募リ一口金五圓ナリト云銃器等ノ費ニ充テ兵ヲ
擧クルノ趣ナリ其戰爭ハ必ス勝利アリト曰利
アラハ右五圓ノ方ヘ扶持米ヲ下与スルト

四月四日
一板垣一行中津川村ヲ発シ加茂郡太田村平民林小
一郎方ヘ着同日午後八時小一郎外近村人民
申合板垣ヲ招ク懇親會ヲ太田村祐泉寺ニ
開ク板垣及随員竹内茅ノ席上演説アリ板垣ノ
論旨ハ事物ヲクシテ漸進急進ヲ区別スルハ不可
トリ又論ニ黨シテ人ニ黨スル勿シ云ヘ内藤魯一岩
田德義ホノ論旨ハ壬三年国會開設モ未タ安心
ナラス板垣ノ如キモ政府ニ信ヲシタル一人ナリホノ語
ニシテアリ
世會ハ主義ヲ以テ會同シタルトアラス板垣ハ曰參
議ナリ幸ニ太田村ニ一泊ニ際シ面晤シタクト林小
一郎ノ発起ニ從ヒ小學教員戸長豪農ホノ

集合ナリ中ニ就テ二三ノ精神家アルノミ他ハ
勸奬ノ為テ列シタルニ過キス獨リ可児郡土
田村林吉右エ門ハ岐阜迄随行セリ板垣ハ尚ホ
岐阜地ニテ謀レリアリト言殘シテ発途セリト云

四月五日

一板垣ハ本日岐阜地ヘ着スルニ付方縣郡河渡村
後藤秀一山縣郡太郎丸村藤吉留吉ノ
両人ハ太田駅マテ出迎ヒ又岐阜代言人田嶋
鹿之助及自由黨安八郡大垣町士族岐阜寄留
伊藤一麓然本縣士族岐阜寄留本多政
直方縣郡安食村村山照吉ノ四人ハ各務郡
新加納村ヘ出迎ヒ午後五時頃板垣ハ岐阜
着今小町玉井屋伊吾工方ニ宿セリ随行

人ハ竹内綱、内藤魯一外ニ書生七人ナリ
一午後二時頃岐阜伊奈波境内料理店山鳥
楼二階ニテ当地自由黨本多政直ト岐阜
日々新聞社員池田豊志智ト酒宴ノ末喧嘩
シ政直ハ所持ノ日本刀仕込アル竹杖ヲ以テ
池田ノ頭部ヘ打掛ケ捻合ヒ末二人共二階ヨ
落テタル由ナレ共何レモ負傷ハセサリシ当日ハ伊
奈波社ノ祭日ナレハ群聚中ニテ殊ニ危険ナリ
シトニフ

四月六日

一、本日午前八時比時早日ニ新聞社ヨリ鍵谷龍男ト代言人
田島鹿之助ハ道板垣ノ出箱ノ話ヲ面會ヲ請ニ内藤
豊ハ曾テ時早ニ新聞紙上ニ記載セシ事ヲ暫ク議論
ヲ生シ無秩序ニ新聞ノ鍵谷杯ハ面會ハ断ル方可然トエヒシモ
田島ノ紹介ニテ面会スルヿトナリ面晤中内藤豊ハ其席ニ出テ
停ヨリ鍵谷ニ向ヒ汝ハ岐阜新聞ハ甚タ
無主義ニシテ汝ノ如キ穢ハシキ者ハ此席ヲ下レト三度マテ大色ヲ
発シタルヨリ鍵谷モ俄ニ之服シ進テ甚無禮ヲ問ヒシニ内藤ハ益
々暴言ヲ極メ腕ヲマクリ既ニ打撃ントスルヲ田島カ引止メ板垣
モ亦制シケレハ鍵谷モ忍耐シテ帰社セリ又一説ニハ其時板垣ハ
居笑ヲ為シ居タリト又本多改直ハ日本刀仕込杖ヲ持ケ次席
ニ扣ヘ居タルヲ鍵谷カ認メタリト是之故ニ本日午後三時比ヨリ

中教院於テノ親睦會ニ共進社ヨリ鍵谷保護ノ為メ三十六名ノ腕力負ヲ撰ヒ同行スルニ決シタルヲ以テ社員池田世忠知ノ發議ニ依リ先ツ夫レハ止ソ池田一人自ら出席シ今朝ノ如ク先方ヨリ求メルニ於テハ社名ニモ係ルヲナレハ池田ハ奮テ鍵谷ヲ助クルヲ決シ同社員田中上善モ報知ノ為メニ出席スト云ヘリ

或説ニ此事ヨリ共進社員中何トナク穏カナラサリシカ田嶋鹿之助其他一両名仲裁ニ入リ移議ニ全ク絶ヘタリト云フ夫故中教院ニ出会ノ時モ別ニ異事ナク然カシ鍵谷ハ長坐セス帰社セリ

一本日午后二時過板垣岐阜地有志輩拍手応ヒ聖夏郡富茂登村神道中教院ヲ懇親会ヲ開キ會スル者ハ竹内綱内藤魯一其他随行員并当地代言人十数名岐阜ヲハ新聞社編輯課員有其他都合八十二三名程相会シ席上第一ニ懇形自由党総代村山服吉初ハ四五名ノ謝辞祝詞ニ續キ板垣謝辞演説アリ且ツ政党ト政府トノ関係ヲ太陽ノ永心カ遠心カニ比シテ演説シ會員ノ喝采ヲ得タルヲ似タリ其演説凡一時間ニテ次ニ内藤魯一及日本之憲政党新生社員（大坂ヨリ迎ヒニ来リタル）小室信助并当地自由党岩田德義代言人田島鹿之助其他數人演壇ニ上リ自由ノ尊ムヘキヲ説キタリ就中小室ノ演説ニ大坂土産ニ何カナト思フ途中ニテ聞ラス狐鼠ノ二獸ヲ得ヒテ城狐ト社鼠ノ地位ニ依リテ我侯ノ振舞ヲ宛モ專制嵐カ帝王ヲ狹ニテ暴虐ノ政治ヲ施スカ如シ云ヘリ述ヘ諸君ハ果シテ此土産ヲ領收スルヤ否ト云ニ至テ復喝采ヲ得タリ如シ又内藤魯一ハ明治三年頃ヨリノ政府ノ非ヲ難シ種々駁論ヲ吐キ続テ往年板垣ノ民撰議院ノ献白通リニ十三年ニハ國会ヲ開カルヘシトノ民ノ建議ニ其ヒヲリト頻リニ板垣ヲ賞賛シ然ルニ初論ノ来文ハ國安ヲ害スルモノアラハ國典ヲ以テ之ヲ糺ス云ヘリ大ヲ穏当ナラス斯ノ如キ

文字ヲ用ヰストモ可ナリ他ノ法律ニ有ル抔ト公卿ニ對シテ當説ナレハ
直ニ停止セラレキ過激ノ説ヲ主張シ最後ニ共進社員地田豊志知
カ當壇ニ登リ其場ニ於ル所甚タ過激ナリシヲ板垣カ之ヲ賞シ美濃國
ニ入リ始メテ決死人物ナリトテ自ラ巻昆ヲ二本取出シ地田ニ遣カシタル由
其演説ノ早リシ以テ傳喜ナリシ

一既ニ傳喜ハ板垣氏ハ帰宿シトテ竹内綱代ッテ卑員ニ暇ヲ告ケ起テ
玄関前ノ式臺ヲ降ラントスル件左右ニ隨行人ナキ恐ノ障ヲ覩テ右脇ヨリ
潛ニ寄ル一人突然左手ニテ板垣ノ右腕ヲ掴ミ將来賊ト呼掛ケ胸部
ヲ目的ニ短刀ヲ突立テ右側胸廓前面（第三肋間ニ横位五ト三寸巾二分
深サ三分程ト云フ一針縫合）ノ疵ヲ負ハセタルニ板垣ハ右手ニテ之ヲ刎返シ其刀ヲ
握リタル際拇指示指ノ間（長二應巾一分深サ中央ニテ三分程両端浅シ）ノ疵
ヲ負セ行兇人ハ其突立タル刀ノ後ニタルヲ覚（再ト両手ヲ以テ胸部ヘ
突立タシハ左側胸廓前面（第二肋間ニ横位四分三厘巾二分深サ三分程ト云フ

一針縫合）ノ疵ヲ負ハセタル件板垣ハ其場ニ倒ル行兇人尚ホ刀ヲ擬ス
ル際内藤豊駿カ行兇人ヲ引倒シ且ツ藤吉留吉大野文治
後藤秀一等敢援シ行兇人ヲ捕縛シテ先ニ駿カタル巡査芳賀谷
平六ニ引渡シ他ノ會員共々板垣ヲ援ケテ教院門前ナル太田卯兵工
ノ表座敷ニ連レ来リ暫時介抱シ板垣ハ其被兇際別ニ右手環指
及掌尺骨側左手環指ニ各皮膚創ヲ加ヘタルノミ左頬部ノ疵
ヲ加ヘタルモ軽傷深サ約スル二至ラス
胸部二ケ所ノ疵ハ甚タ深ク肺臓及胸膜ニ損傷ナキト医矢拵来
リ

板垣ハ此時郷ニタル行兇人ヲ顧ミナカラ我今日ノ事ニ死スルヲマラコモ
自由ハ永世不幸ナルヘキヲトテ笑ヒタル由

一此時即チ午後六時三十分山縣郡太郎左村平民藤吉留吉此始
末ヲ岐阜警察署ニ告発セシ故直ニ巡査山崎警部補出

張巡査二人警察医武山嚴ヲ主會ハセ六時半ヨリ拾弐ヲ
始メ午後十時三十分ニ終ル大概前項ニ記シタル如シ疵所ハ病院副長
西川默藏岐阜大学青木雄我ニ治療ヲ乞シ(此他医員日比野ニ
静巡査数名出張ス)証品短刀(右銘兼景長九寸巾七分一面)外
二品ヲ差押警察署ニ署於テ署長柴田警部即夜行兇人ヲ訊問
セリ

一 行兇人ハ愛知縣愛知郡田代村百四十三番地士族仙友長男(当時同
縣知多郡横須賀学校教員月俸八円奉職中)相原尚聚当
二十七年七月九日ヲ以テ文学ハ同国人ト同校ニ就テ五六年間
経書ヲ明治八年頃名古屋ニ遊ビ京摂地方ヲ又ハ安藝ノ国ニ遊
ヒ十年帰国後再ヒ他国ニ出ス十二年該縣ノ師範学校ニ入リ好テ内外ノ
歴史ヲ讀ミ十四年二月卒業ス引ヲ長崎置三河田郡ニ教授
教員トナリ十四年十月八日ヲ前文横項賀ニ居リ当ニ五年三

月三十日国家ノ為ニ拔刀嗜殺セントスル父母兄弟ヲ殺害シ
遺書ヲ面ニ記シテ止宿所ニ藏シ羽三重ヲ携帯シ四名
古屋ニ行兇ノ為ニ三箱五番ニテ買求メ名古屋
ヨリ拔刀携帯シ宿泊ス岐阜ニ来リ拔刀ヲ
ヒ親戚ヲ殺害シ別席ヲ設ケ親戚ヲ殺害シ
迷惑ノ起ル所ノ廣席ノ鄙札ヲ除ク外ニ止宿スル事
ヲ拔刀ノ容貌ヲ知ラサルニ由リ之ヲ詳悉セサリシ而シテ
拔刀ノ来着ニ日比野ハ同ニ宿泊ヲ所ニ家族重病ヲ
轉宿ヲ今六日夕何故ヲ突然拔刀ノ為ニ殺害ス拒マレ
ル由次ニ右ノ親族ヲ除ク姪ニ特ニ短刀ヲ以前項ノ姪ヲ
刺シタリ以尚聚ハ政治上ノ賞ハ入ラス又別頭ノ用ヲモ
廣ハ之ヲ以テ乱報ノ文除ハ毋マス又新聞記者ハ同友和
日ヲ以テ政治ノ主義ハ漸ク進リ当世ノ人ハ探ヲ立ハサル信ト発

ハ其ノ文天祥ノ如キ諸忠智勇ナルモノヲ欽慕スト本人ノ口供ニ依ル

一板垣ハ捨松ヲ始メ薩ノ藩ニ奉リ西鄕ノ為ニ伊藤ノ党ヲ木ノ林ヲ探ル左右隨員ニ遣モ外ニ西ノ藩ニ諸ニ孫ニ玉井伍伊兵衛

右帰宿ヨリ

一昨夜社ノ内ニ明神社ノ大祭ニ付市中軍人原ヲ言フカ

ニ付新踏中俄ニ火事ニ際会シテ一番騒擾ノ極ヲ尽ス

一西鄕ヲ始メ夜半ニ至リ初メテ帰宅

一板垣ハ員偽ヲ有ス逢社ヲ大坂ノ者ヲ社ニ電報ヲ以テ

早急ニ社ニ来ル東京ヲ社ニ電報ヲ以テ

ハ止ル板垣ハ今六日午後暗殺セラレタル云ヘリ

一明治十板垣ハ岐阜出発山縣郡ヲ西ニ郡ヲ墨野大垣

市ニ於テ盛演会ヲ開キ西ヲ富ハ長ク何出ル

板垣ハ帰ル不ニ西ヲ又明暁ヲ不二何ヲ八日ヲ地出発大

須ヲ西ヲ通ヲ直ニ岐阜縣ヲ経テ一泊ス二泊上大坂神

戸ヲ経テ西ヲ発遠ル積リナリト西

一西藤寅ヲ方頃ヲ見送ヲ西地ニ山ヲ立岡坐ニ陽倶舎ヲ帰リ

様ナリト西

一岐阜自由党ノ幹事小倉英之外二名直ニ来リ居ル

一岐阜自由党ヲ殆ト金付上岡菊ヲ吐ス芳ヲ山田頼吹ハ今

百円ノ借入ヲ以受ヲ殆ト三拾円西ヲ借リイタシタル

此録ヲ一部ヲ大田印係ヲ又岩田義俗見ヲ一部ヲ安

田節村心吸ヲ二人ノ四人ヲ当地ヲ部ノ幹事ヲ岩田ノ事ヲ

ヲ以札ヲ物ヲ送ル堂中大岡菊西ヲ今六日晩ヲ速ヲ

ス八竹ヲ出ル西

四月七日

一 本日午後十二時頃板垣ノ旅病ヘ着セシ人々ハ
左ノ如シ 但後藤新平ハ未診請求ニ依ル

石川縣加賀国金澤　士族　平島行之
愛知縣伊豫国宇和島　〃　城山清一
神奈川縣　〃　中島信行
大分縣豊後国中津　〃　世川正治
〃　〃　上田長三郎
大坂府堺　平民　原田藤三郎
以上大坂ヨリ来ル分
当縣山縣郡高木村五番地平民塚原邦太郎
〃　〃　郡高富村八番地〃　久保田角二
〃　〃　郡〃村　士族杉山小五郎

仝　仝郡福富村三省地平民石井由次郎
愛知縣愛知医学校長兼病院長　後藤新平
仝病院三等看護医　相井憲章
仝名古屋區樓町　平民　渋谷良平
仝仝區本町二丁目　士族　吉田通雄
仝三河国碧海郡上重原村仝　村上左一郎

一本日午後六時頃ヨリ山縣郡自由党ハ仁三十五六名俄ニ高富村高井新吉方ヲ為シ同十時頃皆散去セリ此密談ノ事項ハ風評ニヨレハ板垣ノ岐阜地滞在ニ付キテノ出費事件ナリトイフ

一本日午後五時被告人相原尚褧ヲ岐阜軽罪裁判所ニ引渡シ午後七時ニ十分ヨリ第一回検事ノ取調アリタリ

一本日午前九時頃ヨリ田島花ニ鍵谷ノ両名ハ板垣ノ旅寓ニ見舞トシテ行キ板垣ト面晤ノ上帰リタリ

四月八日

一板垣氏ヲ来訪スル者本日左ノ如シ

本ニ知ホニ三河国碧海郡豊橋士族遊佐　裴
仝　知ニ　林　文三郎
仝　仝　内藤四郎
仝　仝　鷲野友一
高知縣士族　平尾喜寿
大坂在留高知人總代高知縣士族　松木正守
高知縣平民　井上平吉
東京府士族（大坂在留）　山本義芙

平民　高橋道一
同知之平民　井上輝二郎
同　鷲野鉄太郎
同　安藤友太郎
同縣之岩高演　山脇信之助
同縣野田士族　林彦一
同国上重原士族　内藤六四郎
同国岡崎平民　後藤文一郎

一　此夜ハ当地ノ者ニテ岩田慶義早川啓一村山恵吉大野才二ノ四名板垣ノ旅寓ヘ詰居リ餘ハ帰宅シタル由

○

一　聞ク所ニ依レハ今度濃兎自由新聞発兌スルニ付テハ第壱号ヨリ政府ヲ罵詈誹謗スル過激ノ論ヲ掲載セン然ルトキハ直ニ条例ニ依リテ處罰アラン就テハ重禁錮委員ヲ定メ置クヘシト七名ヲ撰定シ血判ヲナセリ其壱人ニ方縣郡中西郷村山田頼次郎トイフ者アリ此者ノ養母右ノ由ヲ聞込ミ頼次郎一人ノ為メニ家族生活ヲナセリ然ルニ同人刑ニ処セラレタラハ我等ノ生活ノ途ナシト歎母ハ悲歎シテ断ル旨ヲ頼次郎ニ申通リタレハ一旦血判致シタル後ハ速約出来カタシ處刑中ハ同社ヨリ世話致スヘシ生活ニハ決シテ差支ナシ心配ニハ及ハスト申居シ氏養母

ハ然ラハ其詮務ヲ取置リ一ト申張リ一大問
看ヲ惹起セシ由

一右ノ新聞株金二萬余圓相募ル由ヲ本多
改直ハ主張シ株主達五四ヲ周施致ス由

一市街ノ風評ニ依レハ板垣氏負傷セシ一件ハ当
地新聞社員ヨリ為シタルナリトカフ依テ共進
社員ハ目下余程心配致シ居レリト

一板垣氏ヲ暗殺スルトテ約セシモノハ両名アルナ
リト風評アリ依テ自由党ノ輩ハ去ル六日
夜以来自事探偵ヲ執行致シ居ルトノ事

一板垣氏ノ旅寓ハ六日夜以来出入ヲ厳重ニシ四
ツ旅舎ノ各出入口ヘ通行禁止スル旨諸々ヲ
掲示セリ右ニ拘ハラス警察署ヨリ巡査ハ旅

宿近辺ヲ巡邏注意セリ

一板垣氏ハ先ツ当分当地ニ在テ養生スル旨ニ決
シタル由右ニ付諸入費ハ当地自由党ニ於テ皆持
切ナリトテ就中岩田徳義ハ全策ニ尽力中ナリ
ト云フ

一山縣郡自由党中ニ近来人望家ト称スル同郡岩戸
村ノ大野才二年齢廿三四年ハ益ス該党ニ加入方ニ尽力
致シ常ニ謂ラク山縣郡ノ内谷合村ノ戸長某
ヲ加入セシメハ全郡ハ自由党ヲ以テ意ノ如クナル
ニト云ヒ居レリ

一岩田徳義ハ近来山縣郡ニ於テ甚タ人望ヲ失シ
該郡ノ自由党ニ於テハ以来同人ト交際ヲ絶ツ
ト議定セシ由右ニ依テ起ル処ハ同人カ故ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

金銭ヲ人ニヨリ出サシメ自己ノ為メニ費シタル
ナリトイフ各地ニ於テモ同様ヌ人望極シリト
一 自由党中津川住高木勘兵エナル者岩村愛敬会モ信ジ云フリ其氏
ト許治中板垣来遊ノ事ニ及ヒタリト其説末ノ
概略左ノ如シ
問 板垣ノ自由党ヲ組立ル如何ヤ
答 実ニ板垣ハ今世稀代ノ人ニシテ海外ノ事ニ通
暁シ我国情ヲ察シ憂ヒ心ノ尊キ感心セリト
問 自由党ノ主義ハ如何ナルヲヲ解ク力
答 別ニアラス今天下ノ形勢ヲ視ルニ外国ハ富シ我
国ハ貧ニシテ困難ナリ加フルニ外国ニ蔑視サ
レ続年許倫アル条約改正モ未タ行レス今
茫茫スル中ハ外国ヨリ利ヲ以テ我国ヲ買

フニ至ラン仮令ハ我国人ニシテ金三十円ノ日雇
賃ナレハ外国人ハ金六七十円ノ高價ヲ以テ
傭使セン左レハ必スヤ日本人ハ外国人ニ雇ハレン
是初歩ノ策ナリ夫ヨリシテ改ヽ財産地所マテ
ニ至ラン人或ハ疑ト斯ノ如キ高價ヲ以テ永リ
堪ユヘケント決シテ然ラス彼ノ富ヲ以テスル
何ソ難キニ非ラサルナリ英国人ニテ黄屋
指ノ富者アリ此頃横濱ノ新聞紙ヲ見ニ
其人公債証券売買ノ事ニ付多分ノ利ヲ得
シト其額ハ我国歳入ノ額ヨリモ多シ依テ英
国ノ富ハ知ルヘシ其他来佛ホアリ人民富ム
ハ政府モ又富メリ彼レハ利ト術ヲ以テシ彼
レ我ヲ略取スル目前タリ我政府ニテモ

世話セヌト云フニハ非ラサルモ今ノ政府ニテハ
行屆兼ルナリ依テ大隈モ会計主任ノ参議
ナリシカ見放スヿ能アリテ職ヲ辭シ吾党ト
同一ノ党ヲ設ケシ也大隈モ人物ト謂フ(シ)諸
君モ今離散シヲルナレハ自分ノ身代モ日本ガ
外國債アル為ナニヲ知ラ(ス)彼ノモノニセシ亘ク
計リ我黨トナリ自己子孫ノタメニ謀ル無
ナケレハナラヌ況ナリ実ニ他人ノタメニ身
代限ヲナスカキイ言ヲ廣ナフナラスヤ又外
國人ハ我國ノ法律ヲ以テ罰スルコアメハ
サルハ諸君ノ系知ノ通ナリ故ニ我侭次
第ハ言ヒ語ヒ尽スヲタハサルナリ此欧モ大隈ノ
家宅ヲ金二十五万四三千貫ハシイヲ外国人

望シトキ右ハ東京無双ノ地ニテ外國人ノ事ヲ謀
ルノ便易ノ地ナリ彼レ利ヲ以テ之ヲ望ムモ幸ニ
大隈ナレハ賣却セサリシト吾黨ノ幸福ト
言ハサルヲ得サルナリ若シ外人ニシテ巨額ノ
金ニ目ナキ者ハ賣却ス(シ)去スレハ其地ヲ
占メ我侭次第ナル事ヲナシ我國權ヲ蔑ニ
サルシハ又我國ヲ取ラル(ル)一歩ト謂モ
誣言ニアラサルト雖ヒ能ク一時間程演説アリ
タルモ今マテ気ノ付ヌ私故失忘セシタヤ
ニシテ残念千万ナリ
問 君右演説ニ付如何ノ思考ヲナセシヤ
答 至極尤ト思ヒタリ国家ニ尽ス(キハ人民ノ當
然ナルモ自分ノ財産ヲ知ラスニ他人ノタメ

二奪シル様ナルハ一ヲ廉〻シキ嘲ナシハ何
テモ自由党ヲ但立テ早リ國会ヲ開キ貴キ
官員ノ月給ヲ減シ借金ヲヘラサシハナラヌ
ナリ然レトモ東慶吾党ノ内ニテ戦見与一左門
安田某ノ如キモノハ今般経理ノ未遂ニ帰シ
為ニ利ヲ図リ吾党ノ面目ヲ汚セシ者ナリ
如何トナレハ会費一回ヲ集ムルモ其実費八
二十銭ニ過キス物怨員ハ白五十人モアリタリ
他ニ支出スヘキ費金アルニモセヨ右両人ハイハ
レナキ利ヲ占メシナレハタメニ両人ニ対シ
其不理ヲ責ントセシモ吉人ニ劣シ言ハ益
ナシ故ニ吾党亦人臨会ノ規格ニ於テ
恥辱ヲ忍ヘシト存居シリ云ー

又吾党ノ幹事内藤魯一ハ私ノ分ナリ彼
レモ中々人物ニナリタリト云リ
一四日夜共進社員池田豊志知ハ玉井屋ニテ
相原尚褧及自由党員ト酒盃献酬ヲ六日
ノ中教院進親会場ニテ池田相原ヲ列子
何カ侮語スルヲ彦根ノ小倉英之カ聞居リ
枝垣退場ノ際池田ハ後ロヨリ内藤魯一
ノ狭ヲ突キ「アナタカ」内藤君カト問ヒ内藤ガ
左様ト答ヘ出立スルニヨリ枝垣ニ一歩後シ
タルヤニ変アリ自由党ニテ池田相原同志
者ナラントト嫌疑セル由然レ共池田相原ガ
曾テ於セシ跡跡更ニナシ当大探偵中ナリ
一枝垣ハノ安吾ヲ問フタメ東西京摂等ヨリ

日々五十通程ノ電報アル由

右ハ板垣退助本縣下ヘ来遊ニ付各地視察上注意報告等ニ係ルモノヲ便宜ノ為メニ集記シタルモノナレハ前後錯雜或ハ事実誤謬ノ廉等モ多カルヘシ

右供一覧

明治十五年四月九日　警部長川俣正名

岐阜縣令小崎利準殿

岐第四号

岐阜縣上申行旋人相原尚褧拾事、申立仮主意書写供回覧仮也

明治十五年四月十四日　内閣書記官

三條太政大臣殿
有栖川左大臣殿
岩倉右大臣殿
大木参議殿
山縣参議殿

井上参議殿
山田参議殿
松方参議殿
大山参議殿
川村参議殿
福岡参議殿
佐々木参議殿

岐第五号

一昨六日廳下岐阜中教院於テ自由黨者數十人高知縣士族正四位板垣退助ヲ招待シテ懇親會ヲ開キ同日黄昏頃退助退會ニ際シ愛知縣士族相原尚褧ナル者退助ヲ暗殺セントシタル始末別紙検證調書訊問調書之通有之候間即別紙數葉相添不取敢及御通知候也

明治十五年四月八日　岐阜縣令小崎利準

内閣書記官長井上毅殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

意見書

愛知縣愛知郡田代村百四十三番地

士族仙友長男

相原尚褧

明治十五年四月二十七年十月

右ハ明治十五年四月六日午後六時三十分美濃國山縣郡太郎丸村平民藤吉留吉ナル者当署ヘ馳付今回当岐阜地ヘ来遊セシ自由党總理高知縣士族板垣退助ヲ今明治十五年四月六日午後二時比リ縣下厚見郡冨茂登村ナル神道中教院境内ヘ招キ懇親會ヲ開キ只今右退助カ帰宿セントシテ該會場玄関前迄立出ルヤ否何ノモノナルカ短刀ニテ退助ヲ刺シ負傷セシメタル旨告発セシニ依リ即時現場ヘ出

張別紙甲号ノ通検證処分ヲナシ且警察医武山
巖外医師三名ヲシテ検診治療セシメタル処武山警察
医ハ別紙乙号ノ如ク診察セリ而シテ行兇人即相原尚
褧ハ現場於テ愛知縣士族内藤魯一等取押ヘ最
先ニ駈付タル巡査ヘ引渡シ該巡査当署ヘ引致セシヲ
以テ一應ノ訊問ヲナシ其陳述ヲ録取スルニ別紙丙号ノ
通板垣退助ヲ謀殺スルノ旨趣ハ未タ申供セスト
雖モ其決意及ヒ行兇ノ始末ハ真供セリ右ハ事重大
ニ渉ルノミナラス事件速ニ御交付及フヘキ旨貴官ノ命モ
有之被告人等ノ訊問書類共未タ全カラサルモ被害
者ノ陳述被告カ自由任意ノ白状其他ノ証憑及事
實等ニ於テ頭書尚褧ハ謀殺罪ヲ犯シタルモノト確
認セリ依テ爰ニ意見ヲ記シ現在ノ書類証憑品等
併セテ本人及御交付候也

岐阜警察署

明治十五年四月七日　警部　柴田正直

岐阜軽罪裁判所
検事奥宮正治殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

甲号

検證調書

明治十五年四月六日午後六時三十分岐阜縣山縣郡太郎丸村平民藤吉留吉ノ告発ニヨリ厚見郡富茂登村神道中教院於テ高知縣士族正四位板垣退助ヲ殺害セント欲シ既ニ及傷ヲ負セタル現行犯罪アルヿヲ認知シタルニ由リ該所ニ至リ巡査渡邊時哉成田頼次ヲ立會セ検證ノ処分ヲ行フ左ノ如シ

一該所ハ別紙才一号図面ノ通リニシテ即チ図面中朱点ノ所ニ於テ行兇ノ所為アリシ者ニテ血痕狼籍タリ将タ其場ニ血染ノ半紙壱枚落居リ拾取セリ之ハ被害者カ疵所ヲ拭ヒタル者ト認定セリ其他異状アルヲ見ス

一被告人ハ被害人ニ随従セル愛知縣碧海郡重原村士族内藤魯一山縣郡岩村平民大野才治同郡太郎丸

村藤吉甥吉等カ現場ニ於テ取押ヘ先ニ出張セル巡査引渡シ既ニ岐阜警察署ヘ拘引セリ被害者ハ右三名ノ者共外数名ニテ介抱シ厚見郡富茂登村平民大田卯兵衛方ニ至リタルニ付該家ヘ出張スル所別紙第二号図面ノ家屋ニシテ同家表座敷六畳間ニ仰臥セリ依テ応被害ノ始末ヲ訊問スルニ明治十五年四月六日午後二時過キ当地有志者ノ招キニ應シ富茂登村神道中教院ノ懇親會場ニ臨ミ同日午後六時比退場節玄関前ニ於テ何者共不知忽然短刀ヲ以テ突キ数ケ所疵傷ヲ負セタル所幸ニ随従者内藤魯一大野才治藤吉甥吉等カ兇犯者取押ヘ出張巡査ヘ引渡シタル旨申陳セリ爰ニ於テ傭医武山巖ヲ立會セ疵所検スルニ左ノ如シ

一胸骨右部第三肋骨部切疵壱ケ所長一應半巾二分深三分

一胸骨左方第二肋部切疵壱ケ所長一應二分巾二分深三分

一右手拇指示指ノ間切疵壱ケ所長二應巾壱分深巾中央ニテ三分両端浅シ

一右手環指切疵一ケ所長斜ニ一應巾深記スルニ至ラス

一左手環指切疵一ケ所長一應軽クシテ廣深ヲ記スルニ至ラス

一左頬部擦疵一ケ所但刀尖ナルヘシ

右終テ本縣病院長西川默藏岐阜大工町医師青木雄哉ニ疵所治療ヲ命シ続テ被害者衣服ヲ点検スルニ直着胸当リシヤツノ三品血染ヘ胸部ニ当ル所左右ニ左ノ切破リアリ（右方九分 左方七分）又手袋拇指ト示指ノ間カ切破リアリ其他異状アルヲ見ス

一右検視ノ上被害者ニ示シ證品ニ胸当テ一枚徴収セリ

一前顕ノ通リ検証ヲ為シテ而シテ證人内藤魯一藤吉留吉大野才治ノ三名ニ現況ヲ訊問スルニ夫是混雑ノ中ニテ細密スル能ハサレ共其陳申スル所被害者ノ陳述ト正符合セルニ依リ取鎮マリタル上始末詳細筆録シ差出ヘク旨達置タリ

一右行兇ノ所為ハ被告人相原尚褧ノ所為タルヲ確認セリ

一差押ヘタル物件ハ別紙目録ノ通リ

六時五十分検證ヲ始メ午後十時三十分ニ終ル依テ現場ニ於テ此調書ヲ記シ立會人ト共ニ署名捺印スル者也

岐阜警察署

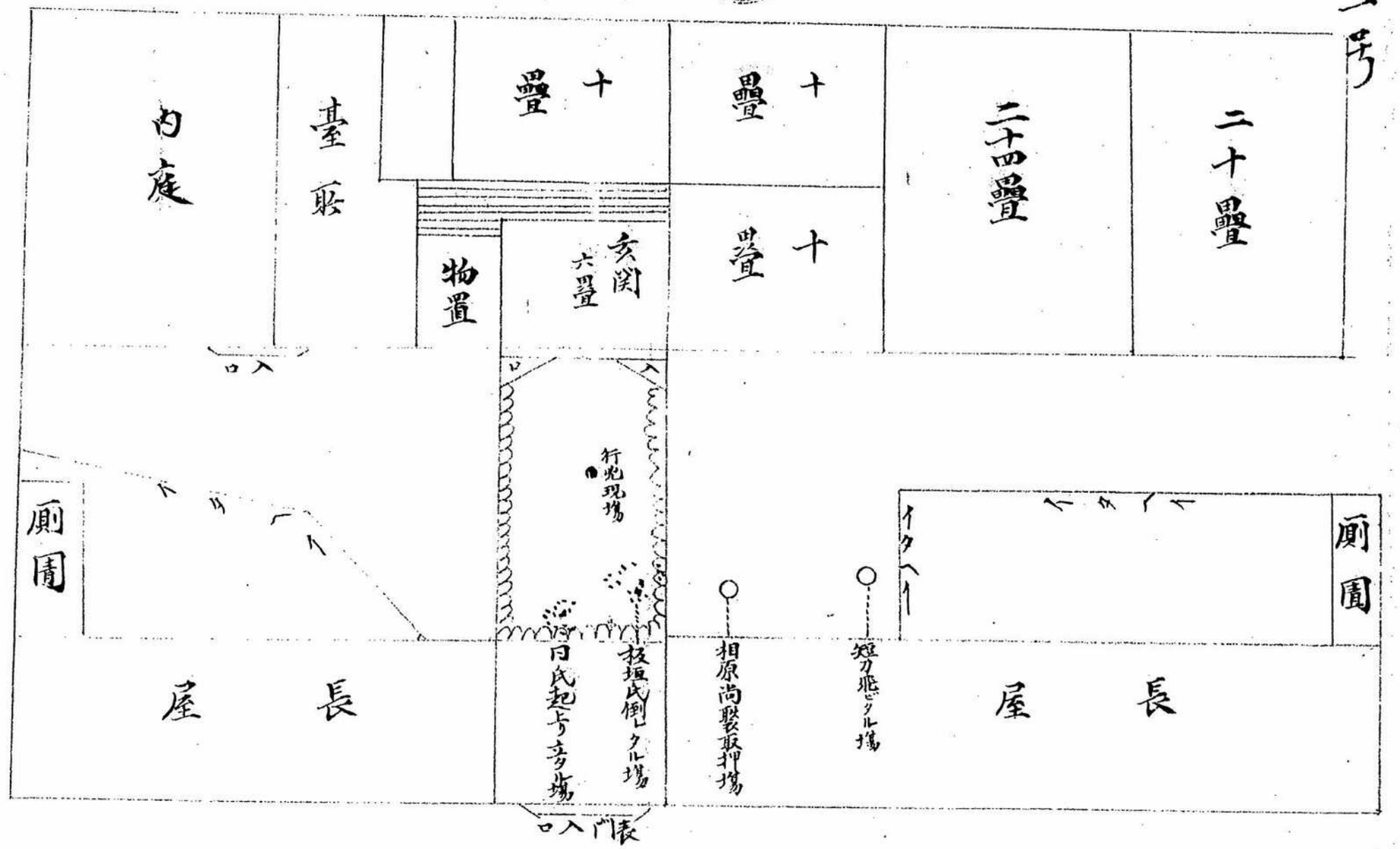
明治十五年四月六日

警部補山崎正

立會人巡査渡辺時弐

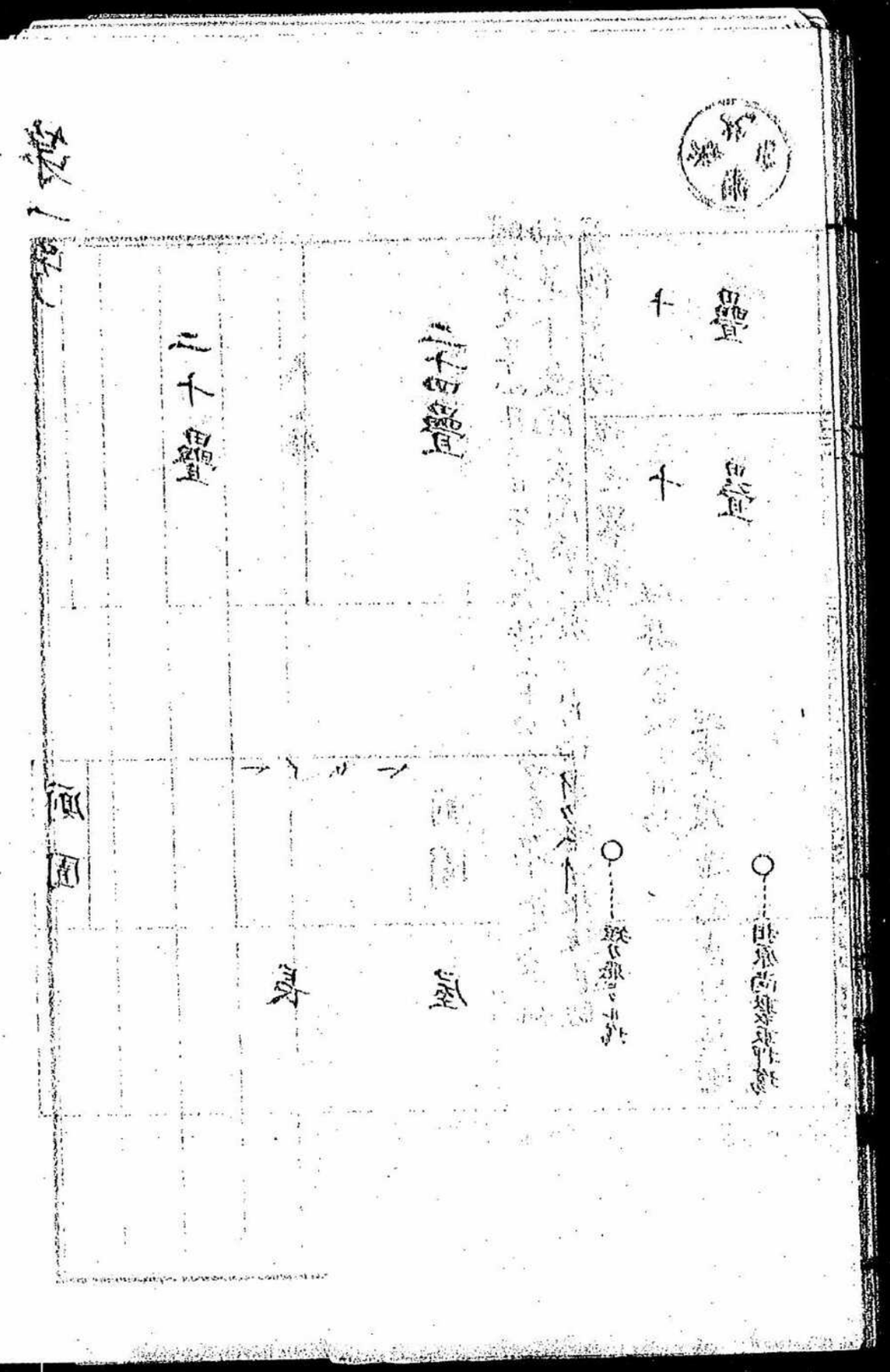
仝巡査成田頼次

第一号



明治十五年四月六日午后六時三十分頃見郡冨茂登村
神道中教院玄関前ニ於テ自由黨總理板垣退助
負傷セシ現場之畧圖

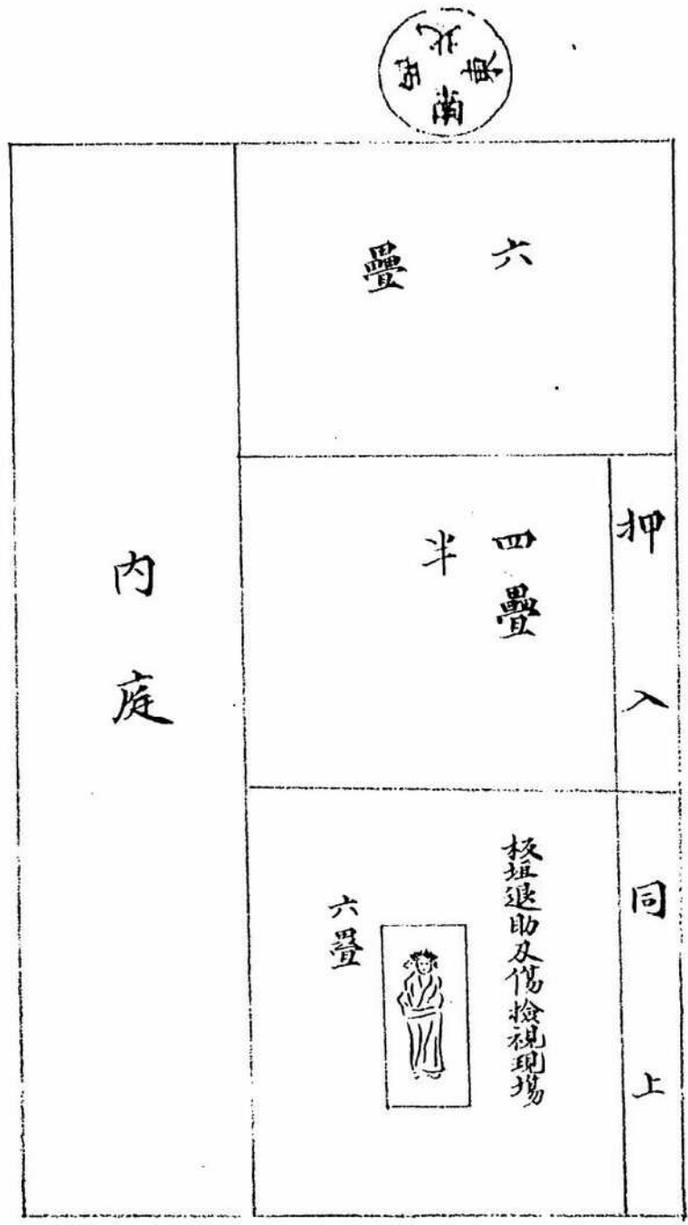
岐阜警察署詰
巡査渡邊時哉製此圖



第二号

厚見郡富茂登村神道中教院門前
大田宇兵衛宅畧圖

巡査渡邊時哉製之



差押物件目録

一短刀　在銘兼景　壱本

但身ニ血痕アリ長九寸」巾七分一厘」柄糸黒色」
縁頭鉄金銀象眼入」目貫色繪兎」鍔素銅」
切羽金焼」鐔鉄ニ蜻蛉ノ金象眼入」鐺同上」
小柄鉄ニ人物象眼入」小刀相模守政常ノ銘アリ」栗形角」
下緒絹草色平打」鞘黒タヽキ」

一白ミヤツ胸當　壱個

但刀痕二ケ所血痕班々アリ

一白羊紙　壱枚

但血ニ染ミタリ

右證據物件ニ相違之」ナクモノ也

岐阜警察署

明治十五年四月六日　警部補山崎正

出張先ニテ署印ヲ用ヒス

書記巡査渡辺時哉

診断書

板垣退助

一胸骨右部第三肋骨部切疵一ヶ所
長一應半巾二分深三分此部一針縫合

一胸骨左方第二肋部切疵一ヶ所
長一應二分巾二分深三分此部一針縫合

一右手拇指示指ノ間切疵一ヶ所
長二應巾一分深中央ニテ三分両端浅シ

一右手環指切疵一ヶ所
長斜ニ一應巾深記スルニ至ラス

一左手環指切疵二ヶ所
長一應許輕シテ廣深ヲ記スルニ至ラス

一左頰部擦傷一ヶ所但刀尖ナルヘシ

右疵所各絆創膏ヲ貼シ防腐繃帶ヲ施シ或
ハ副木繃帶シ胸部ノ疵所防炎法ヲ施ス該手
術者本縣病院長西川默藏主任ナリ
診査如斯ニ候也

明治十五年四月六日 午后十時

警察醫武山巖

診斷書

高知縣士族

板垣退助

右診斷ニ及ヒ候處負傷部ハ先診斷醫差
出ス處ノ檢視書ノ如シ而ノ其豫后ニ至テ
ハ生命ヲ失フニ至ラサルモノト考案ス然レ
ドモ予ハ主任醫ノ施治ニ參座シテ治法ノ詢
議ニ意見ヲ述フルノ委任ヲ受ケタルモノニ
シテ未タ獨立ノ意見ヲ警官ニ呈スヘキノ
格ヲ有セス此段申添置候也

明治十五年 愛知醫學校長兼病院長

四月八日 後藤新平

丙号

訊問調書

明治十五年四月六日午後十時四十五分岐阜警察署於テ被告人相原尚褧ニ對シ陳述ヲ録取スル左ノ如シ

問 汝ハ父親仙友ノ何男ナルヤ

答 長男ナリ

問 汝カ住所身分年齢ハ如何

答 愛知縣愛知郡田代村百四十三番地士族二十七年十ヶ月ナリ

問 汝ハ当地ヘ何日比来リタルヤ

答 明治十五年四月四日当地ヘ来レリ

問 汝カ住所ヲ出発セシハ如何

答 明治十四年十二月八日ヨリ愛知縣知多郡横須

賀学校ニ参リ月俸ハ八円ナリ

問 汝カ横須賀学校ヲ出発セシハ何時比ナルカ

答 明治十五年四月一日ナリ

問 汝ハ四月一日ヨリ当地ニ来ル前四日マテハ何処ニ居リシヤ

答 名古屋区東魚町カ西魚町カ疑ト申兼テ候ヘトモ浅井カネト申ス旅舎ニ宿泊シ明治十五年四月四日同家ヲ出発当地ニ参リタル訳ナリ

問 汝カ当地ヘ参リタル目的ハ何ナルカ

答 今夜即チ明治十五年四月六日夜ノ目的ニテ板垣退助ヲ殺サント巧ミタルハ他ニアラス板垣氏ノタメ國家ヲ誤マルヽヲ恐レ一身ヲ抛テ退助ヲ殺セシ積リノ処衆人ノタメニ取押ヘラレタレハ

如何ナリシヤト思ノミ

問 汝カ板垣退助ヲ殺サント決心セシハ何時比ナル訳カ詳細申立ツヘシ

答 退助ヲ暗殺セント決心セシハ明治十五年三月三十一日ニテ其夜父母兄弟ニハ此事ノ始末ヲ書面ニ認メ糊封シテ自分カ荷物ナル当時横須賀村ノ加藤茂助方ノ押入ノ中ニアル風呂敷包ヘ差入レ置キタリ

問 汝カ封書ノ宛ハ如何記載アルヤ

答 一通ハ父親名宛亦一通ハ学務委員吉田衛門幹事服部勘樹両名ノ宛ナリ

問 汝カ認メタル手紙ニハ今度ノ始末ヲ記載シ置キタルカ

答　手紙ニハ自分カ死ヲ決シテ板垣氏ヲ暗殺スルトヽ云フヿヲ認メタルマテニテ如何ノ理由ナルカノヿハ一大事件ニ付認メ置カス候

問　汝カ横須賀村ヲ出発シタルハ板垣氏ヲ暗殺ノ目的ナレハ今度ノ行兇短刀ハ何レヨリ買ヒ来リタルモノカ

答　明治十五年四月一日名古屋古渡ヨリ北西側ノ刀屋ニテ屋号等知ラサル方ニテ今度ノ行兇刀一腰ヲ金壹円三拾五錢ニテ買求メリ之レハ受取書ノアル筈ナリ

問　短刀ヲ買求メ携持方ハ如何致シ居リシヤ

答　当地ニ来リテカラハ肌身ヲハナサスレテ携持致シ居レリ

問　汝当地ニ着セレ以来何レニ宿泊セシヤ

答　当地ニ着セレ夜即明治十五年四月四日ハ厚見郡今泉村玉井屋伊兵衛方ニ止宿致候処昨五日ハ板垣氏並隨行員多人数ナルヨリ止宿ヲ移轉方宿主ノ談示ニヨリ昨五日夜ハ岐阜中今町紙屋ニテ旅舍安藤重平方ニ止宿セリ

問　汝本日板垣氏等ノ懇親會場ヘ同席セシヤ

答　退助ノ容貌等ヲ更ニ知ラサレハ本日出席シテ能ク認メ時機ヲ失セサルノ決心ナレハ會場ヘ同席セシナリ

問　汝カ懇親會場ヘ列リタル原由ハ如何

答　名古屋ヲ出発スル際知己ノモノヨリ岐阜ノ春陽

舍ヲ尋子テ參ルカ宜敷トノコヨリ同舍ニ參
リ尋ヌルモ不分明ナル処旅舍壬井屋伊兵
衛方ニハ懇親會事務所カアルトノコニ依リ
右ヘ赴キ懇親ノ列席續テ宿泊ニ迷惑ノ
旨ヲ語リタル処列席ノ鑑札ヲ渡シ呉レタル
上ニテ右伊兵衛方ニ止宿ヲ談シ呉レタレハ爰
ニテ一泊仕候

問 汝ハ本日懇親會場ヘ何時比ヨリ參リタルカ

答 午後二時比ナリ

問 汝ハ板垣氏ノ出席スルヲ認メテ后殺ス手續ハ
如何

答 右會場ヲ意外ニ早ク板垣氏ハ帰宿ノコニナリ
依テ自分ハ玄関ノ下リ段ヲ同道シカヲ退助
ノ胸部ヲ目的トシ左ノ手ニテ板垣ノ右ノ手ノ二ノ
腕ヲ掴ミ而シテ將来ノ賊ト呼ヒ掛ケ胸部ヲ
目掛ケテ刺シタルニ彼レ板垣退助右腕ニテ刎
返シサシク刀ノ緩ミタル心地セシユヘ両手ヲ掛ケ
再ヒ胸部ヲ突キ毋ヨキタル時彼レ板垣ハ轉倒
セレニ付自分ハ片膝ヲ折リ敷キタリ然カスルヤ否
多人數来リテ取押ヘラレタリ

問 汝カ暗殺セント巧ミテ短刀ヲ携持シ板垣退
助ノ胸部ヲ目掛ケテ刺シタルハ前答ニテ明瞭
スト雖モ汝カ板垣退助ヲ殺害スルノ主意如
何

答 退助ハ國家ニ大害ヲナセル賊ナレハ國ニ尽スノ
赤心ヲ以テ今日ノ仕義ニ及ヒタルナリ其彼レ

退助ノ賊タル始末ハ國家ノ一大事件ニシテ
極メテ秘密ヲ要スルノミナラス過刻現場ニ
於テ多人數ニ取押ヘラレタル除頭部面部
等ニ摩擦打撲ノ軽傷ヲ負セシ丈レカ為メ
頭痛ノ甚シキニ苦メリ依テ此席ヲ退テ静
思ノ上後刻他席ニ於テ詳細陳述致シタ
請フ許容アランコトヲ

問 汝カ板垣退助ヲ暗殺スルニ付テハ黨類ア
カ

答 死ヲ共ニスヘキ朋友等モコレナク故ニ曾テ我
カ素志ヲ話シタルコトモナケレハ人ノ勸メヲ受
ケタルモノモナク黨類ハ一人タモ無之候

右陳述ノ次第ヲ録取シ被告人相原尚

聚ニ讀ミ聞ヘタル處相違ナキ旨申立ルニ由リ
共ニ署名捺印スル者也

相原尚聚
敬部柴田正直

書記
巡査名波角次

明治十五年四月六日

愛知縣愛知郡田代村百四十三番地士族
相原尚褧 二十七年十ヶ月 訊問口供抜抄

問 其方カ父母ノ姓名ハ何ト云フカ

答 自分父ハ仙友ト唱ヘ母ハかくト申兄弟ハ七人アリ自分ハ長男ニ席坐候

問 其方カ弟ハ何歳ニテ何ヲ致シ居ルカ

答 自分弟ハ二十二才ニシテ他家ヲ相続シ石橋尚宝ト申シ候

問 其次ノ弟ハ何ト云フカ

答 其次ノ弟ハ二十歳ニシテ齋藤家ヘ養子ニ参リ多分此頃ニテハ送籍相成リシヲト存セラレ候尤モ名前ハ尚友ト申候

問 其方旧藩ノ比ハドフ云フ身分ニテアリシカ

答 自分父ノ時代ニハ家禄本高百五十石役禄五十石併セテ二百石ヲ戴キ副家知事ト申ス役ヲ勤メ先リ中等ノ下等ナル士族ニ即座候

問 其方ハ旧藩ノ頃ニハ何カ勤メ居リシカ

答 何ニモ勤メ申サス候

問 其方ハ旧藩ノ頃ハ勤メヲ致サストモ其後官省府縣等ヘ役ヲ勤メシコトハナキカ

答 一切官途ニ就キシコトハ無之候

問 夫レデハ製作カ工業カ何カ會社エヲモ入リシコトハアリシカ

答 自分ノ性質ハ商法ヲ好マサル故右様ノコトヲ致シ又ハ入リタルコトハ無之候

問 其方カ父ハ此ニト學問セシコトハアルカ

答 日本外史位ハ一ト通リ讀ム得ルデアロートト存シ候何トナレハ幼少ノ比句讀ノ教授ヲ受ケタレ共其後ハ一向教ヘ貰ハサル故砕ト申上難ク候

問 其方カ師トシテ学問ノ教授ヲ受ケシハ誰ナルカ

答 自分カ師トシテ教授ヲ受ケシハ千種村ノ居住ニシテ国枝松宇ナル者ニ就キ足掛ケ五六年程漢学ノ教授ヲ受ケ候

問 其国枝松宇ナル者ノ學風ハ如何

答 專ラ經史ヲ尊フ学風ニシテ勤王ノ志有之キ人ニ有之候

問 其方ハ師範学校エハ何ッ頃入リシカ

答 明治十二年一月ヨリ愛知縣々立師範学校ニ入リ同十四年二月卒業致シ候

問 其方師範学校ニテハ何ヲ好ミテ学ヒシカ

答 歴史ト西洋ノ経済学ヲ好ミ又タ西洋ト日本ノ歴史ヲ学ヒ尤モ我國ノ歴史ヲ主トシテ研究致シタル次第ナリ

問 其方國学ヲ学ヒシコトハアルカ

答 國学即チ和学ハ我國ノ学問ニシテ一ト通リハ知ラサルベカラサルモノニ付相学ヒ候

問 其方ハ是マテ久シク他行致シタルコトハアルカ

答 十七八才ノ時名所旧跡ヲ探ルノ目的ニテ伊勢大和河内ノ諸國ヲ廻リ候

問 其後他國ヘ参リシコトハナキカ

答 明治八年間京摂ノ地方ヲ廻リ又タ西ハ阿蘇ヘ参リ同十年ニ帰國致シ其以来ハ尾張三河ノ間ニ居リ他既遠隔ノ地ヘハ出旅致サス候

問 其三河尾張ノ間ニ居リシハ何ノ為メナルカ

答 学校ノ教員ニテ学問ヲ教授致シ居リ候

問 其方ハ平生一体交際ヲ廣ク借フヲ好ムカ

答 自分交際ハ素ヨリ希望スル所ナシ尤モ乱雑ノ交際ハ余リ好ミ申サス候

問 左スレハ平生一身上又タ学問上ノ事ヲ談シ達フ親友ハアルカ

答 右様一身上ヲ噺スヘキ親友無之候

問 然ルモ交際ヲ望ムモノナシハ何シカニ親友ハアルモノナルカ如何

答 身分ニ於テ別頭ノ交リヲ結フヘキ程ノ者ハ無之候得共教育上ニ付テノ朋友知己ハ随分有之候

問 教育上ノ朋友知己ト云ヘハ名ヲ異カセシ程ノ知己ハアルカ

答 別ニ名ノ聞ヘタル学士紳士ノ内ニハ朋友知己ト云フ程ノ者ハ無之候

問 左スレハ新聞記者演説士等ニ朋友知己ハ有之ヤ

答 其様ナル朋友知己ハ更ニ無之又タ右記者説演士抔ト改談等ヲ公然トナスヨウナル更ニ無之何トナレハ師兼知ノ通集會条例ニ依リ為シ能ハサル身分ナレハナリ

問 然レハ勉カニ改談等ヲ致スニハ誰ト致スカ

答 政治上ノ思想ハ盡リ人ニ有ルモノニ付学友ト噺シタルヲハ有之候得共別ニ是レト云ツテ談論等ヲ致シタル義ハ無之候

問 夫レナレハ其方ハ私ニ何社又ハ何党ト唱フル社等ヘ入リシヲハナキカ

答 別ニ政党ニ加入スルヲハ勿論政事上ニ関スル社ヘ入リタルヲハ無之尤モ名古屋表ニテ小学教員等ヨリ成リ立タル郁ボク社ニ社入シタルヲハ有之候

問 今マ其社ハ如何セシカ

答 蒲焼町善通寺ト申ス寺ニアリタシ氏
今マ殆ント滅々ノ姿ニ有之候尤モ最初
社員ハ二百計有之候
問 其方政党ニ加ハラス改事上ノ思想カア
ル上ハ如何ナル主義ヲ尊奉スルカ
答 漸進主義ヲ奉スルモノナリ
問 漸進主義ニモ少シリ区別アルニ似タリ
其方カ信奉スル所ハ何レヲ取ルカ
答 詳細ノ事ニ至ツテハ取ラサル所モアレトモ
先ツ大体ニ於テハ此頃ノ立憲改黨ヲ
是トスルモノニ有之候
問 其方カ欽望スル所ノ人ハ如何ナル風ノ人
ヲ好ムカ

答 當世ノ人ハ棺ヲ蓋フハサシハ其節説ノ確
実ヲ得サルニ因テ申上ケ難シ先ツ文天祥ノ
如キ正忠ニシテ知略アル人ヲ欽望致シ候
問 其方カ知多郡横須賀学校ノ教員トナ
リシハ何ツ頃ナルカ
答 昨明治十四年十二月八日ニ有之候
問 其方ハ訓導拝命致シ居シカ
答 明治十四年二月卒業ノ上冊羽郡稲置村ノ
学校教員トナリ又其年ノ五月三河国南
設楽郡田原村学校教員トナリ十月ニ至リ
病ヒノ為メ二ケ月休ミ同十二月八日ニ至リ知
多郡横須賀村横須賀学校ヘ参リ都合
三度ノ変遷故ヘ訓導ナシ氏未タ辞令ヲ

受ケル時日ナキ故其辞令ハ受ケ居ラス尤モ
月給ハ稍置ニテハ九四田原ニテハ十四横須賀
ニテハ八円ニ有之候ヘトモ如ク横須賀ヘ参リ
シハ病気ノ為メ塩風ニ吹カレシヿヲ望ミシ
義ニ有之候

問 其方カ横須賀ノ学校ヲ出テシハ何日ナルカ

答 本年四月一日ニ有之殊ニ二日三日ハ休日ノヿ
ナレハ夫レヲ兼子家ニ帰ルト云ツテ同所ヲ
立出テ候

問 今回ノ事件ニ付テハ兼子ヲ同志ノ者ト共謀
シ或ハ他ヨリ誘導ヲ受ケテ為シタル義ニハ
無之ヤ斯ク如ク一大事件ヲ企ツルニハ單
獨ノ了簡ニテハ決シテ難カルヘシ此辺正実

ニ陳述セヨ

答 素ヨリ一身ヲ抛チ国家ノ為メニ如斯大事
ヲ企ツルニ何リ他人ノ誘導ヲ指令ニ従フヲ為
サンヤ若シ我レヨリ思ヒ立タスシテ人ヨリ教
令セラルヽモノナラハ君命ヲ除リノ外決シ
テ従フヘキ謂レナシ且ツ又兼テ申立ル如リ
昨年ノ十月此事ヲ思ヒ立チシヨリ以来明友
共ノ交際ヲ疎ニシ居ル様ノ次第ナレハ全リ
今回ノ事ハ自分一已ノ獨断ニ出テタルモノ
ナリ

問 柳モ汝カ板垣氏ヲ刺殺セント企意セシ所
ノ趣旨ハ如何ナル原由アリテノ事カ詳カニ
其趣旨ヲ陳述スヘシ

答 素トヨリ此事ヲ謀ルニ付テハ深キ趣旨アリテ
ノ事ナリ併シナカラ昨夜モ上申セシ通此
暗殺ノ旨趣ヲ申述ヘ為メニ世上ニ流布スル
ヤハ是シニ因テ大害ヲ生スヘキノ恐シ之レアル
ニ付東京ニ送致相成ルカ左ナキヤハ更ニ他
ニ漏レスシテ直ニ大臣参議ノ内ヘ此事ヲ達
シ得ラルヘキ充分ナル手段之レアルヿナシハ
素ヨリ陳述致スヘクナシ尼然ラサレハ此處
ニ於テ申立ルハ寧ニ自分カ詳述スルヲ苦
ムヿナリ

問 果シテ秘密ニ関シ世ニ害ヲ生スヘキ事柄ト
見認ムルヤハ是レヲ秘密ニスルノ方法ナ
キニ非ラス懸念ナリ申立ツヘシ

答 当夜ハ余程深更ニモナリ昨夜以来身体
非常ニ疲労致シ萬一陳述錯誤ノ義アリテハ不都合ニ付何卒明日迄所取調猶
豫セラレンヿヲ願フ
右ノ通陳述ノ次第ヲ録取シ讀聞ヘシ處相違無之旨申立ルニ依リ共ニ署名捺印スル者也

明治十五年四月七日

午後十二時終

相原尚褧

診斷書

板垣退助

右之者本月六日午後第七時神道中教院ニ於テ刺客ノ為メ重傷ヲ被ル旨ノ急報ニ由リ即時出診スルニ其各創部位狀況左ノ如シ

一顏面左側額骨下部ニ於テ縱經一〇八「センチメートル」ノ切創アリ

一右側胸廓前面第三肋間ニ於テ一〇六「センチメートル」ノ横位切創アリ該創ヨリ皮下結締織中ニ空氣竄入シ創圍廓ガ皮下氣腫ヲ発セリ

一左側胸廓前面第二肋間ニ於テ一〇三「セン

チメ——テル」ノ横位切創アリ

一右手第一中手骨間ニ於テ手背ヲ二「センチメ——テル」掛ケ手掌短拇屈筋腹ニ至ル長経六〇七「センチメ——テル」ノ切傷アリ此ノ創ヲ最モ重大ナルモノトス

一左手環指第二節尺骨側ヨリ背面ノ中央ニ至ル兵創アリ隅角直経一〇五「センチメ——テル」ヲ有ス

一右手掌尺骨側ニ於テ長経半「センチメ——テル」ノ皮膚創一箇アリ

一右手環指尖ニ於テ半「センチメ——テル」ノ皮膚兵創アリ

以上創所總計七箇ニシテ顔面一ヶ所胸部二ヶ所右手三ヶ所左手一ヶ所トス著シキ全身反應症ヲ認メス体温摂氏三十七度脈搏八十至ナリ各創ハ縫合或ハ絆創膏接合法等適宜ノ処治ヲ施シ置候豫後ハ未タ判然断決シ難シト雖胸部創ノ甚タ深カラスシテ肺臓及ト胸膜ニ損傷ナキト推察シ全身症軽易ナルヲ以テ考フレハ恐クハ幸ナランカ甫他宿病氣管枝加咎兒症アリテ時々咳嗽咯痰氣枝變音等ノ諸症アリ

右及診断夫也

岐阜縣病院副院長

西川默藏

明治十五年四月八日

岐阜輕罪裁判所

按事奥宮正治殿

調書

明治十五年四月八日午后一時十分岐阜輕罪裁判所ニ於テ被告人相原尚褧ニ對シ別紙二面ノ訊問ヲナシタリ

問今日ハ昨夜訊問セシ続キヲ取調ヘタル間正実ニ申立ツヘシ

答義知セリ

問其方ハ是迄東京表ヘ參リタルコトアリシヤ

答自分ハ是マテ東京表ヘ罷越シタルコトナシ

問左スレハ東京ニ在人ニ懇意ナル人ハ有之カ

答官途ニ就キ或ハ書生ニ知リ合ヒアレトモ別段懇親ニ

ル程ノ者ハ無之候

問其方カ所持シ居ル各種ノ新聞ハ其方一人ニテ取リ

居リシカ

答 学校等ニ於テ新聞ヲ見ルヿハ有之シモ自力ヲ以テ絶ヘス取リ居ル様ノ事ハ無之候尤自分所持セシ新聞ノ内東京日々新聞ヲ除リノ外ハ名古屋石叔舎ニ於テ買求メタルモノニ有之候

問 左スレハ昨夜申陳ヘシ四月三日旅店滞在ノ時閲覧スル図リニテ購求セシ者ナルカ

答 自分ハ平生各種ノ新聞ヲ聚文ケノ資力ハ無之候ヘ共名古屋等ヘ出ル片ハ必ス諸新聞ヲ閲覧スルヿヲ好ムモノニ付斯ノ如ク各種ノ新聞ヲ購求致シタル次第ナリ

問 一昨六日板垣退助氏ヲ暗殺セシ為メニ用ヒタル短剣ハ之レナルヤ（此時短剣ヲ示ス）

答 然リ其短剣ニ相違無之候（此時被告ハ篤ト見認メ承認ス）

問 右ノ短刀ハ何レニ於テ購求セシカ

答 兼テ陳述セシ通リ四月一日名古屋古渡ノ内一ノ鳥居ヨリ北西側ナル刀剣ヲ商フ店ニ於テ代價壱円三拾五銭ニテ購求シ其節請取ヲ取置キタシ旨ヲ今マハ紛失致シタルカ更ニ相見ヘス候

問 其方ハ板垣氏ヲ殺害スヘシト意念ヲ起セシハ何ツ頃ナルカ

答 自分カ板垣氏ヲ愈々暗殺スヘシト決心セシハ三月三十日ナレ共抑モ自分カ該事件ヲ謀ラント発意セシハ昨十四年十月十二日ノ聖詔ヲ拝シテヨリ斯リ国是ノ芝マリタル片ニ於テ尚自由急進ヲ競フノ徒アリテハ邦家ノ為メニ相成ラス大害ヲ生スヘシト存セ

シヨリ彼ノ徒ノ首領ナル板垣氏ヲ除キ禍乱ヲ未萌ニ防カントスルヨリ此事ヲ行ハントスルノ感覚ヲ生シタルナリ

問 其方ガ昨夜モ陳述セシ通リ朋友ノ為メニハ速慮アルカ如クナルモ甚タ不注意ニ似タルフアリ何トナレハ其方ノ言ヲ聞クニ此ノ暗殺ニ付テハ是非トモ其趣旨ヲ大臣方ニ通シ度キトノ存心ニアルヘシ然ルニ若シ暗殺場ニ於テ殺サル、時ハ其趣旨ヲ表白スルニ由ナカルヘシ夫レニ趣旨ヲ書キタルモノヲ残サス人ニモ言置カサルハ如何ノ趣旨ニテアリシカ

答 素ヨリ趣旨書ヲ携帯セント欲シタレトモ何分ニモ怒卒ノ間ニテ且ツ若シ携帯シテ発露センヲモ恐レタルカ故ニ趣旨書ヲ残サス尤モ私怨ニ非ス国家ノ為メニ謀リ暗殺ヲ行フ事ハ横須賀ニ於テ書キ残セシ手紙ト事ヲ行フ件将来ノ賊ト呼ハリタルトノ言ニテ自ラ相分ル可キト存シ居タリ

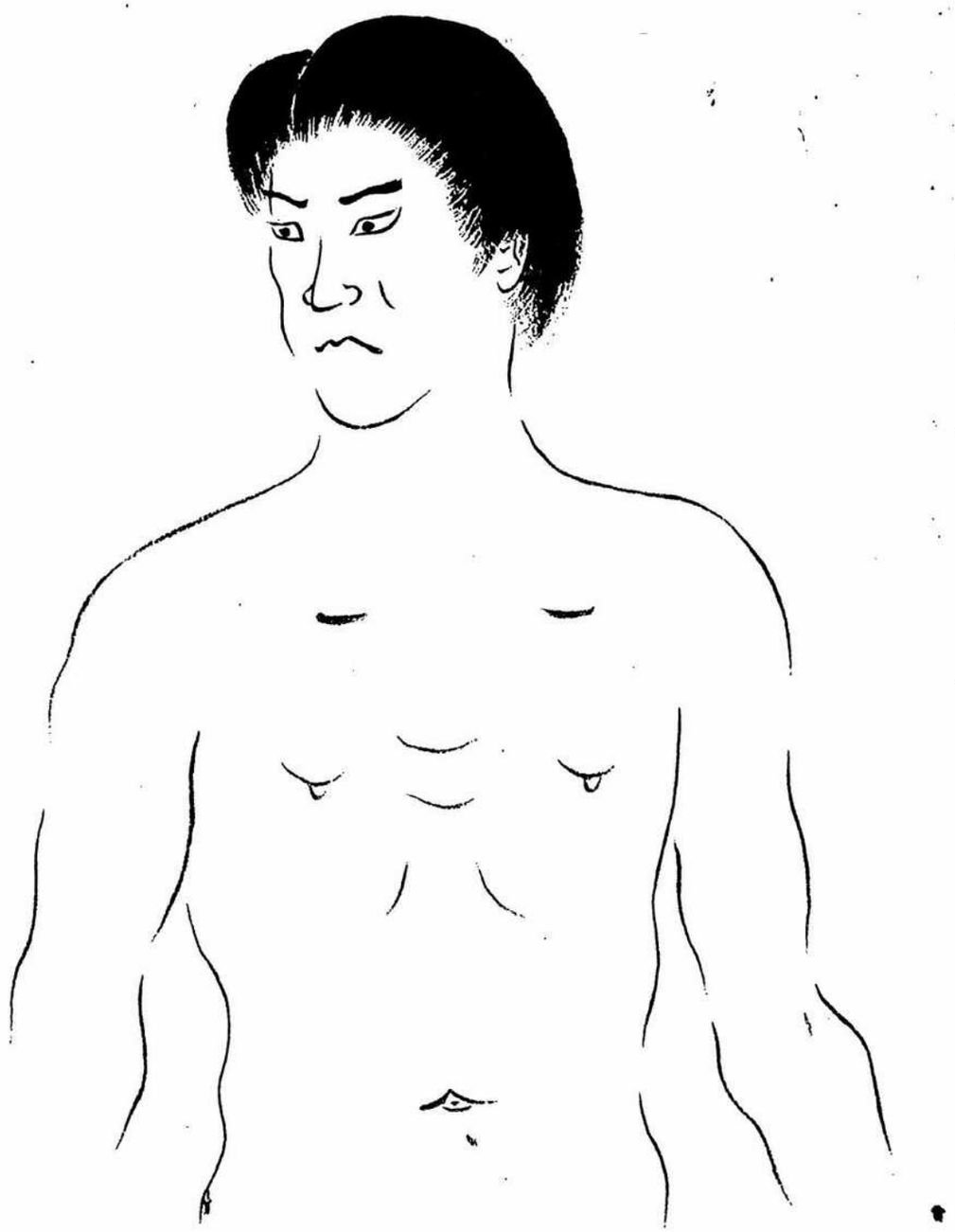
問 其方カ昨夜申述ヘシ書付ハ認メタルカ

答 別段昏付トニフ程ノ者ハ認メサレトモ覚ヘ書丈ケハ認メ候

問 其方ガ申立テントスル暗殺趣旨ハ専ラ事実ニ関スルカ又ハ想像論説ニ関スルヿカ

答 事実想像混交ノ事アリ故ニ願クハ人ヲ拂ヒ其事ヲ陳述致シ度ニ付此儀御許容アリタシ

右ノ通陳述ノ次第ヲ録取シ読ヲヘシ処相違無之旨申立ルニ付共ニ署名捺印スルモノナリ



明治五年胃谷午後二時終ル

相原尚褧拇印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙改年影令必崎利準ヨリノ通知相原
尚聚板垣退助ヲ暗殺セントシタル男未每
於滋潤書ハ仕廻置候也

十五年子月廿三日　内閣書記官

太政大臣印
左大臣印
右大臣印
大本営印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

山田主税殿
西郷主税殿
井上主税殿
山田主税殿
村木主税殿
大山主税殿
川村主税殿
[illegible]主税殿
佐野主税殿

大政官

二

板垣退助岐阜縣ヘ於テ奮発ノ為ニ傷
ノ処未岐阜ニ入ル之道ヲ失ヒ仆
電報ヲ以テ
明治五年四月十日　山縣有朋　西郷隆盛　桂小五郎

右改正之儀宜敷

大政官